

西東京市
農業振興計画策定に係る調査・報告書

令和5年3月

西東京市

西東京市農業振興計画策定に係る調査・報告書目次

1. 報告書の概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査内容	1
2. アンケート調査等結果	2
(1) 農業者意向調査	2
(2) 市民意向調査	47
(3) 子どもアンケート調査	87
(4) 農業者ヒアリング調査	97
(5) 若者ワークショップ	109
3. アンケート票	113
(1) 農業者アンケート票	113
(2) 市民アンケート票	124
(3) 子どもアンケート票	132

1. 報告書の概要

(1) 調査の目的

第2次西東京市農業振興計画については、平成26年度から平成35年度までの10年間の農業施策を明らかにし、その推進を図ってきた。

この度、西東京市第3次総合計画の策定に合わせ、令和6年度を計画初年度とする第3次西東京市農業振興計画（計画期間：令和6年度から令和15年度）を策定する。

本調査は、西東京市における農業振興施策の目標及び問題点を把握し、農業を取り巻く状況を踏まえて、新たな農業振興計画策定に向けた基礎資料とすることを目的とする。

(2) 調査内容

調査の目的を踏まえ、以下の調査を実施した。

① アンケート調査による分析

農業者、市民、若い世代の意見・意向を農業振興の策定に役立てるために、農業者意向調査、市民意向調査、子どもアンケートを実施し、統計処理を行った。

② ヒアリング調査による分析

アンケート調査による統計処理のみでは把握できない事項を補足するために、市内の農業者、農業団体へのヒアリングにより、農業の現状と課題、各種農業施策の展開についての検討を行った。

③ 若者ワークショップ実施内容

アンケート調査による統計処理のみでは把握できない事項を補足するために、高校生・大学生の意見を聞き、今後の農業振興施策策定の資料とする。

2. アンケート調査等結果

(1) 農業者意向調査

ア アンケート概要

項目	内容
目的	・農業者の営農の状況、今後の営農意向、具体的な農地・農業に対するニーズ、関わり方・活用法などに対する要望・課題を把握、今後の西東京市の農業の方向性を検討
調査対象	・農業者 260 名
配布回収方法	・農業委員会を通じての配布回収（令和 4 年 12 月 20 日～令和 5 年 1 月 16 日）
回収数	・234 件（回収率 90.0%）
設問概要	<p>【属性】 問 1：年齢 問 2：性別 問 3：家族構成 問 4：居住地 問 5：後継者の状況 問 6：農業従事者の年間の従事日数</p> <p>【農業経営の現状】 問 7：営農種類 問 8：年間の農業所得額と農業所得以外の所得額 問 9：年間の農業所得の過去 5 年間の変化 問 10：これからの農業や農地が持つ役割 問 11：農業収入を安定させるために今後取り組んでいきたいこと 問 12：新たな農業の展開に向けて関心のあるもの</p> <p>【過去 5 年間の農業施策】 問 13：事業の実施内容・状況の満足度、重要度</p> <p>【農業者への支援策】 問 14：市内産農産物キャラクター（めぐみちゃん）の活用状況 問 15：農業者への支援の対象についての考え 問 16：今後の農業者に係る支援</p> <p>【農産物の販売（庭先販売、マルシェ出店等）】 問 17：今後の直売所（庭先販売等）やマルシェ出店等に関する考え</p> <p>【学校給食】 問 18：学校給食での地場農産物利用についての考え</p> <p>【量販店や小売店への販売、契約販売等】 問 19：量販店や小売店への販売、契約販売等についての状況</p> <p>【農業の担い手】 問 20：認定農業者制度の認定状況 問 21：農作業の人員確保状況 問 22：援農ボランティアの受け入れについての考え</p> <p>【農地の状況】 問 23：耕作農地の規模 問 24：農地保全・活用の課題</p>

	問 25：生産緑地の貸借についての考え 【農業を通じた市民等との交流】 問 26：農業を通じた市民等との交流にあたって、効果的なこと 【環境に配慮した農業】 問 27：有機農業など環境に配慮した農業についての考え 問 28：有機農業など環境に配慮した農業に取り組むことの課題 【その他】 問 29：自由意見
--	---

※アンケート結果の比率は、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しているため、百分率の合計が 100.0%にならないことがあります。

イ アンケート結果

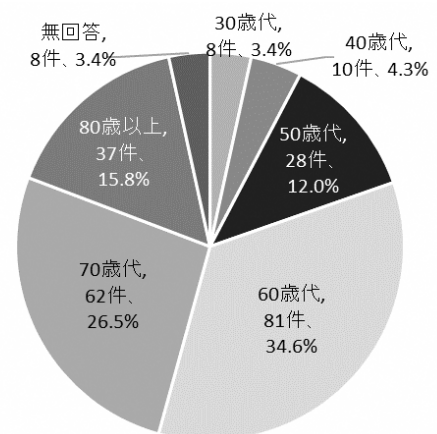
1 あなたとご家族のことについてお伺いします。

問1 あなたの年齢を教えてください。(単一回答)

○回答者の年齢として、「60 歳代」が最も多く (34.6%)、次いで、「70 歳代」(26.5%)、「80 歳以上」(15.8%)、「50 歳代」(12.0%) と続く。

項目	件数	割合
(1)20 歳代	0	0.0%
(2)30 歳代	8	3.4%
(3)40 歳代	10	4.3%
(4)50 歳代	28	12.0%
(5)60 歳代	81	34.6%
(6)70 歳代	62	26.5%
(7)80 歳以上	37	15.8%
(8)無回答	8	3.4%

n=234

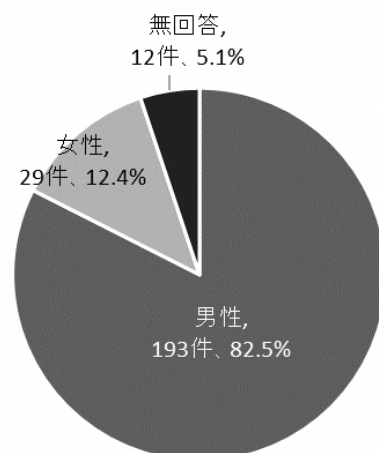


問2 あなたの性別を教えてください。(単一回答)

○回答者の性別は、「男性」が 82.5%、「女性」が 12.4%である。

項目	件数	割合
(1)男性	193	82.5%
(2)女性	29	12.4%
(3)答えたくない	0	0.0%
(4)無回答	12	5.1%

n=234

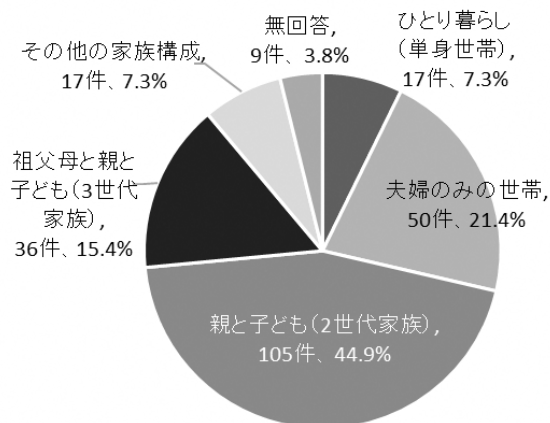


問3 あなたの家族（同居されている方）の構成について教えてください。（単一回答）

○回答者の家族構成として、「親と子どもの2世代家族」が最も多く（44.9%）、次いで、「夫婦のみの世帯」（21.4%）となっている。

項目	件数	割合
(1)ひとり暮らし（単身世帯）	17	7.3%
(2)夫婦のみの世帯	50	21.4%
(3)親と子どもの2世代家族	105	44.9%
(4)祖父母と親と子供の3世代家族	36	15.4%
(5)その他の家族構成	17	7.3%
(6)無回答	9	3.8%

n=234



問4 あなたのお住まいを教えてください。（単一回答）

○回答者のお住まいとしては、「向台町」が最も多く（12.0%）、次いで、「芝久保町」（7.7%）、「北町」（7.7%）、「中町」（7.3%）、「西原町」（6.0%）の順となっている。

項目	件数	割合	項目	件数	割合
(1)田無町	4	1.7%	(13)富士町	13	5.6%
(2)南町	11	4.7%	(14)中町	17	7.3%
(3)西原町	14	6.0%	(15)東町	10	4.3%
(4)緑町	1	0.4%	(16)泉町	10	4.3%
(5)谷戸町	4	1.7%	(17)住吉町	11	4.7%
(6)北原町	4	1.7%	(18)ひばりが丘	0	0.0%
(7)向台町	28	12.0%	(19)ひばりが丘北	1	0.4%
(8)芝久保町	18	7.7%	(20)栄町	13	5.6%
(9)新町	12	5.1%	(21)北町	18	7.7%
(10)柳沢	11	4.7%	(22)下保谷	13	5.6%
(11)東伏見	5	2.1%	(23)不明	9	3.8%
(12)保谷町	7	3.0%			

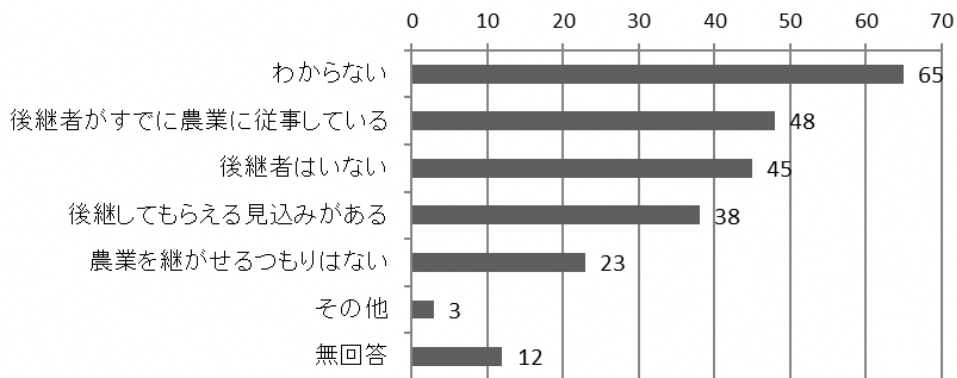
n=234

問5 あなた（主に農業に従事されている方）の農業後継者の状況について教えてください。（単一回答）

- 回答者の後継者の状況として、「わからない」が最も多く（27.8%）、次いで、「後継者がすでに農業に従事している」（20.5%）、「後継者はいない」（19.2%）となっている。
- 後継者がいる、もしくは予定がある回答者が、40%も満たない。
- 前回の調査では、「後継者がすでに農業に従事している」との回答割合が多かったが、今回は「わからない」に次ぐ回答割合であった。また、「後継者はいない」との回答割合が減っているが、「農業を継がせるつもりはない」の回答割合が増えている。

項目	今回		前回（H30）
	件数	割合	割合
(1)後継者がすでに農業に従事している	48	20.5%	29.2%
(2)後継してもらえる見込みがある	38	16.2%	23.9%
(3)農業を継がせるつもりはない	23	9.8%	7.1%
(4)後継者はいない	45	19.2%	23.9%
(5)わからない	65	27.8%	13.3%
(6)その他	3	1.3%	0.9%
(7)無回答	12	5.1%	1.8%

n=234

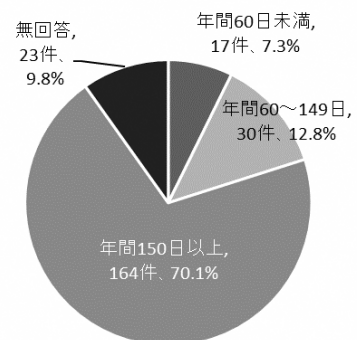


問6 あなたと家族（同居されている方）のおおむねの年間の従事日数を記入してください。

- 回答者本人の年間の農業従事日数は、「年間150日以上」が最も多く、回答者の約7割を占める。
- 本人以外の従事者についても、「年間150日以上」が最も多く、約4~5割を占める。

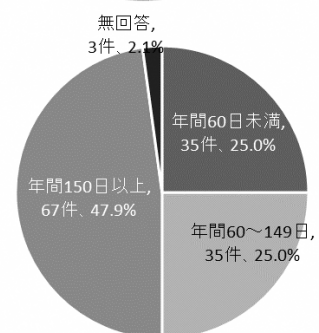
(本人) (n=234)

項目	件数	割合
(1)年間60日未満	17	7.3%
(2)年間60日~149日	30	12.8%
(3)年間150日以上	164	70.1%
(4)無回答	23	9.8%



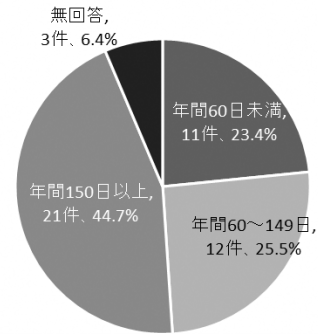
(本人以外) 続柄：妻/夫 (n=140)

項目	件数	割合
(1)年間60日未満	35	25.0%
(2)年間60日~149日	35	25.0%
(3)年間150日以上	67	47.9%
(4)無回答	3	2.1%



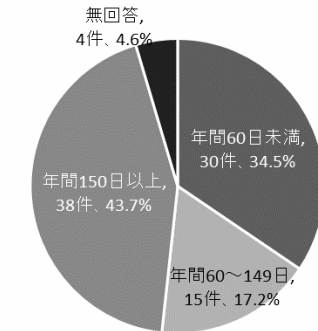
(本人以外) 続柄：父・義父/母・義母 (n=47)

項目	件数	割合
(1)年間 60 日未満	11	23.4%
(2)年間 60 日～149 日	12	25.5%
(3)年間 150 日以上	21	44.7%
(4)無回答	3	6.4%



(本人以外) 続柄：息子/娘 (n=87)

項目	件数	割合
(1)年間 60 日未満	30	34.5%
(2)年間 60 日～149 日	15	17.2%
(3)年間 150 日以上	38	43.7%
(4)無回答	4	4.6%



2 農業経営の現状についてお伺いします。

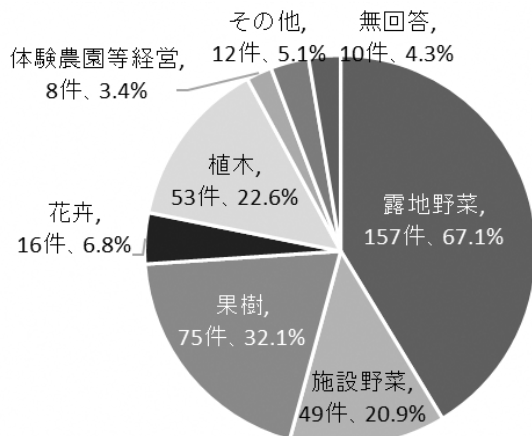
問7 あなたの営農種類について教えてください。(複数回答)

- 回答者の営農種類としては、「露地野菜」が最も多く、全体の 67.1%を占める。次いで、「果樹」(32.1%)、「植木」(22.6%)、「施設野菜」(20.9%)と続く。
- 回答者の年齢別に見ると、「露地野菜」、「施設野菜」、「果樹」、「植木」、「農園経営等(農業体験農園、観光農園等)」は「60歳代」が最も多い。また、「花卉」は「70歳代」が最も多い。
- 前回と比べ、「農園経営等」、「果樹」、「花卉」が増えている。

< 営農種類すべて >

項目	今回		前回 (H30)
	件数	割合	割合
(1)露地野菜	157	67.1%	70.8%
(2)施設野菜	49	20.9%	21.2%
(3)果樹	75	32.1%	26.5%
(4)花卉	16	6.8%	4.4%
(5)植木	53	22.6%	23.9%
(6)農園経営等(農業体験農園、観光農園等)	8	3.4%	0.9%
(7)その他	12	5.1%	1.8%

n=234



その他：きのこ類/芝生 等

<年齢（問1）とのクロス>

項目		30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳～
(1)露地野菜	件数	5	10	23	51	38	8
	割合	62.5%	100.0%	82.1%	63.0%	61.3%	81.1%
(2)施設野菜	件数	2	1	10	19	9	8
	割合	25.0%	10.0%	35.7%	23.5%	14.5%	21.6%
(3)果樹	件数	3	5	8	23	21	14
	割合	37.5%	50.0%	28.6%	28.4%	33.9%	37.8%
(4)花卉	件数	1	0	3	4	5	3
	割合	12.5%	-	10.7%	4.9%	8.1%	8.1%
(5)植木	件数	0	0	6	25	18	4
	割合	-	-	21.4%	30.9%	29.0%	10.8%
(6)農園経営等(農業体験 農園、観光農園等)	件数	1	0	3	4	0	0
	割合	12.5%	-	10.7%	4.9%	-	-
(7)その他	件数	0	0	1	3	2	6
	割合	-	-	3.6%	3.7%	3.2%	16.2%

問8 あなたの家の年間の農業所得と農業所得以外の所得を、教えてください。(単一回答)

(※所得は収入から必要経費(家族労働費を除く)を除いたもの)

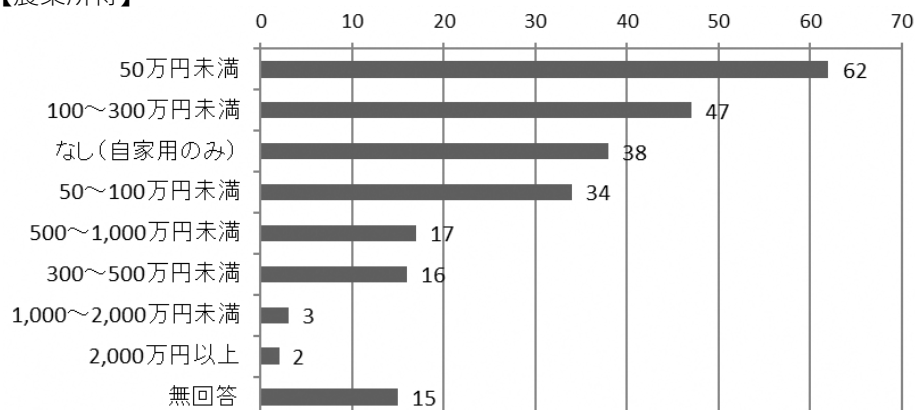
- 農業所得では、「50万円未満」が最も多く(26.5%)、次いで、「100～300万円未満」(20.1%)、「なし(自家用のみ)」(16.2%)の順となっている。
- 前回と比べ、「なし(自家用のみ)」と「500～1,000万円未満」の回答割合が増えている。

農業所得

項目	今回		前回(H30)
	件数	割合	割合
(1)なし(自家用のみ)	38	16.2%	13.3%
(2)50万円未満	62	26.5%	31.9%
(3)50～100万円未満	34	14.5%	15.0%
(4)100～300万円未満	47	20.1%	21.2%
(5)300～500万円未満	16	6.8%	8.0%
(6)500～1,000万円未満	17	7.3%	5.3%
(7)1,000～2,000万円未満	3	1.3%	1.8%
(8)2,000万円以上	2	0.9%	1.8%
(9)無回答	15	6.4%	1.8%

n=234

【農業所得】



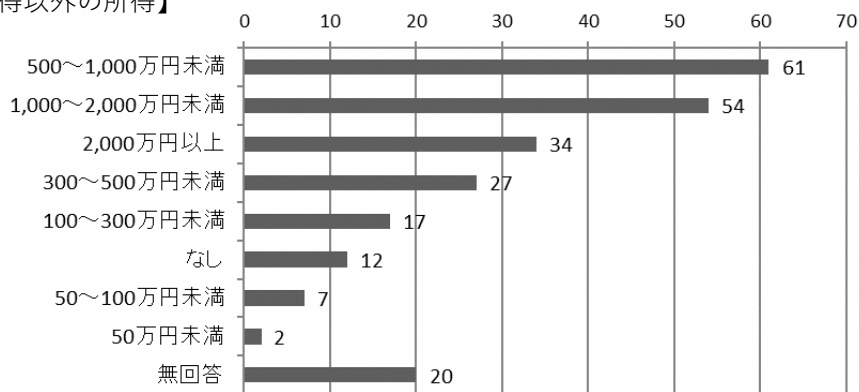
○農業所得以外の所得では、「500～1,000 万円未満」が最も多く（26.1%）、次いで、「1,000～2,000 万円未満」（23.1%）、「2,000 万円以上」（14.5%）の順となっており、農業所得以外の所得が、総所得の多くの部分を占める回答者が多い。

農業所得以外の所得

項目	今回		前回 (H30)
	件数	割合	割合
(1)なし	12	5.1%	2.7%
(2)50 万円未満	2	0.9%	0.9%
(3)50～100 万円未満	7	3.0%	2.7%
(4)100～300 万円未満	17	7.3%	7.1%
(5)300～500 万円未満	27	11.5%	11.5%
(6)500～1,000 万円未満	61	26.1%	30.1%
(7)1,000～2,000 万円未満	54	23.1%	23.9%
(8)2,000 万円以上	34	14.5%	19.5%
(9)無回答	20	8.5%	1.8%

n=234

【農業所得以外の所得】

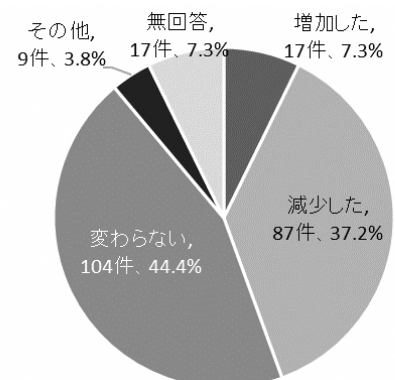


問9 あなたの家の年間の農業所得（収入から必要経費（家族労働費を除く）を除いたもの）について、過去5年間での変化を教えてください。（単一回答）

- 過去5年間の年間の農業所得の変化について、「変わらない」（44.4%）との回答が最も多く、次いで、「減少した」（37.2%）の順となっている。「増加した」との回答割合は1割弱である。
- 回答者の農業所得別に見ると、農業所得が「50万円未満」、「300～500万円未満」、「1,000～2,000万円未満」の農業者で、過去5年間の農業所得が「減少した」との回答割合が高くなっている。
- 回答者の農地面積別に見ると、農地面積が「5a未満」、「100a～150a未満」、「300a～500a未満」の農業者で、過去5年間の農業所得が「減少した」との回答割合が高くなっている。
- 前回と比べ、「増加した」との回答割合が減り、「減少した」との回答割合が増えている。

項目	今回		前回 (H30)
	件数	割合	割合
(1)増加した	17	7.3%	13.3%
(2)減少した	87	37.2%	34.5%
(3)変わらない	104	44.4%	45.1%
(4)その他	9	3.8%	2.7%
(5)無回答	17	7.3%	4.4%

n=234



<農業所得（問8）とのクロス>

項目		50万円未満	50～100万円未満	100～300万円未満	300～500万円未満	500～1,000万円未満	1,000～2,000万円未満	2,000万円以上
(1)増加した	件数	2	2	3	4	4	0	1
	割合	3.2%	5.9%	6.4%	25.0%	23.5%	-	50.0%
(2)減少した	件数	34	11	20	6	4	2	0
	割合	54.8%	32.4%	42.6%	37.5%	23.5%	66.7%	-
(3)変わらない	件数	24	19	23	5	9	1	1
	割合	38.7%	55.9%	48.9%	31.3%	52.9%	33.3%	50.0%
(4)その他	件数	1	0	1	0	0	0	0
	割合	1.6%	-	2.1%	-	-	-	-

<農地面積（問23）とのクロス>

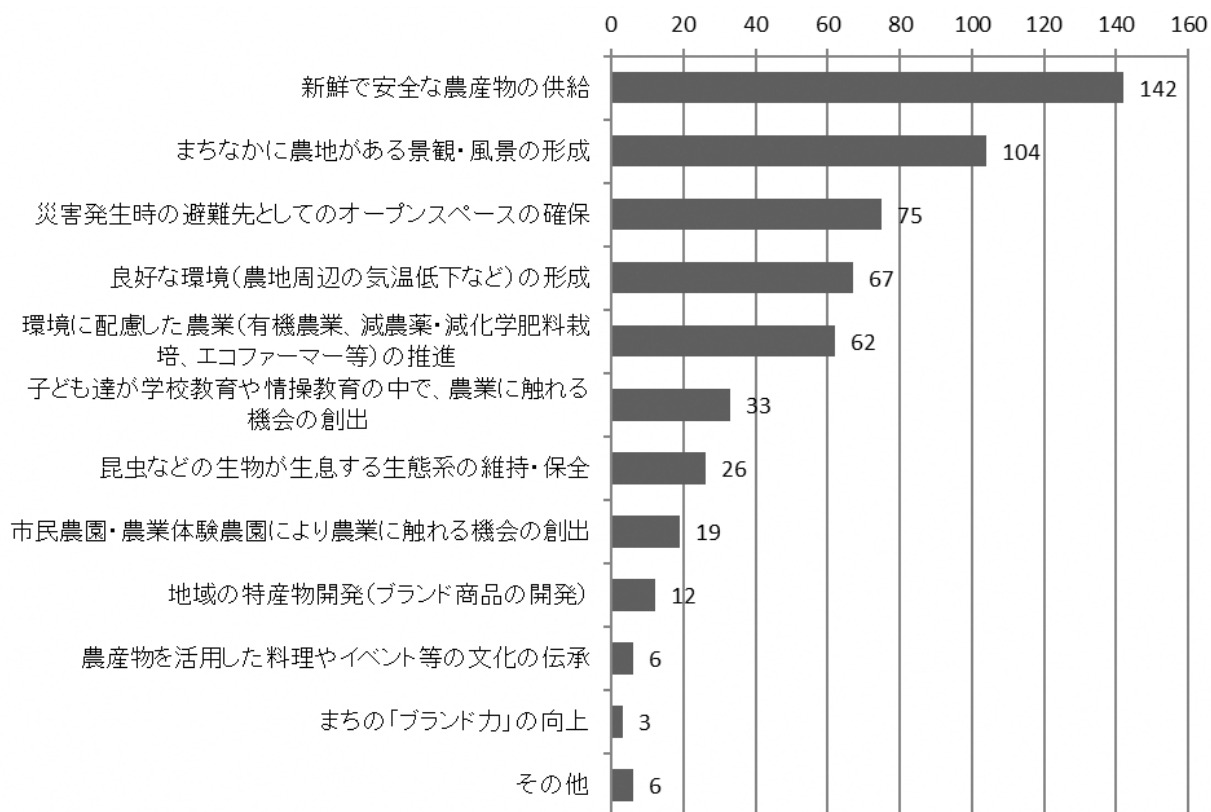
項目		5a未満	5a～30a未満	30a～50a未満	50a～100a未満	100a～150a未満	150a～200a未満	200a～300a未満	300a～500a未満	500a以上
(1)増加した	件数	0	4	2	7	1	1	1	0	0
	割合	-	5.6%	4.8%	12.5%	11.1%	12.5%	25.0%	-	-
(2)減少した	件数	7	26	17	18	8	2	0	2	0
	割合	46.7%	36.6%	40.5%	32.1%	88.9%	25.0%	-	100.0%	-
(3)変わらない	件数	5	33	20	29	0	3	3	0	4
	割合	33.3%	46.5%	47.6%	51.8%	-	37.5%	75.0%	-	100.0%
(4)その他	件数	2	4	1	1	0	1	0	0	0
	割合	13.3%	5.6%	2.4%	1.8%	-	12.5%	-	-	-

問10 農業・農地には市民にとって食の安全安心の確保や防災など、暮らしを守る機能が期待されています。あなたが農業を営む上で、これからの農業や農地が持つ役割についてどのようなことが重要か、お考えをお聞かせください。（複数回答：3つまで）

- 農業や農地が持つ役割について重要なこととして、「新鮮で安全な農産物の供給」（60.7%）が最も多く、次いで、「まちなかに農地がある景観・風景の形成」（44.4%）、「災害発生時の避難先としてのオープンスペース確保」（32.1%）、「良好な環境（農地周辺の気温低下など）の形成」（28.6%）、「環境に配慮した農業（有機農業、減農薬・減化学肥料栽培、エコファーマー等）の推進」（26.5%）の順となっている。
- 前回と比べ、「まちなかに農地がある景観・風景の形成」、「環境に配慮した農業の推進」、「昆虫などの生物が生息する生態系の維持・保全」、「農産物を活用した料理やイベント等の文化の伝承」との回答割合が上がっている。

項目	今回		前回(H30)
	件数	割合	割合
(1)新鮮で安全な農産物の供給	142	60.7%	63.7%
(2)まちなかに農地がある景観・風景の形成	104	44.4%	35.4%
(3)環境に配慮した農業（有機農業、減農薬・減化学肥料栽培、エコファーマー等）の推進	62	26.5%	13.3%
(4)良好な環境（農地周辺の気温低下など）の形成	67	28.6%	33.6%
(5)昆虫などの生物が生息する生態系の維持・保全	26	11.1%	7.1%
(6)災害発生時の避難先としてのオープンスペース確保	75	32.1%	34.5%
(7)市民農園・農業体験農園により農業に触れる機会の創出	19	8.1%	11.5%
(8)子ども達が学校教育や情操教育の中で、農業に触れる機会の創出	33	14.1%	15.0%
(9)地域の特産物開発(ブランド商品の開発)	12	5.1%	5.3%
(10)農産物を活用した料理やイベント等の文化の伝承	6	2.6%	1.8%
(11)まちの「ブランド力」の向上	3	1.3%	1.8%
(12)その他	6	2.6%	1.8%

n=234



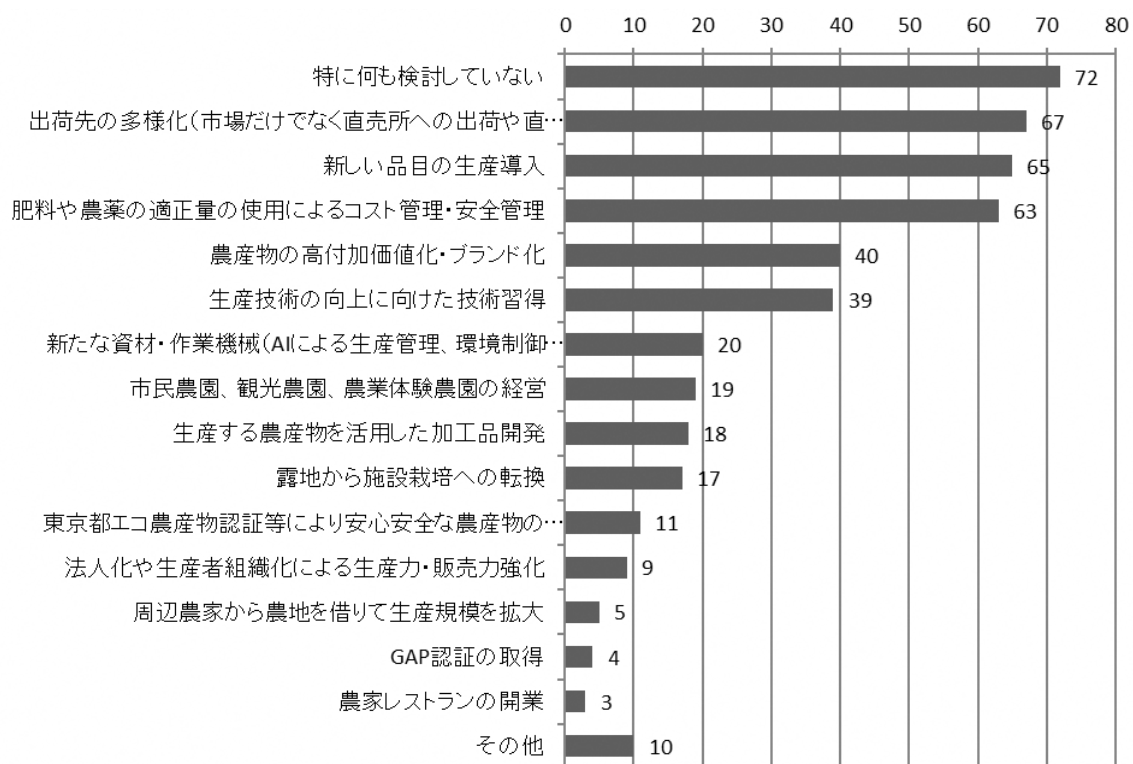
問 11 農業収入を安定させるために、今後取り組んでいきたいことを教えてください。(複数回答)

- 今後取り組んでいきたいこととして、「特に何も検討していない」(30.8%)が最も多く、次いで、「出荷先の多様化(市場だけでなく直売所への出荷や直販、契約栽培の実施)」(28.6%)、「新しい品目の生産導入」(27.8%)、「肥料や農薬の適正量の使用によるコスト管理・安全管理」(26.9%)の順となっている。
- 回答者の農業所得別に見ると、農業所得が「50万円未満」の農業者では、「特に何も検討していない」との回答割合が高くなっているが、「100～300万円未満」、「300～500万円未満」、「1,000～2,000万円未満」の農業者では、「出荷先の多様化」との回答割合が、「50～100万円未満」、「500～1,000万円未満」の農業者では、「新しい品目の生産導入」との回答割合が、「2,000万円以上」の農業者では「農産物の高付加価値化・ブランド化」との回答割合が高くなっている。
- 農業所得が低い農業者ほど、「特に何も検討していない」との回答が多い。
- 前回と比べ、「出荷先の多様化」、「肥料や農薬の適正量の使用によるコスト管理・安全管理」、「周辺農家から農地を借りて生産規模を拡大」、「法人化や生産者組織化による生産力・販売力強化」との回答割合が上がっている。

項目	今回		前回(H30)
	件数	割合	割合
(1)出荷先の多様化(市場だけでなく直売所への出荷や直販、契約栽培の実施)	67	28.6%	28.3%
(2)農産物の高付加価値化・ブランド化	40	17.1%	19.5%
(3)新しい品目の生産導入	65	27.8%	-
(4)露地から施設栽培への転換	17	7.3%	9.7%
(5)新たな資材・作業機械(AIによる生産管理、環境制御等)の導入による生産力向上	20	8.5%	24.8%
(6)生産技術の向上に向けた技術習得	39	16.7%	22.1%
(7)肥料や農薬の適正量の使用によるコスト管理・安全管理	63	26.9%	16.8%
(8)東京都エコ農産物認証等により安心安全な農産物の生産	11	4.7%	6.2%
(9) GAP 認証の取得	4	1.7%	4.4%
(10)生産する農産物を活用した加工品開発	18	7.7%	8.0%
(11)農家レストランの開業	3	1.3%	2.7%
(12)周辺農家から農地を借りて生産規模を拡大	5	2.1%	0.9%
(13)法人化や生産者組織化による生産力・販売力強化	9	3.8%	2.7%
(14)市民農園、観光農園、農業体験農園の経営	19	8.1%	14.2%
(15)特に何も検討していない	72	30.8%	32.7%
(16)その他	10	4.3%	1.8%

n=234

[(16)その他] の具体的な項目：
収穫体験／営農種類の追加 等



< 農業所得（問 8）とのクロス >

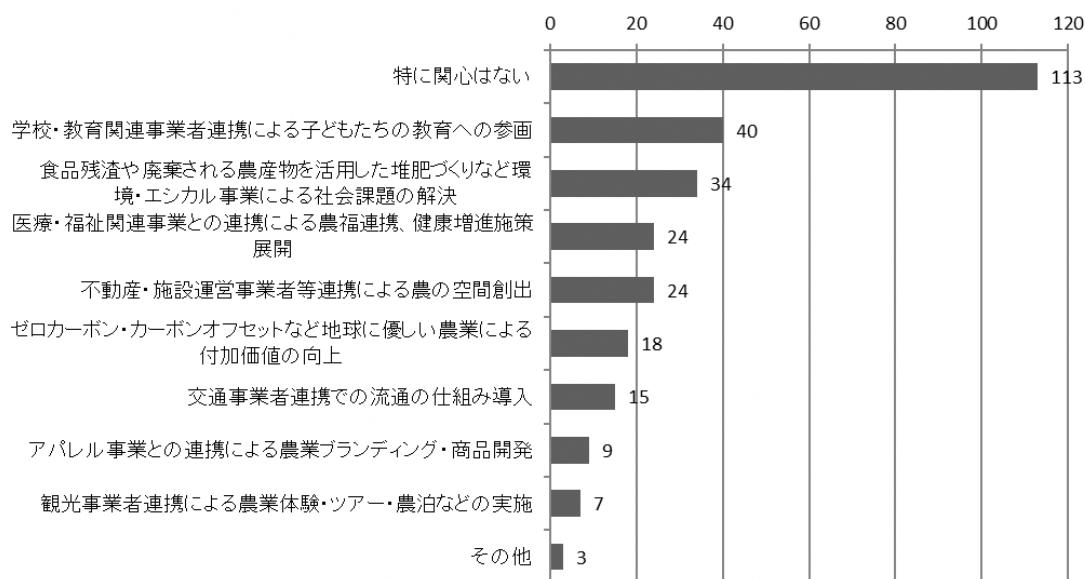
項目		なし	50万円未満	50~100万円未満	100~300万円未満	300~500万円未満	500~1,000万円未満	1,000~2,000万円未満	2,000万円以上
(1)出荷先の多様化(市場だけでなく直売所への出荷や直販、契約栽培の実施)	件数	4	13	11	17	10	8	2	0
	割合	10.5%	21.0%	32.4%	36.2%	62.5%	47.1%	66.7%	-
(2)農産物の高付加価値化・ブランド化	件数	0	12	3	13	3	5	1	2
	割合	-	19.4%	8.8%	27.7%	18.8%	29.4%	33.3%	100.0%
(3)新しい品目の生産導入	件数	3	14	12	16	6	11	1	1
	割合	7.9%	22.6%	35.3%	34.0%	37.5%	64.7%	33.3%	50.0%
(4)露地から施設栽培への転換	件数	0	3	1	2	4	4	1	1
	割合	-	4.8%	2.9%	4.3%	25.0%	23.5%	33.3%	50.0%
(5)新たな資材・作業機械 (AIによる生産管理、環境制御等) の導入による生産力向上	件数	1	4	1	7	3	3	0	1
	割合	2.6%	6.5%	2.9%	14.9%	18.8%	17.6%	-	50.0%
(6)生産技術の向上に向けた技術習得	件数	2	11	4	10	7	5	0	0
	割合	5.3%	17.7%	11.8%	21.3%	43.8%	29.4%	-	-
(7)肥料や農薬の適正量の使用によるコスト管理・安全管理	件数	5	15	11	14	7	8	1	0
	割合	13.2%	24.2%	32.4%	29.8%	43.8%	47.1%	33.3%	-
(8)東京都エコ農産物認証等により安心安全な農産物の生産	件数	1	4	1	2	0	1	1	0
	割合	2.6%	6.5%	2.9%	4.3%	-	5.9%	33.3%	-
(9) GAP 認証の取得	件数	0	2	0	1	1	0	0	0
	割合	-	3.2%	-	2.1%	6.3%	-	-	-
(10)生産する農産物を活用した加工品開発	件数	1	7	5	1	1	2	0	1
	割合	2.6%	11.3%	14.7%	2.1%	6.3%	11.8%	-	50.0%
(11)農家レストランの開業	件数	0	2	1	0	0	0	0	0
	割合	-	3.2%	2.9%	-	-	-	-	-
(12)周辺農家から農地を借りて生産規模を拡大	件数	0	1	0	1	2	1	0	0
	割合	-	1.6%	-	2.1%	12.5%	5.9%	-	-
(13)法人化や生産者組織化による生産力・販売力強化	件数	0	1	2	0	5	0	0	1
	割合	-	1.6%	5.9%	-	31.3%	-	-	50.0%
(14)市民農園、観光農園、農業体験農園の経営	件数	1	5	4	2	5	2	0	0
	割合	2.6%	8.1%	11.8%	4.3%	31.3%	11.8%	-	-
(15)特に何も検討していない	件数	25	19	9	11	2	2	1	0
	割合	65.8%	30.6%	26.5%	23.4%	12.5%	11.8%	33.3%	-
(16)その他	件数	0	4	2	2	1	1	0	0
	割合	-	6.5%	5.9%	4.3%	6.3%	5.9%	-	-

問 12 新たな農業の展開に向けて、民間事業者等との連携や実証に関心のあるものについて教えてください。
(複数回答：3つまで)

- 民間事業者等との連携や実証に関心のあるものについて、「特に関心はない」(48.3%) が最も多く、次いで、「学校・教育関連事業者連携による子どもたちの教育への参画」(17.1%)、「食品残渣や廃棄される農産物を活用した堆肥づくりなど環境・エシカル事業による社会課題の解決」(14.5%) の順となっている。
- 回答者の農業所得別に見ると、農業所得が「300~500万円未満」、「500~1,000万円未満」の農業者では、「学校・教育関連事業者連携による子どもたちの教育への参画」との回答割合が高くなっている。
- 回答者の農地面積別に見ると、「150~200a 未満」、「300~500a 未満」の農業者では、「学校・教育関連事業者連携による子どもたちの教育への参画」との回答割合が高くなっている。

項目	件数	割合
(1)観光事業者連携による農業体験・ツアー・農泊などの実施	7	3.0%
(2)医療・福祉関連事業との連携による農福連携、健康増進施策展開	24	10.3%
(3)アパレル事業との連携による農業ブランディング・商品開発	9	3.8%
(4)交通事業者連携での流通の仕組み導入	15	6.4%
(5)不動産・施設運営事業者等連携による農の空間創出	24	10.3%
(6)学校・教育関連事業者連携による子どもたちの教育への参画	40	17.1%
(7)ゼロカーボン・カーボンオフセットなど地球に優しい農業による付加価値の向上	18	7.7%
(8)食品残渣や廃棄される農産物を活用した堆肥づくりなど環境・エシカル事業による社会課題の解決	34	14.5%
(9)特に関心はない	113	48.3%
(10)その他	3	1.3%

n = 234



<農業所得（問8）とのクロス>

項目		なし	50万円未満	50~100万円未満	100~300万円未満	300~500万円未満	500~1,000万円未満	1,000~2,000万円未満	2,000万円以上
		件数	0	2	3	0	2	0	0
割合	-	3.2%	8.8%	-	12.5%	-	-	-	
(2) 医療・福祉関連事業との連携による農福連携、健康増進施策展開	件数	5	5	4	2	3	2	0	0
割合	13.2%	8.1%	11.8%	4.3%	18.8%	11.8%	-	-	
(3) アパレル事業との連携による農業ブランディング・商品開発	件数	1	2	0	1	4	1	0	0
割合	2.6%	3.2%	-	2.1%	25.0%	5.9%	-	-	
(4) 交通事業者連携での流通の仕組み導入	件数	1	0	3	1	5	2	1	1
割合	2.6%	-	8.8%	2.1%	31.3%	11.8%	33.3%	50.0%	
(5) 不動産・施設運営事業者等連携による農の空間創出	件数	4	8	6	2	0	2	0	1
割合	10.5%	12.9%	17.6%	4.3%	-	11.8%	-	50.0%	
(6) 学校・教育関連事業者連携による子どもたちの教育への参画	件数	4	7	6	9	8	5	0	0
割合	10.5%	11.3%	17.6%	19.1%	50.0%	29.4%	-	-	
(7) ゼロカーボン・カーボンオフセットなど地球に優しい農業による付加価値の向上	件数	0	10	1	4	0	2	0	0
割合	-	16.1%	2.9%	8.5%	-	11.8%	-	-	
(8) 食品残渣や廃棄される農産物を活用した堆肥づくりなど環境・エシカル事業による社会課題の解決	件数	4	11	6	7	2	2	0	0
割合	10.5%	17.7%	17.6%	14.9%	12.5%	11.8%	-	-	
(9) 特に関心はない	件数	24	31	14	29	5	5	3	1
割合	63.2%	50.0%	41.2%	61.7%	31.3%	29.4%	100.0%	50.0%	
(10)その他	件数	1	0	1	0	0	0	1	0
割合	2.6%	-	2.9%	-	-	-	33.3%	-	

<農地面積（問 23）とのクロス>

項目		5a未満	5a～30a未満	30a～50a未満	50a～100a未満	100a～150a未満	150a～200a未満	200a～300a未満	300a～500a未満	500a以上
(1) 観光事業者連携による農業体験・ツアー・農泊などの実施	件数	0	2	2	2	0	0	1	0	0
	割合	-	2.8%	4.8%	3.6%	-	-	25.0%	-	-
(2) 医療・福祉関連事業との連携による農福連携、健康増進施策展開	件数	2	8	2	10	0	1	0	1	0
	割合	13.3%	11.3%	4.8%	17.9%	-	12.5%	-	50.0%	-
(3) アパレル事業との連携による農業ブランディング・商品開発	件数	0	2	0	6	0	0	0	0	0
	割合	-	2.8%	-	10.7%	-	-	-	-	-
(4) 交通事業者連携での流通の仕組み導入	件数	0	3	1	8	0	1	1	0	0
	割合	-	4.2%	2.4%	14.3%	-	12.5%	25.0%	-	-
(5) 不動産・施設運営事業者等連携による農の空間創出	件数	1	9	3	5	0	2	1	0	0
	割合	6.7%	12.7%	7.1%	8.9%	-	25.0%	25.0%	-	-
(6) 学校・教育関連事業者連携による子どもたちの教育への参画	件数	2	10	5	14	2	3	1	2	0
	割合	13.3%	14.1%	11.9%	25.0%	22.2%	37.5%	25.0%	100.0%	-
(7) ゼロカーボン・カーボンオフセットなど地球に優しい農業による付加価値の向上	件数	0	4	5	4	1	2	1	1	0
	割合	-	5.6%	11.9%	7.1%	11.1%	25.0%	25.0%	50.0%	-
(8) 食品残渣や廃棄される農産物を活用した堆肥づくりなど環境・エシカル事業による社会課題の解決	件数	1	10	9	8	1	0	1	2	0
	割合	6.7%	14.1%	21.4%	14.3%	11.1%	-	25.0%	100.0%	-
(9) 特に関心はない	件数	10	36	20	27	4	2	1	0	4
	割合	66.7%	50.7%	47.6%	48.2%	44.4%	25.0%	25.0%	-	100.0%
(10)その他	件数	0	0	0	1	1	1	0	0	0
	割合	-	-	-	1.8%	11.1%	12.5%	-	-	-

3 過去5年間の農業施策についてお伺いします。

問 13 西東京市の農業振興に向けて、以下のような施策を実施してきました。これらの事業について、実施内容・状況に満足できるか、重要だと思うかについて、以下お答えください。（単一回答）

【食と暮らしを支える多様な農業】

事業 1 直売所の利用の促進

・市ホームページ、ガイド冊子「おでかけ図鑑」にて直売所を紹介

- 満足度については、「わからない」が29.9%、「多少満足している」が21.8%、「満足している」が20.9%であった。
- 重要度については、「重要である」が28.6%、「わからない」が22.2%、「やや重要である」が18.8%であった。

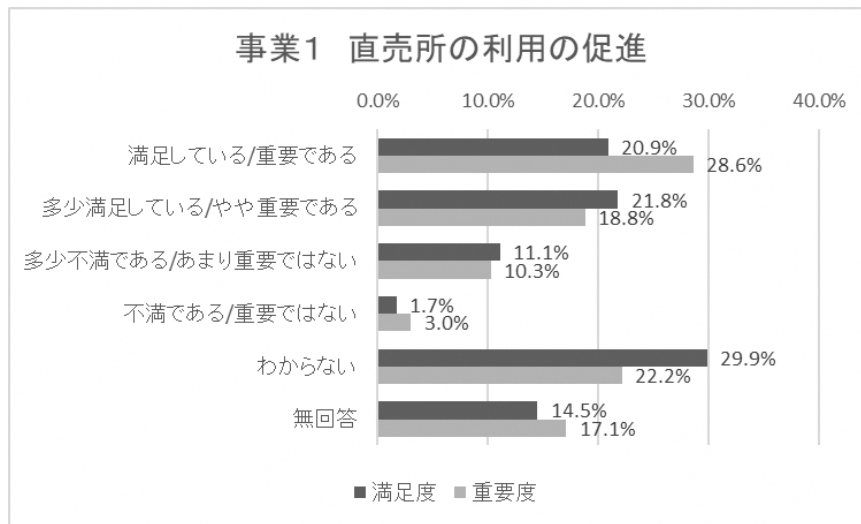
<満足度>

項目	件数	割合
満足している	49	20.9%
多少満足している	51	21.8%
多少不満である	26	11.1%
不満である	4	1.7%
わからない	70	29.9%
無回答	34	14.5%

n=234

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	67	28.6%
やや重要である	44	18.8%
あまり重要でない	24	10.3%
重要でない	7	3.0%
わからない	52	22.2%
無回答	40	17.1%



事業2 めぐみちゃんメニューの推進

- ・小中学生が考えたメニューの販売
- ・市民交流イベントの実施

○満足度については、「わからない」が34.6%、「多少満足している」が20.9%、「満足している」が15.0%であった。

○重要度については、「わからない」が26.9%、「やや重要である」が22.2%、「重要である」が19.7%であった。

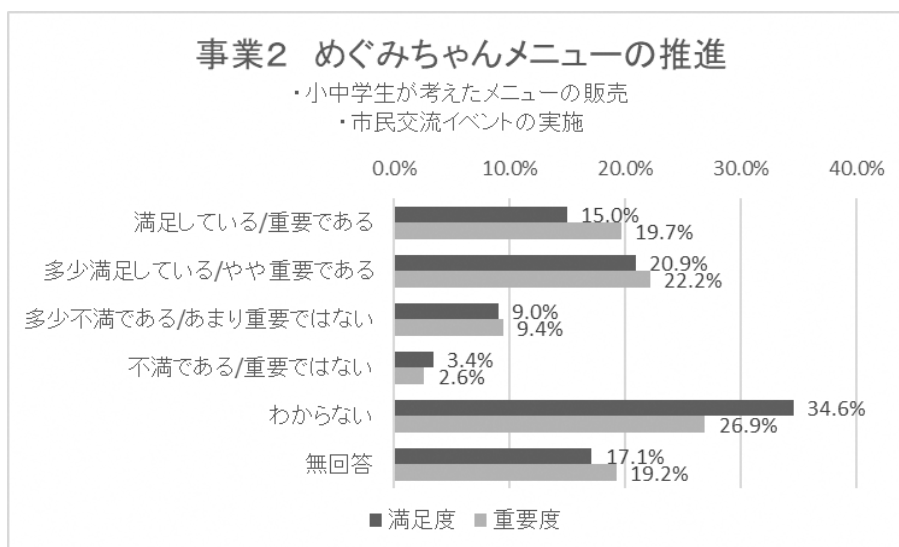
<満足度>

項目	件数	割合
満足している	35	15.0%
多少満足している	49	20.9%
多少不満である	21	9.0%
不満である	8	3.4%
わからない	81	34.6%
無回答	40	17.1%

n=234

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	46	19.7%
やや重要である	52	22.2%
あまり重要でない	22	9.4%
重要でない	6	2.6%
わからない	63	26.9%
無回答	45	19.2%



事業2 めぐみちゃんメニューの推進

・農産物等販売会（マルシェ）の開催

○満足度については、「わからない」が32.5%、「多少満足している」が22.2%、「満足している」が16.2%であった。

○重要度については、「わからない」が24.8%、「重要である」が23.5%、「やや重要である」が20.9%であった。

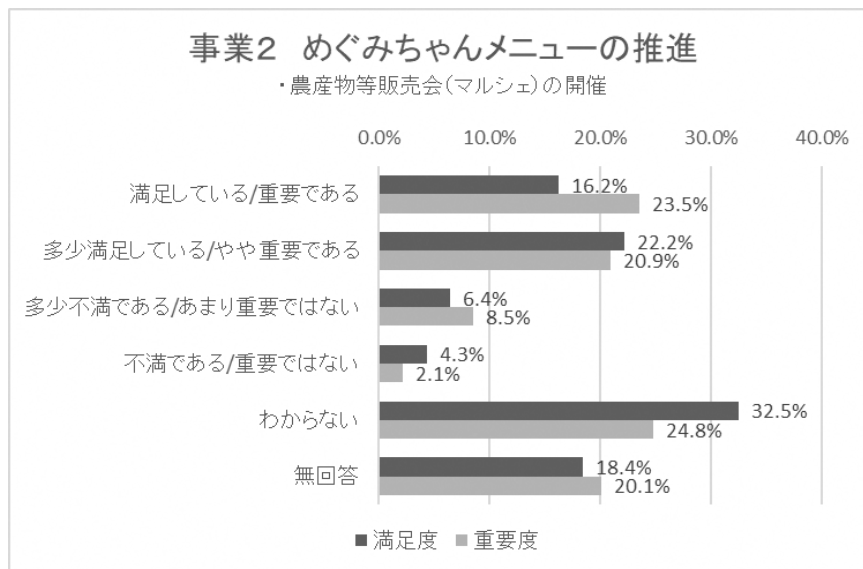
<満足度>

項目	件数	割合
満足している	38	16.2%
多少満足している	52	22.2%
多少不満である	15	6.4%
不満である	10	4.3%
わからない	76	32.5%
無回答	43	18.4%

n=234

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	55	23.5%
やや重要である	49	20.9%
あまり重要でない	20	8.5%
重要でない	5	2.1%
わからない	58	24.8%
無回答	47	20.1%



事業2 めぐみちゃんメニューの推進

・情報発信（ホームページ・Twitter・YouTube）

○満足度については、「わからない」が39.7%、「多少満足している」が19.7%、「満足している」が12.8%であった。

○重要度については、「わからない」が28.6%、「重要である」が22.6%、「やや重要である」が17.5%であった。

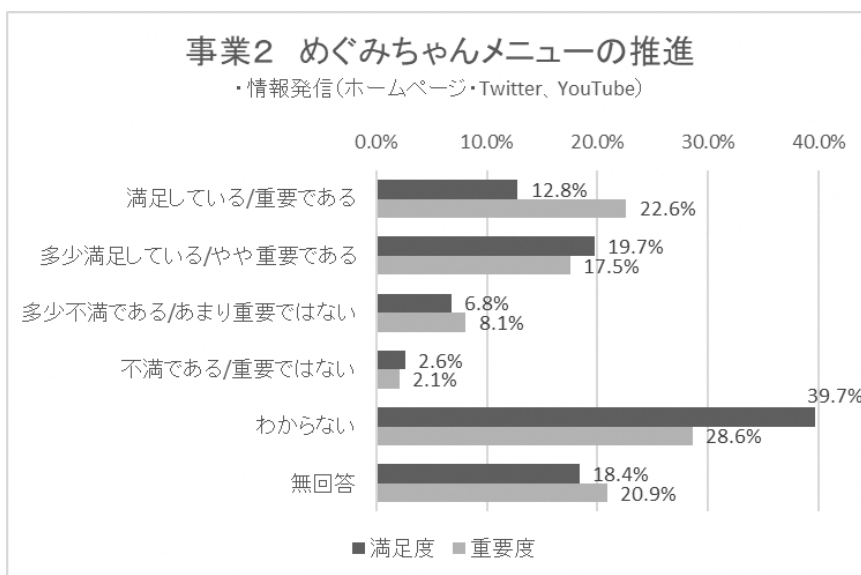
<満足度>

項目	件数	割合
満足している	30	12.8%
多少満足している	46	19.7%
多少不満である	16	6.8%
不満である	6	2.6%
わからない	93	39.7%
無回答	43	18.4%

n=234

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	53	22.6%
やや重要である	41	17.5%
あまり重要でない	19	8.1%
重要でない	5	2.1%
わからない	67	28.6%
無回答	49	20.9%



事業3 学校給食との連携・農産物等販売会(マルシェ)の実施

・学校栄養士と農業者の連絡会を開催、共通メニューを市内小中学校・保育園で提供、小中学生が考えたメニューを提供

- 満足度については、「わからない」が39.3%、「多少満足している」が19.7%、「満足している」が12.8%であった。
- 重要度については、「わからない」が29.9%、「重要である」が20.9%、「やや重要である」が20.5%であった。

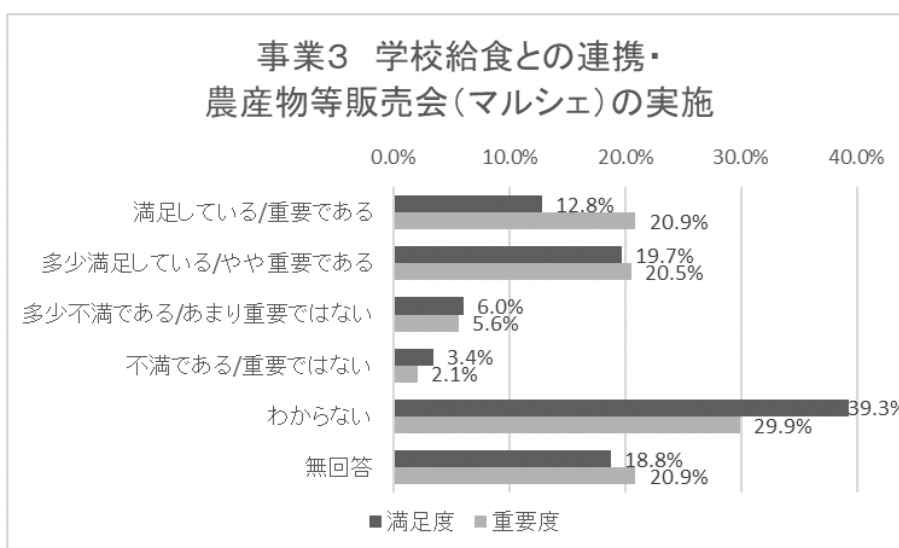
<満足度>

項目	件数	割合
満足している	30	12.8%
多少満足している	46	19.7%
多少不満である	14	6.0%
不満である	8	3.4%
わからない	92	39.3%
無回答	44	18.8%

n=234

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	49	20.9%
やや重要である	48	20.5%
あまり重要でない	13	5.6%
重要でない	5	2.1%
わからない	70	29.9%
無回答	49	20.9%



事業4 めぐみちゃんブランドの普及啓発

・めぐみちゃんののぼり旗、着ぐるみ、ベスト等を作成

○満足度については、「わからない」が30.8%、「多少満足している」が25.6%、「満足している」が15.8%であった。

○重要度については、「やや重要である」と「わからない」が24.4%、「重要である」が18.8%であった。

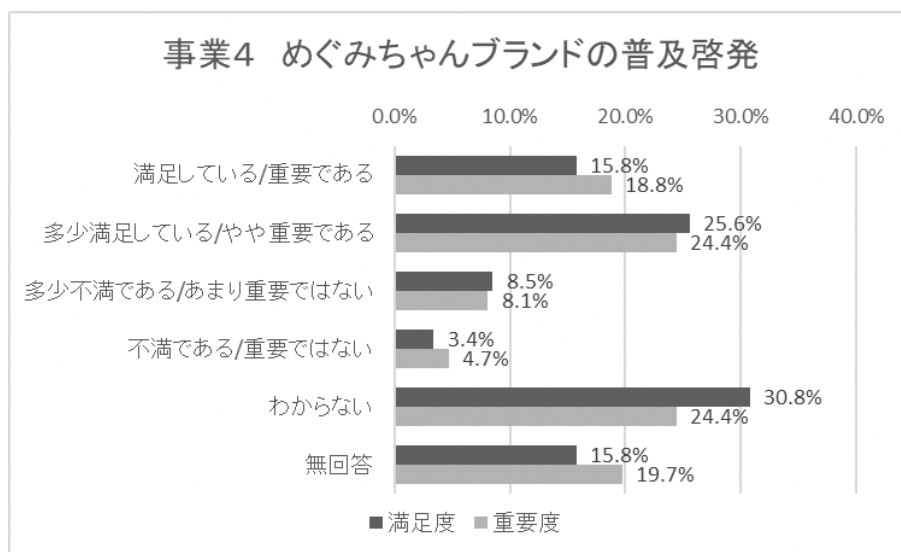
<満足度>

項目	件数	割合
満足している	37	15.8%
多少満足している	60	25.6%
多少不満である	20	8.5%
不満である	8	3.4%
わからない	72	30.8%
無回答	37	15.8%

n=234

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	44	18.8%
やや重要である	57	24.4%
あまり重要でない	19	8.1%
重要でない	11	4.7%
わからない	57	24.4%
無回答	46	19.7%



事業5 地域や商店街との連携

・即売会の実施

・ファームカーを活用した農産物の直売・農業者のPR

○満足度については、「わからない」が32.1%、「多少満足している」が24.8%、「満足している」が15.8%であった。

○重要度については、「わからない」が24.8%、「やや重要である」が22.6%、「重要である」が22.2%であった。

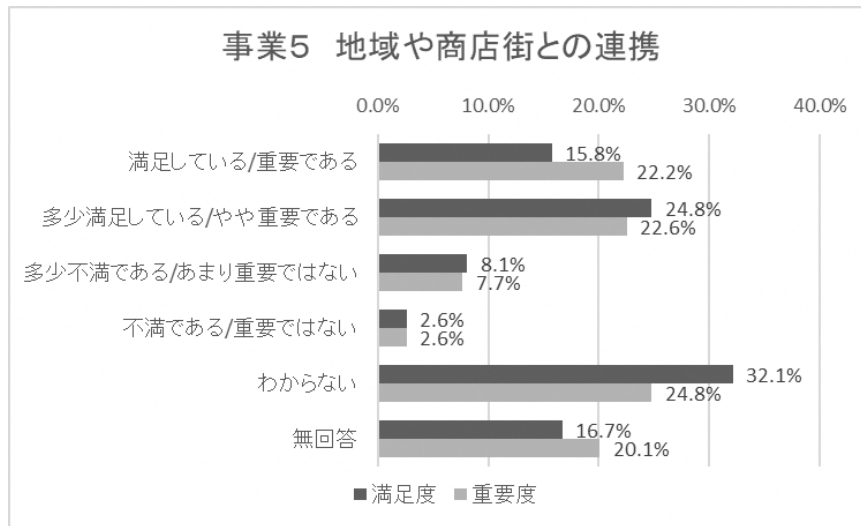
<満足度>

項目	件数	割合
満足している	37	15.8%
多少満足している	58	24.8%
多少不満である	19	8.1%
不満である	6	2.6%
わからない	75	32.1%
無回答	39	16.7%

n=234

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	52	22.2%
やや重要である	53	22.6%
あまり重要でない	18	7.7%
重要でない	6	2.6%
わからない	58	24.8%
無回答	47	20.1%



【多様な担い手が生きがいややりがいを感じる農業経営】

事業6 地元と連携した後継者育成、若い担い手（新規就農者含む）の育成の検討

- ・「農業後継者顕彰」事業実施
- ・東京都 F&U セミナー活用、指導農業者制度と連携

○満足度については、「わからない」が 31.2%、「多少満足している」が 21.8%、「満足している」が 15.8%であった。

○重要度については、「重要である」が 29.9%、「わからない」が 21.4%、「やや重要である」が 17.9%であった。

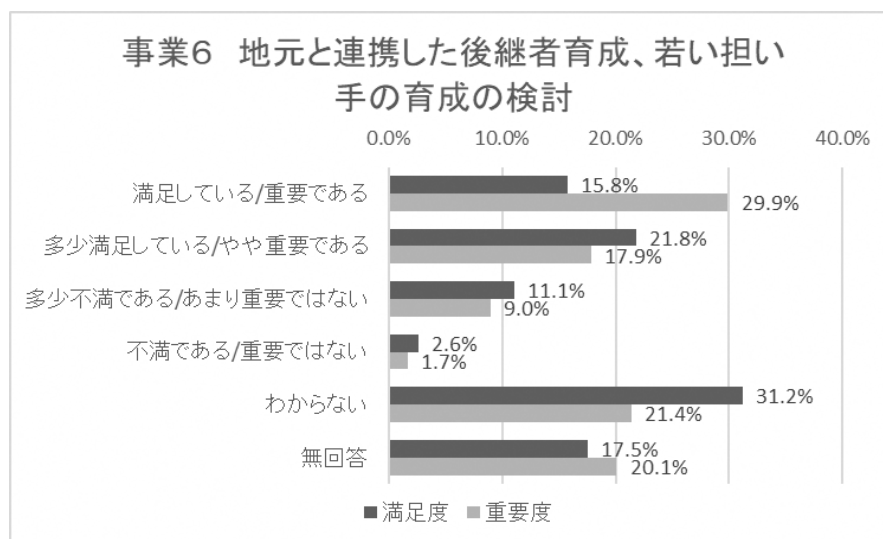
<満足度>

項目	件数	割合
満足している	37	15.8%
多少満足している	51	21.8%
多少不満である	26	11.1%
不満である	6	2.6%
わからない	73	31.2%
無回答	41	17.5%

n=234

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	70	29.9%
やや重要である	42	17.9%
あまり重要でない	21	9.0%
重要でない	4	1.7%
わからない	50	21.4%
無回答	47	20.1%



事業7 女性農業者の育成の検討

・農業委員会に女性農業者が参加

○満足度については、「わからない」が35.9%、「多少満足している」が20.9%、「多少不満である」が10.7%であった。

○重要度については、「わからない」が26.1%、「重要である」が21.4%、「やや重要である」が19.2%であった。

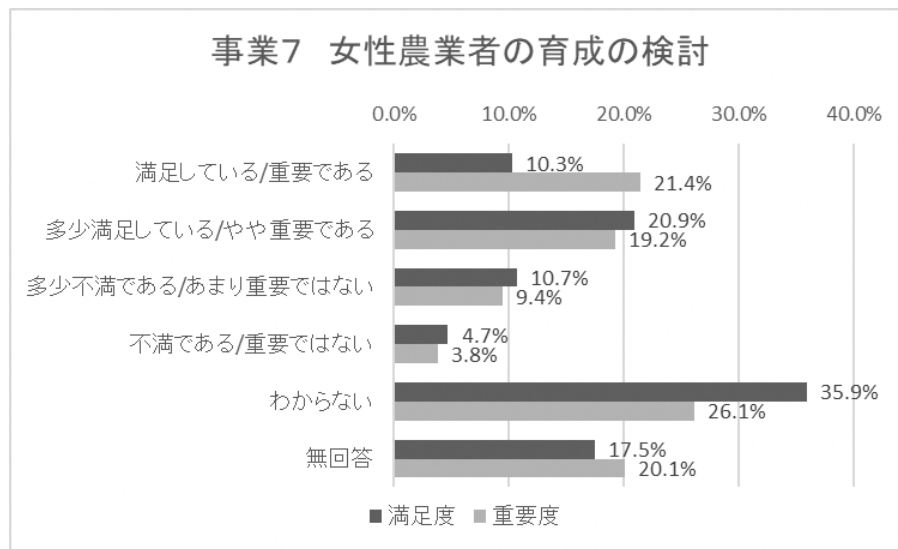
<満足度>

項目	件数	割合
満足している	24	10.3%
多少満足している	49	20.9%
多少不満である	25	10.7%
不満である	11	4.7%
わからない	84	35.9%
無回答	41	17.5%

n=234

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	50	21.4%
やや重要である	45	19.2%
あまり重要でない	22	9.4%
重要でない	9	3.8%
わからない	61	26.1%
無回答	47	20.1%



事業8 農業者と援農ボランティアのマッチング機会の提供・援農ボランティアのスキルアップ

・「東京の青空塾」修了者と農業者のマッチング
 ・「広域援農ボランティア」の周知・広報

○満足度については、「わからない」が41.9%、「多少満足している」が17.9%、「満足している」が12.4%であった。

○重要度については、「わからない」が32.1%、「重要である」と「やや重要である」が17.9%であった。

<満足度>

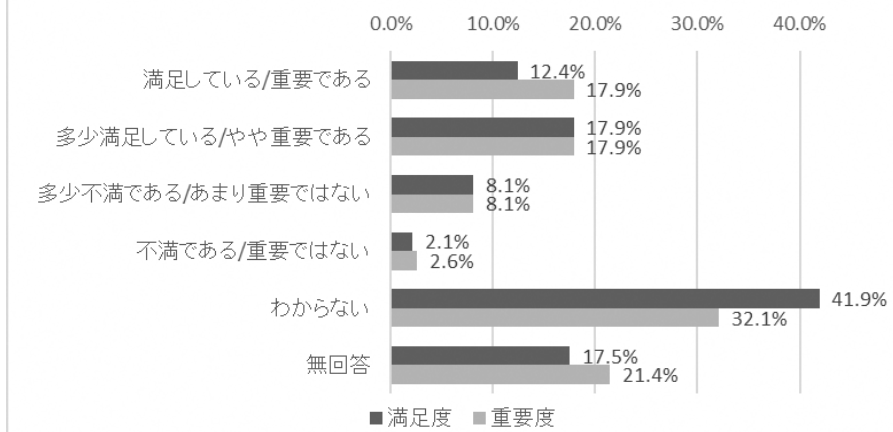
項目	件数	割合
満足している	29	12.4%
多少満足している	42	17.9%
多少不満である	19	8.1%
不満である	5	2.1%
わからない	98	41.9%
無回答	41	17.5%

n=234

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	42	17.9%
やや重要である	42	17.9%
あまり重要でない	19	8.1%
重要でない	6	2.6%
わからない	75	32.1%
無回答	50	21.4%

事業8 農業者と援農ボランティアのマッチング機 会の提供・援農ボランティアのスキルアップ



事業9 認定農業者への支援の拡充の検討

- ・「認定農業者経営改善支援補助金」を実施、経営改善計画作成への支援
- ・現行の補助金の内容検討
- ・直売所への支援策を検討

○満足度については、「わからない」が24.8%、「満足している」が20.5%、「多少満足している」が20.1%であった。

○重要度については、「重要である」が33.3%、「わからない」が18.8%、「やや重要である」が18.4%であった。

<満足度>

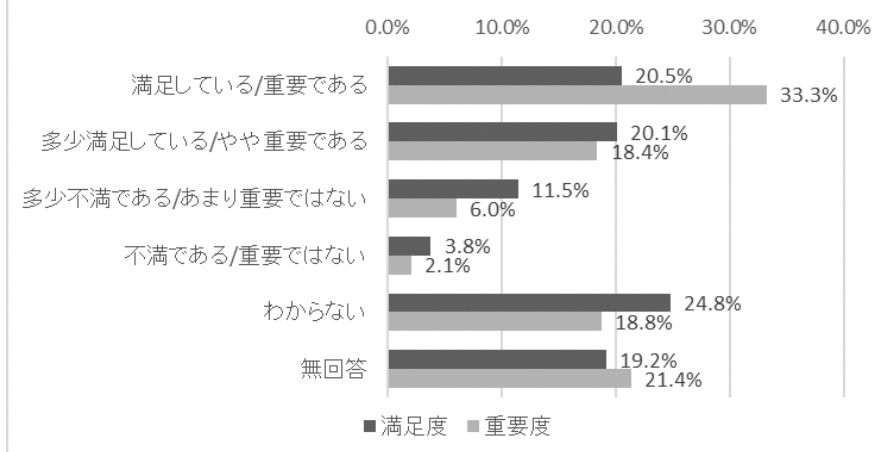
項目	件数	割合
満足している	48	20.5%
多少満足している	47	20.1%
多少不満である	27	11.5%
不満である	9	3.8%
わからない	58	24.8%
無回答	45	19.2%

n=234

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	78	33.3%
やや重要である	43	18.4%
あまり重要でない	14	6.0%
重要でない	5	2.1%
わからない	44	18.8%
無回答	50	21.4%

事業9 認定農業者への支援の拡充の検討



事業 10 営農支援事業の適正運営

・JA 東京みらいにおいて、「営農支援事業」実施

○満足度については、「多少満足している」と「わからない」が 21.4%、「満足している」が 20.5%、であった。
 ○重要度については、「重要である」が 36.8%、「わからない」が 17.5%、「やや重要である」が 15.8%であった。

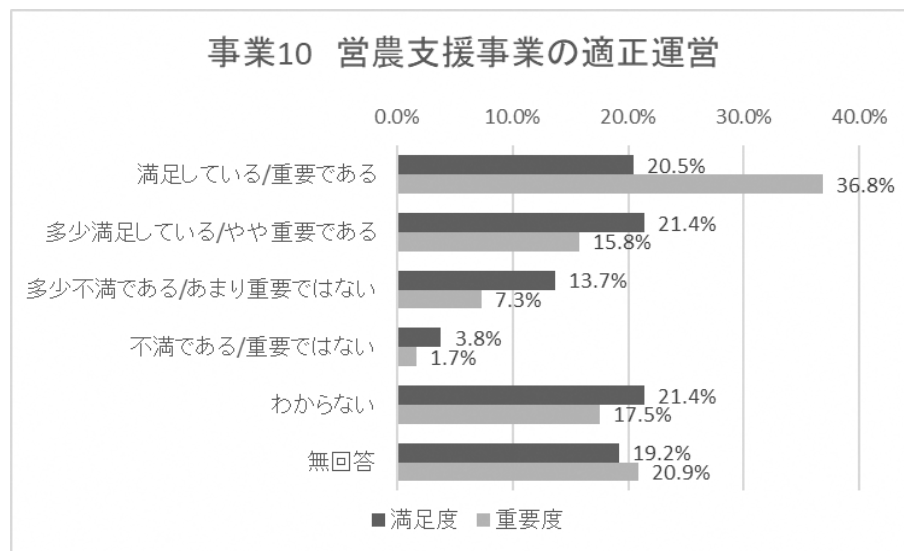
<満足度>

項目	件数	割合
満足している	48	20.5%
多少満足している	50	21.4%
多少不満である	32	13.7%
不満である	9	3.8%
わからない	50	21.4%
無回答	45	19.2%

n=234

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	86	36.8%
やや重要である	37	15.8%
あまり重要でない	17	7.3%
重要でない	4	1.7%
わからない	41	17.5%
無回答	49	20.9%



【農地の保全と活用】

事業 11 生産緑地地区制度への意見の具申

・再指定や下限面積要件の見直しについて市に提言
 ・都市計画課との連携（特定生産緑地）

○満足度については、「満足している」が 26.1%、「わからない」が 22.6%、「多少満足している」が 18.4%であった。
 ○重要度については、「重要である」が 41.0%、「わからない」が 17.1%、「やや重要である」が 12.4%であった。

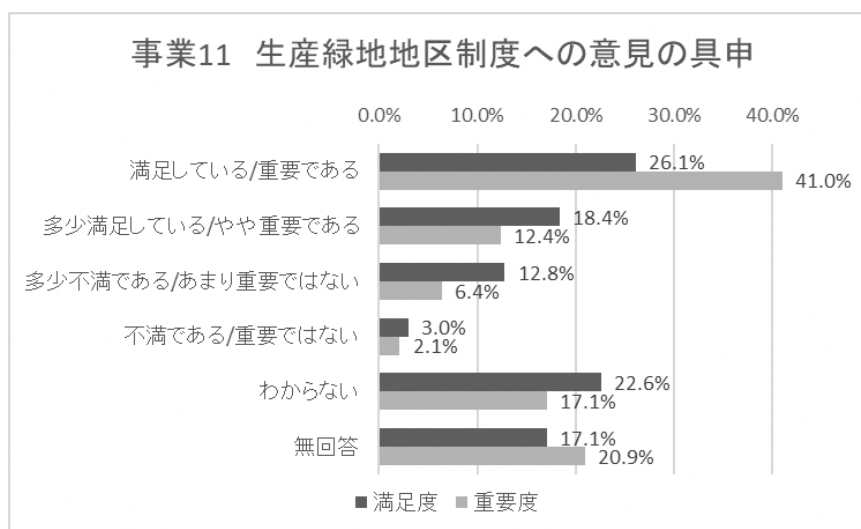
<満足度>

項目	件数	割合
満足している	61	26.1%
多少満足している	43	18.4%
多少不満である	30	12.8%
不満である	7	3.0%
わからない	53	22.6%
無回答	40	17.1%

n=234

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	96	41.0%
やや重要である	29	12.4%
あまり重要でない	15	6.4%
重要でない	5	2.1%
わからない	40	17.1%
無回答	49	20.9%



事業12 農地の適正な肥培管理

- ・農業委員会と市が協力し、農地パトロールを実施
- ・実情に応じた指導を協議、検討

○満足度については、「満足している」が26.5%、「多少満足している」が23.1%、「わからない」が18.4%であった。

○重要度については、「重要である」が35.0%、「わからない」が17.5%、「やや重要である」が17.1%であった。

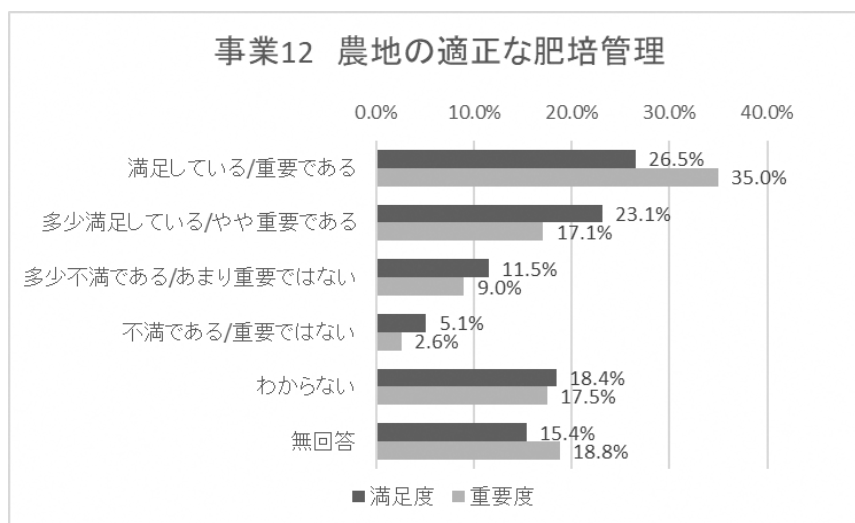
<満足度>

項目	件数	割合
満足している	62	26.5%
多少満足している	54	23.1%
多少不満である	27	11.5%
不満である	12	5.1%
わからない	43	18.4%
無回答	36	15.4%

n=234

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	82	35.0%
やや重要である	40	17.1%
あまり重要でない	21	9.0%
重要でない	6	2.6%
わからない	41	17.5%
無回答	44	18.8%



事業 13 市内農業関係施設の活用推進

- ・ 景観散策会や、寄せ植え体験を実施
- ・ 農業学習や防災訓練を実施

○満足度については、「わからない」が 32.1%、「多少満足している」が 20.9%、「満足している」と「多少不満である」が 13.2%であった。

○重要度については、「わからない」が 23.5%、「やや重要である」が 20.5%、「重要である」が 19.2%であった。

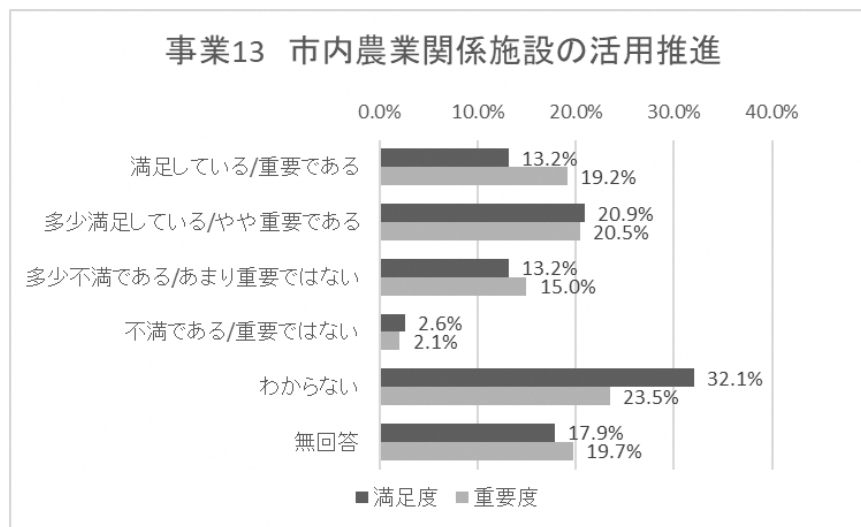
<満足度>

項目	件数	割合
満足している	31	13.2%
多少満足している	49	20.9%
多少不満である	31	13.2%
不満である	6	2.6%
わからない	75	32.1%
無回答	42	17.9%

n=234

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	45	19.2%
やや重要である	48	20.5%
あまり重要でない	35	15.0%
重要でない	5	2.1%
わからない	55	23.5%
無回答	46	19.7%



事業 14 災害時協力農地の拡大

- ・ JA と市が協定を締結中
- ・ 農業者への情報提供などの支援を実施

○満足度については、「わからない」が 26.1%、「多少満足している」が 23.1%、「満足している」が 19.7%であった。

○重要度については、「重要である」が 31.6%、「わからない」が 20.1%、「やや重要である」が 18.4%であった。

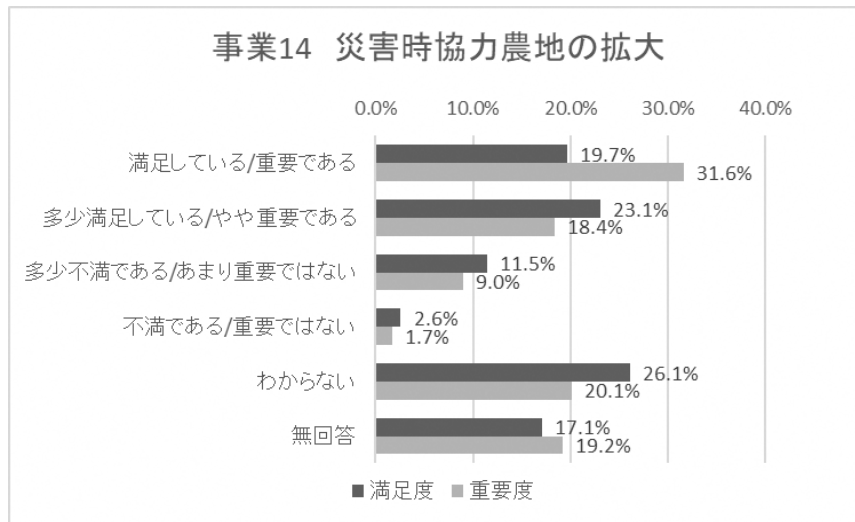
<満足度>

項目	件数	割合
満足している	46	19.7%
多少満足している	54	23.1%
多少不満である	27	11.5%
不満である	6	2.6%
わからない	61	26.1%
無回答	40	17.1%

n=234

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	74	31.6%
やや重要である	43	18.4%
あまり重要でない	21	9.0%
重要でない	4	1.7%
わからない	47	20.1%
無回答	45	19.2%



事業15 農業普及啓発プロジェクトの活用

・直売の支援にファームカーを活用

- 満足度については、「わからない」が33.8%、「多少満足している」が22.6%、「満足している」が13.7%であった。
- 重要度については、「わからない」が26.9%、「重要である」が21.8%、「やや重要である」が19.2%であった。

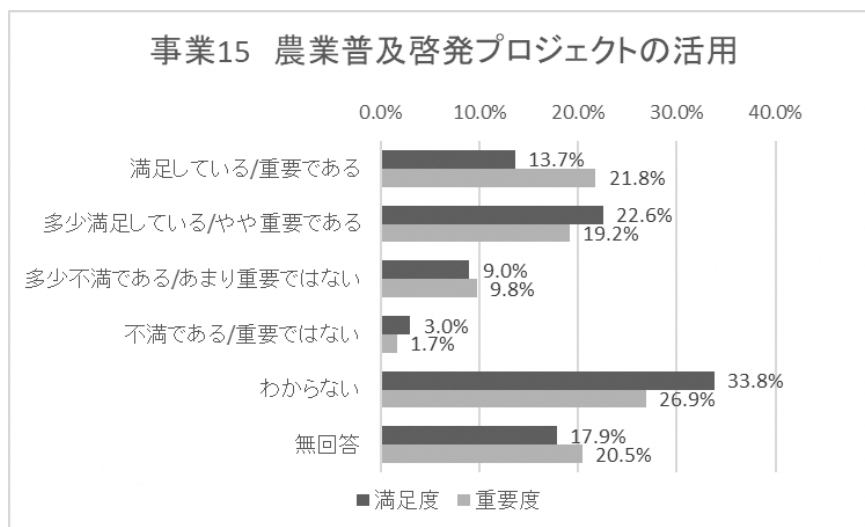
<満足度>

項目	件数	割合
満足している	32	13.7%
多少満足している	53	22.6%
多少不満である	21	9.0%
不満である	7	3.0%
わからない	79	33.8%
無回答	42	17.9%

n=234

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	51	21.8%
やや重要である	45	19.2%
あまり重要でない	23	9.8%
重要でない	4	1.7%
わからない	63	26.9%
無回答	48	20.5%



事業 16 農地の貸借における仲介の仕組みづくりの支援

・JA 等と連携し、貸し手と借り手の仲介や相談を実施

○満足度については、「わからない」が 31.6%、「満足している」が 18.8%、「多少満足している」が 15.8%であった。

○重要度については、「重要である」が 32.9%、「わからない」が 21.8%、「やや重要である」が 14.5%であった。

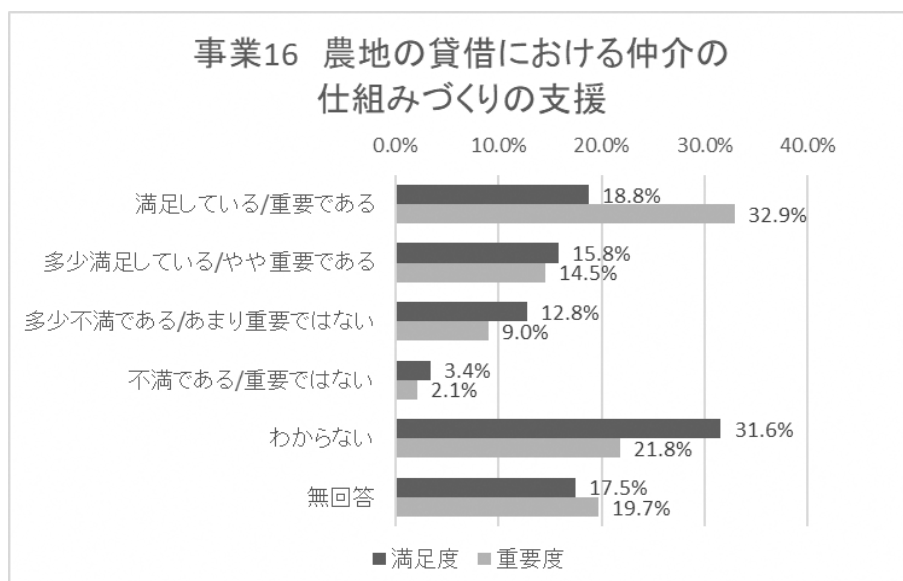
<満足度>

項目	件数	割合
満足している	44	18.8%
多少満足している	37	15.8%
多少不満である	30	12.8%
不満である	8	3.4%
わからない	74	31.6%
無回答	41	17.5%

n=234

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	77	32.9%
やや重要である	34	14.5%
あまり重要でない	21	9.0%
重要でない	5	2.1%
わからない	51	21.8%
無回答	46	19.7%



【農業を通じた交流】

事業 17 めぐみちゃんマーケットの開催

・農業者主体の農産物等販売会（マルシェ）開催に向けた検討、協力

○満足度については、「わからない」が 34.6%、「多少満足している」が 18.8%、「満足している」が 14.5%であった。

○重要度については、「わからない」が 26.1%、「重要である」が 22.6%、「やや重要である」が 18.8%であった。

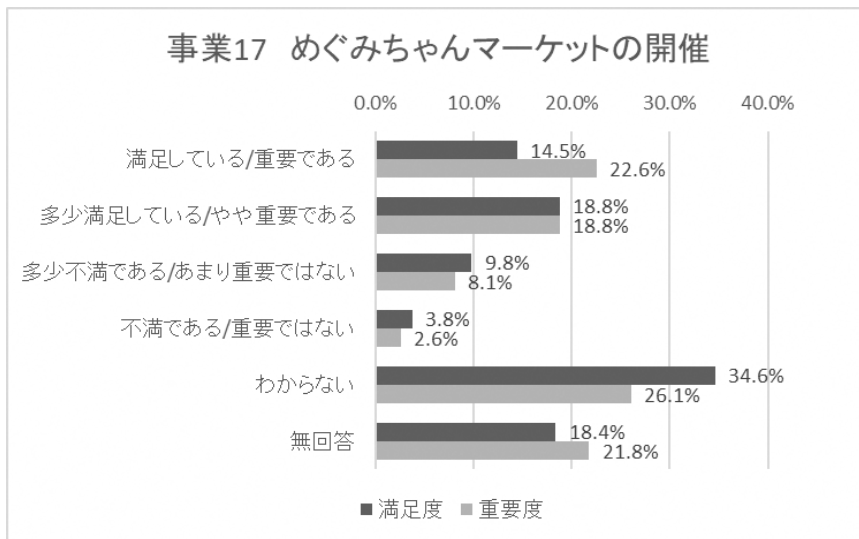
<満足度>

項目	件数	割合
満足している	34	14.5%
多少満足している	44	18.8%
多少不満である	23	9.8%
不満である	9	3.8%
わからない	81	34.6%
無回答	43	18.4%

n=234

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	53	22.6%
やや重要である	44	18.8%
あまり重要でない	19	8.1%
重要でない	6	2.6%
わからない	61	26.1%
無回答	51	21.8%



事業18 イベント等の実施

- ・「親子で野菜づくりにチャレンジ」イベントを実施
- ・緑のアカデミー事業として植木生産の広報・交流実施
- ・イベントでの農の情報発信の充実

○満足度については、「わからない」が34.6%、「多少満足している」が20.5%、「満足している」が14.1%であった。

○重要度については、「わからない」が23.9%、「重要である」が21.4%、「やや重要である」が18.8%であった。

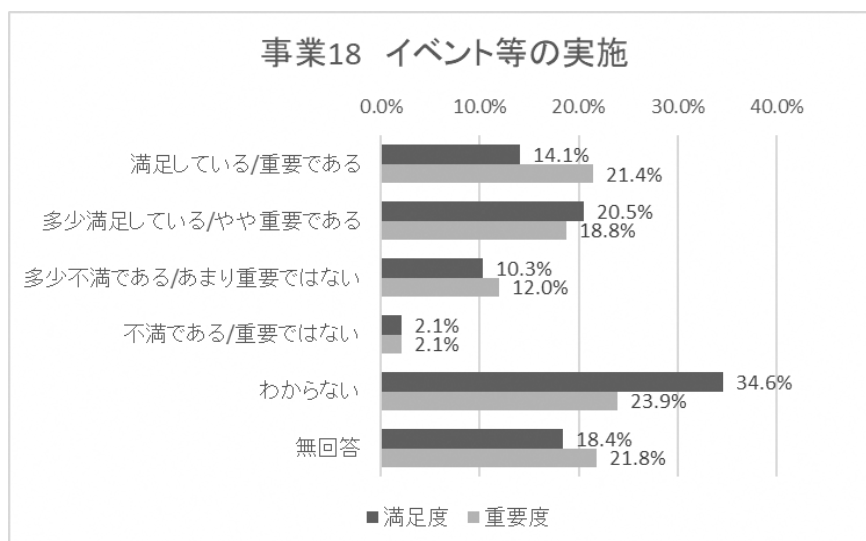
<満足度>

項目	件数	割合
満足している	33	14.1%
多少満足している	48	20.5%
多少不満である	24	10.3%
不満である	5	2.1%
わからない	81	34.6%
無回答	43	18.4%

n=234

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	50	21.4%
やや重要である	44	18.8%
あまり重要でない	28	12.0%
重要でない	5	2.1%
わからない	56	23.9%
無回答	51	21.8%



事業 19 市民農園の新しい展開

- ・使用料の見直し
- ・肥培管理マニュアルの作成
- ・マナー遵守の活動の実施、情報誌 Apron「エプロン」の配布

○満足度については、「わからない」が 38.0%、「多少満足している」が 20.1%、「満足している」が 12.0%であった。

○重要度については、「わからない」が 25.6%、「重要である」が 22.2%、「やや重要である」が 20.5%であった。

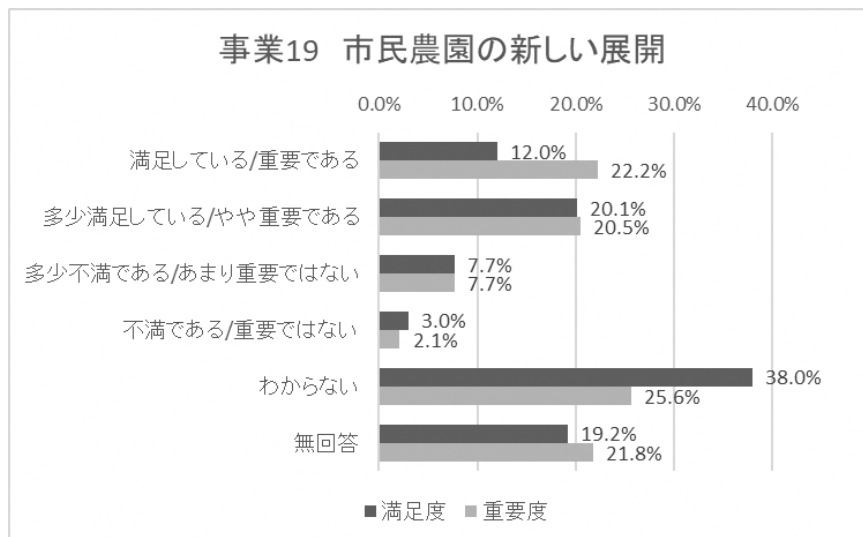
<満足度>

項目	件数	割合
満足している	28	12.0%
多少満足している	47	20.1%
多少不満である	18	7.7%
不満である	7	3.0%
わからない	89	38.0%
無回答	45	19.2%

n=234

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	52	22.2%
やや重要である	48	20.5%
あまり重要でない	18	7.7%
重要でない	5	2.1%
わからない	60	25.6%
無回答	51	21.8%



事業 20 農業体験農園の推進

- ・ホームページ等を活用した情報発信
- ・市報や市民まつりでの広報の実施、支援
- ・開設時に支援（補助金）の実施

○満足度については、「わからない」が 32.9%、「多少満足している」が 20.1%、「満足している」が 17.9%であった。

○重要度については、「わからない」が 25.6%、「重要である」が 23.1%、「やや重要である」が 20.9%であった。

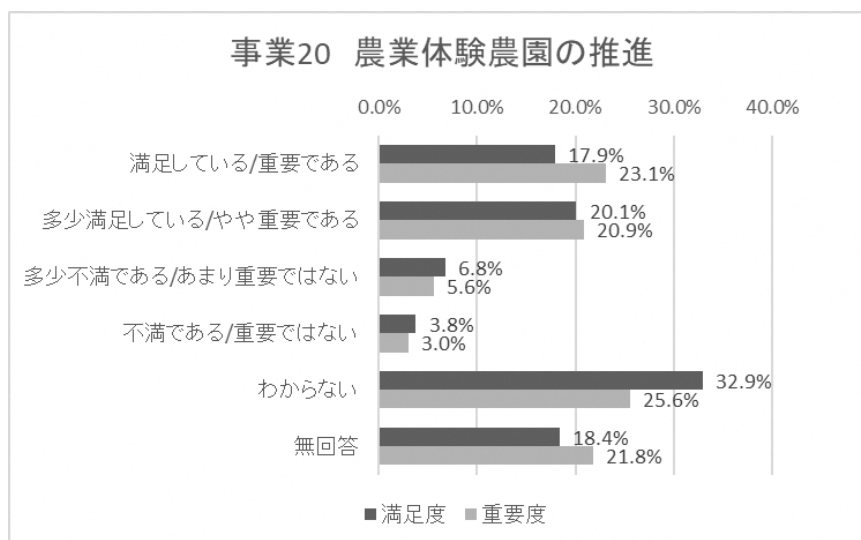
<満足度>

項目	件数	割合
満足している	42	17.9%
多少満足している	47	20.1%
多少不満である	16	6.8%
不満である	9	3.8%
わからない	77	32.9%
無回答	43	18.4%

n=234

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	54	23.1%
やや重要である	49	20.9%
あまり重要でない	13	5.6%
重要でない	7	3.0%
わからない	60	25.6%
無回答	51	21.8%

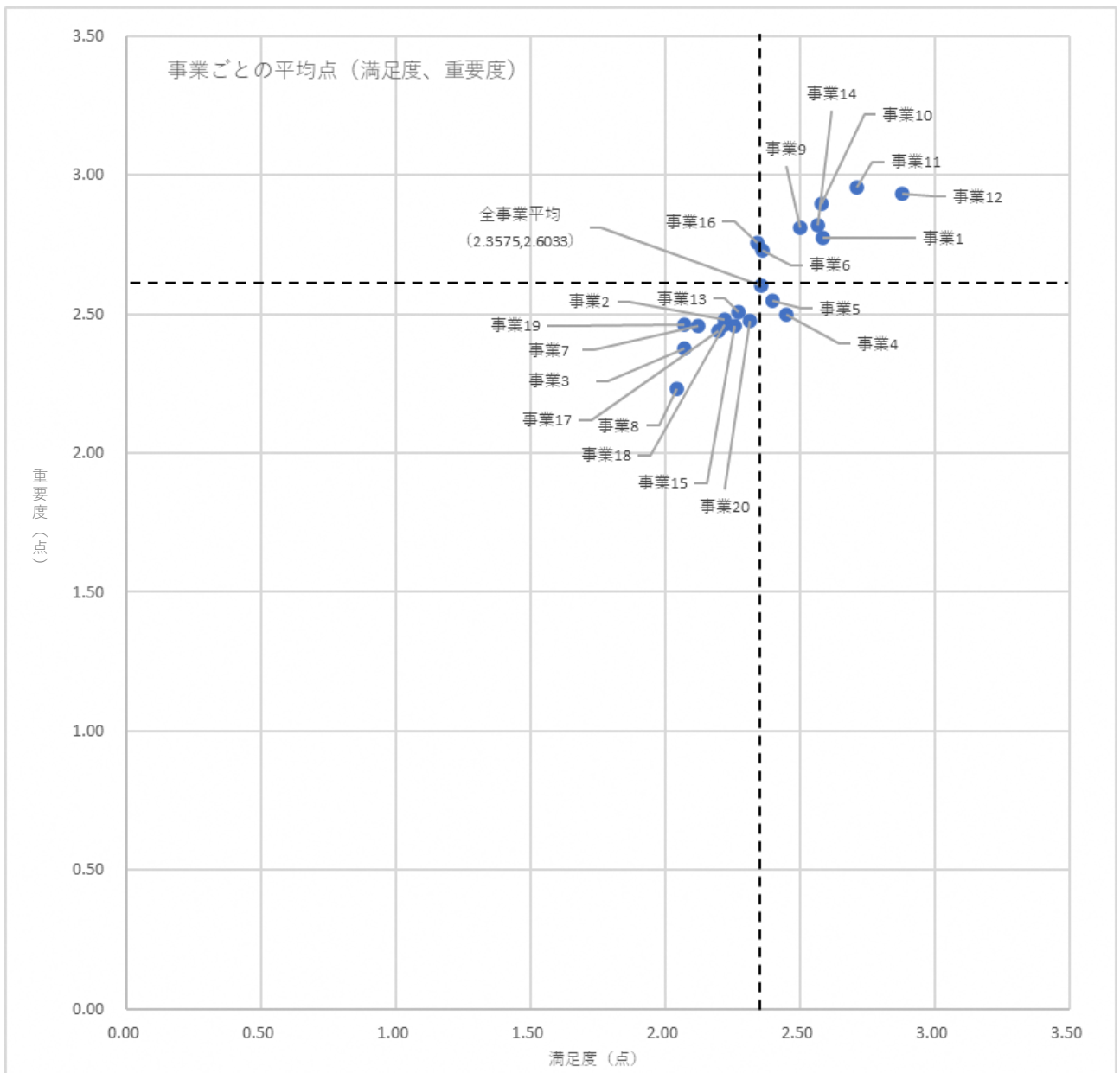


事業ごとの平均点（満足度，重要度）

- 第1象限（満足度高，重要度高）にあてはまる事業は、1,6,9,10,11,12,14 の7事業である。
- 第2象限（満足度低，重要度高）にあてはまる事業は、16 の1事業である。
- 第3象限（満足度低，重要度低）にあてはまる事業は、2,3,7,8,13,15,17,18,19,20 の10事業である。
- 第4象限（満足度高，重要度低）にあてはまる事業は、4,5 の2事業である。
- 前回と比べ、6が第2象限から第1象限へ、13,15が第1象限から第3象限へ、16が第3象限から第2象限へ変わっている。1,2,3,7,8,9,10,11,12,14,17,18,19,20は象限の変化がなかった。また、全体の平均は満足度が上がり、重要度が下がっている。

平均点	今回	
	満足度	重要度
事業1	2.59	2.77
事業2	2.22	2.48
事業3	2.07	2.38
事業4	2.45	2.50
事業5	2.40	2.55
事業6	2.36	2.73
事業7	2.12	2.46
事業8	2.04	2.23
事業9	2.50	2.81
事業10	2.58	2.90
事業11	2.71	2.95
事業12	2.88	2.93
事業13	2.27	2.51
事業14	2.56	2.82
事業15	2.26	2.46
事業16	2.34	2.76
事業17	2.20	2.44
事業18	2.22	2.46
事業19	2.07	2.46
事業20	2.31	2.47
平均	2.3575	2.6033

平均点	前回 (H30)	
	満足度	重要度
事業1	2.50	2.68
事業2	2.29	2.44
事業3	2.17	2.50
事業4	2.44	2.45
事業5	2.62	2.64
事業6	2.25	2.73
事業7	1.98	2.58
事業8	1.93	2.35
事業9	2.44	2.76
事業10	2.44	2.75
事業11	2.63	3.20
事業12	2.90	3.24
事業13	2.39	2.77
事業14	2.52	3.00
事業15	2.56	2.93
事業16	2.27	2.54
事業17	1.96	2.46
事業18	1.81	2.20
事業19	1.90	2.23
事業20	2.10	2.46
平均	2.3058	2.6451



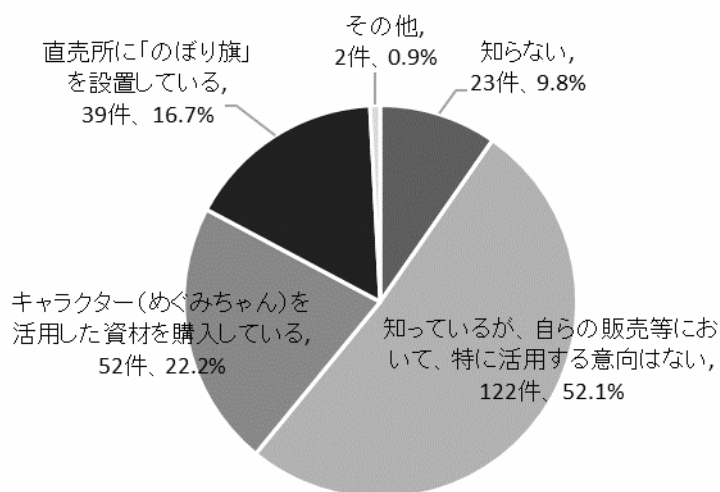
4 農業者への支援策についてお伺いします。

問14 市内産農産物キャラクター（めぐみちゃん）の活用について教えてください。（複数回答）

○市内産農産物キャラクター（めぐみちゃん）の活用について、「市内産農産物キャラクター（めぐみちゃん）については知っているが、自らの販売等において、特に活用する意向はない」との回答割合が最も多く（52.1%）、次いで、「市内産農産物キャラクター（めぐみちゃん）を活用した資材（ダンボール箱・防曇袋等）を購入し、市の補助事業を利用している」（22.2%）、「直売所（庭先販売所）に、市内産農産物キャラクター（めぐみちゃん）の「のぼり旗」を設置している」（16.7%）、「市内産農産物キャラクター（めぐみちゃん）を知らない」（9.8%）の順となっている。

項目	今回		前回（H30）
	件数	割合	割合
(1)市内産農産物キャラクター(めぐみちゃん)を知らない	23	9.8%	7.1%
(2)市内産農産物キャラクター(めぐみちゃん)は知っているが、自らの販売等において、特に活用する意向はない	122	52.1%	47.8%
(3)市内産農産物キャラクター(めぐみちゃん)を活用した資材（ダンボール箱・防曇袋等）を購入（市の補助事業を利用）している	52	22.2%	25.7%
(4)直売所(庭先販売所)に、市内産農産物キャラクター(めぐみちゃん)の「のぼり旗」を設置している	39	16.7%	23.0%
(5)その他	2	0.9%	5.3%

n=234



問 15 農業者への支援の対象についてあなたのお考えを教えてください。(単一回答)

○農業者への支援対象として、「経営規模（作付面積、販売金額）の大小にかかわらず、意欲のある農業者への支援を行うべき」が最も多く、回答者の 55.6% を占める。次いで、「経営規模（作付面積、販売金額）の小さな農業者が農業を持続できるような支援を行うべき」（21.8%）の順となっている。

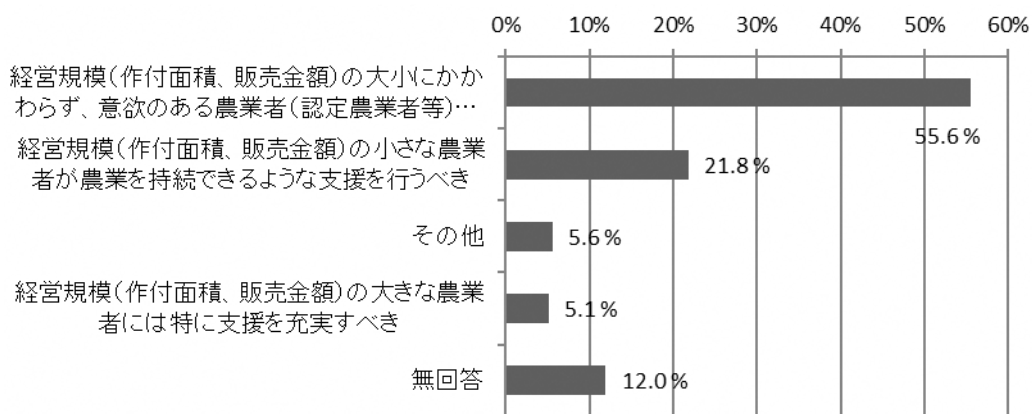
○回答者の農地面積別に見ると、農地面積が「5a 未満」の農業者で、「経営規模の小さな農業者が農業を持続できるような支援を行うべき」との回答割合が高いが、他は「経営規模（作付面積、販売金額）の大小にかかわらず、意欲のある農業者への支援を行うべき」との回答割合が高い。

項目	今回		前回 (H30)
	件数	割合	割合
(1)経営規模(作付面積、販売金額)の大きな農業者には特に支援を充実すべき	12	5.1%	6.2%
(2)経営規模(作付面積、販売金額)の小さな農業者が農業を持続できるような支援を行うべき	51	21.8%	25.7%
(3)経営規模(作付面積、販売金額)の大小にかかわらず、意欲のある農業者(認定農業者等)への支援を行うべき	130	55.6%	55.8%
(4)その他	13	5.6%	2.7%
(5)無回答	28	12.0%	9.7%

n=234

[(5)その他] の具体的な内容：

農業経営で生計が立てられる支援／肥料、燃料、資材等の高騰に対する補助、市民農園や農業体験農園への補助金、認定農業者と農業で生計を立てている農業者への支援の差をつけるべきではない 等



<農地面積 (問 23) とのクロス>

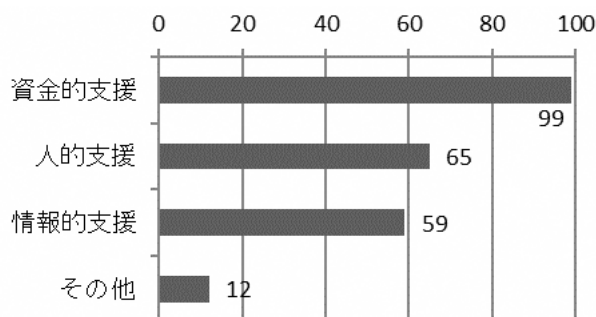
項目		5a 未満	5a~ 30a	30a~ 50a	50a~ 100a	100a~ 150a	150a~ 200a	200a~ 300a	300a~ 500a	500a 以上
		(1)経営規模の大きな農業者には支援を充実すべき	件数	0	4	1	4	0	1	1
	割合	-	5.6%	2.4%	7.1%	-	12.5%	25.0%	-	-
(2)経営規模の小さな農業者が農業を持続できるような支援を行うべき	件数	7	21	13	6	1	0	1	1	0
	割合	46.7%	29.6%	31.0%	10.7%	11.1%	-	25.0%	50.0%	-
(3)経営規模の大小にかかわらず、意欲のある農業者への支援を行うべき	件数	5	38	23	41	7	5	2	1	3
	割合	33.3%	53.5%	54.8%	73.2%	77.8%	62.5%	50.0%	50.0%	75.0%
(4)その他	件数	0	5	0	4	0	1	0	0	1
	割合	-	7.0%	-	7.1%	-	12.5%	-	-	25.0%

問 16 今後、農業者に係る支援について、どのような内容が重要か、お考えをお聞かせください。
(複数回答：2つまで)

- 農業者に係る支援として、「資金的支援（助成金、融資等）」が最も多く（42.3%）、次いで、「人的支援（技術支援、経営支援、農作業支援など）」（27.8%）、「情動的支援（農産物 PR、農業イベント等情報発信、生産技術情報提供等）」（25.2%）の順となっている。
- 回答者の農業所得別に見ると、農業所得が「なし」の農業者で「情動的支援」を求める回答割合が高いが、その他の農業者は、「資金的支援」を求める回答割合が高い。
- 回答者の農地面積別に見ると、農地面積が「5a 未満」の農業者で、「情動的支援」を求める回答割合が高いが、その他は「資金的支援」を求める回答割合が高い。また、「100～150a」、「200～300a」の農業者で、「人的支援」、「200～300a」の農業者で、「情動的支援」を求める回答割合も高い。
- 前回と比べ、「資金的支援」を求める回答割合が上がっている。

項目	今回		前回 (H30)
	件数	割合	割合
(1)資金的支援 (助成金、融資等)	99	42.3%	39.8%
(2)情動的支援 (農産物 PR、農業イベント等情報発信、生産技術情報提供等)	59	25.2%	28.3%
(3)人的支援 (技術支援、経営支援、農作業支援など)	65	27.8%	33.6%
(4)その他	12	5.1%	3.5%

n=234



- [(1)資金的支援] の具体的な内容：
新規就農のための農業機械や資材などの購入全額補助／肥料や農薬購入の補助／ビニールハウス建設や張替え等維持への助成金／機械購入・修理の助成／助成金の増額／認定農業者への助成金／認定農業者以外にも助成金の充実／畑の広さによる助成金／災害時の支援／不作時の支援／新技術導入時の支援 等
- [(2)情動的支援] の具体的な内容：
農産物の年間の出荷時期による PR／農産物のレシピ PR／直売所 PR／各農家の PR／生産技術情報提供／技術導入への教育／販売先等販路の情報提供／農薬の使用法や新種等の栽培講習会の実施 等
- [(3)人的支援] の具体的な内容：
援農ボランティアの育成／農作業支援への勉強会／除草作業／栽培技術のアドバイス／仕分けなど荷造り補助 等
- [(4)その他] の具体的な内容：
農業機材のレンタル／農業イベントへの支援／行政主体の直売所経営／共同集荷所の設置／マーケティング支援／配達支援／JA との連携強化／人が集まる町づくり 等

<農業所得（問8）とのクロス>

項目		なし	50万円未満	50～100万円未満	100～300万円未満	300～500万円未満	500～1,000万円未満	1,000～2,000万円未満	2,000万円以上
(1)資金的支援	件数	5	30	11	22	10	13	2	2
	割合	13.2%	48.4%	32.4%	46.8%	62.5%	76.5%	66.7%	100.0%
(2)情動的支援	件数	10	15	5	16	5	6	1	0
	割合	26.3%	24.2%	14.7%	34.0%	31.3%	35.3%	33.3%	-
(3)人的支援	件数	7	19	9	16	6	4	0	1
	割合	18.4%	30.6%	26.5%	34.0%	37.5%	23.5%	-	50.0%
(4)その他	件数	6	1	2	1	0	2	0	0
	割合	15.8%	1.6%	5.9%	2.1%	-	11.8%	-	-

<農地面積（問23）とのクロス>

項目		5a未満	5a～30a	30a～50a	50a～100a	100a～150a	150a～200a	200a～300a	300a～500a	500a以上
(1)資金的支援	件数	5	27	17	35	4	3	2	1	4
	割合	33.3%	38.0%	40.5%	62.5%	44.4%	37.5%	50.0%	50.0%	100.0%
(2)情動的支援	件数	6	16	12	16	2	1	2	1	0
	割合	40.0%	22.5%	28.6%	28.6%	22.2%	12.5%	50.0%	50.0%	-
(3)人的支援	件数	3	15	11	20	4	3	2	0	1
	割合	20.0%	21.1%	26.2%	35.7%	44.4%	37.5%	50.0%	-	25.0%
(4)その他	件数	0	7	0	1	0	1	0	0	0
	割合	-	9.9%	-	1.8%	-	12.5%	-	-	-

5 農産物直売所（庭先販売等）についてお伺いします。

問17 今後の直売所（庭先販売所等）やマルシェ（朝市・青空市など）への出店等についてのお考えをお聞かせください。（複数回答）

○今後の直売所（庭先販売等）のあり方等として、「自身の経営する直売所での販売を継続・拡大したい」との回答が最も多く（46.2%）、次いで、「JAの農産物直売所を利用したい」（24.4%）、「市内など近隣で開催されているマルシェ（朝市・夕市、青空市など）には出店したい」（9.0%）の順となっている。

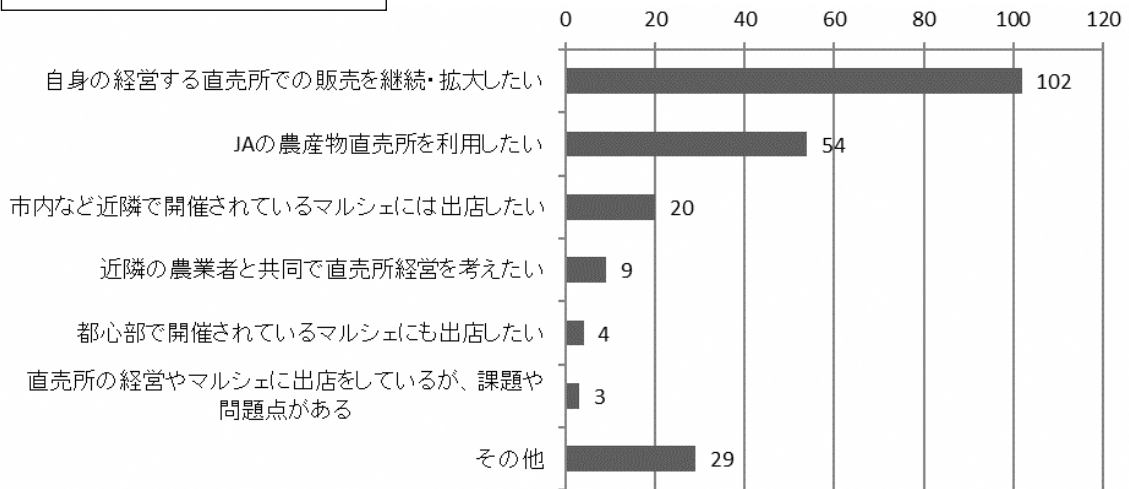
○前回と比べ、「近隣の農業者と共同で直売所経営を考えたい」、「JAの農産物直売所を利用したい」、「市内など近隣で開催されているマルシェには出店したい」との回答割合が上がっている。

項目	今回		前回（H30）
	件数	割合	割合
(1)自身の経営する直売所での販売を継続・拡大したい	102	46.2%	48.7%
(2)近隣の農業者と共同で直売所経営を考えたい	9	4.1%	2.7%
(3)JAの農産物直売所を利用したい	54	24.4%	17.7%
(4)市内など近隣で開催されているマルシェ（朝市・夕市、青空市など）には出店したい	20	9.0%	6.2%
(5)都心部で開催されているマルシェ（朝市・夕市、青空市など）にも出店したい	4	1.8%	3.5%
(6)直売所の経営やマルシェに出店をしているが、課題や問題点がある	3	1.4%	2.7%
(7)その他	29	13.1%	11.5%

n=234

[(6)直売所の経営やマルシェに出店をしているが、課題や問題点がある]の具体的な内容：
直売所が無人になること／場所により来客が少ない／場所により売れ残りが多し／買取ではない
／植木は直売所やマルシェでは出店できない

[(7)その他]の具体的な内容：
出店は考えていない 等



6 学校給食についてお伺いします。

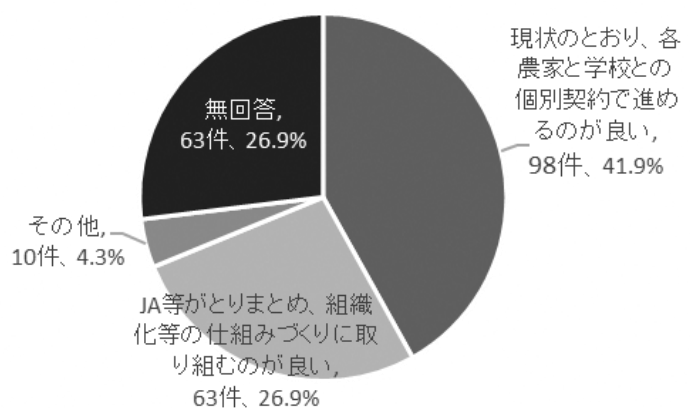
問 18 学校給食での地場農産物利用についてのお考えを教えてください。(単一回答)

- 学校給食での地場農産物利用について、「現状のとおり、各農家と学校との個別契約で進めるのが良い」(41.9%)との回答が最も多く、次いで、「JA等がとりまとめ、組織化等の仕組みづくりに取り組むのが良い」(26.9%)の順となっている。
- 前回は、「JA等がとりまとめ、組織化等の仕組みづくりに取り組むのが良い」との回答割合が最も高かったが、今回は「現状のとおり、各農家と学校との個別契約で進めるのが良い」との回答割合が最も高くなっている。

項目	今回		前回 (H30)
	件数	割合	割合
(1)現状のとおり、各農家と学校との個別契約で進めるのが良い	98	41.9%	26.5%
(2)JA等がとりまとめ、組織化等の仕組みづくりに取り組むのが良い	63	26.9%	37.2%
(3)その他	10	4.3%	6.2%
(4)無回答	63	26.9%	30.1%

n=234

[(3)その他]の具体的な内容：
学校側がそれぞれの農業者と契約可能か交渉する／学校側の意向が知りたい 等



7 量販店や小売店への販売、契約販売等についてお伺いします。

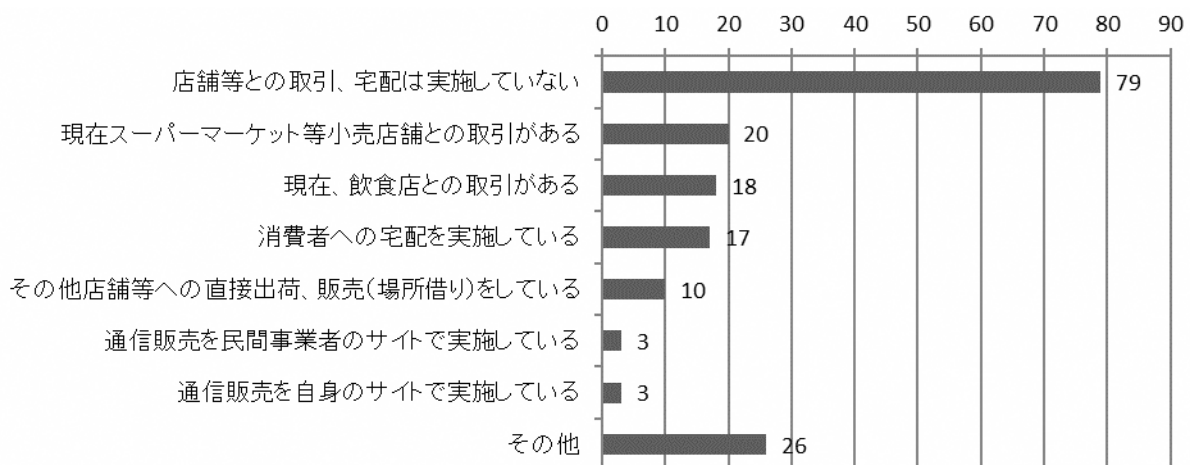
問 19 量販店や小売店への販売、契約販売等について状況を教えてください。(複数回答)

- 量販店や小売店への販売、契約販売等の状況として、「店舗等との取引、宅配は実施していない」が最も多く (33.8%)、次いで、「現在スーパーマーケット等小売店舗との取引がある」(8.5%)、「現在、飲食店との取引がある」(7.7%) の順となっている。
- 回答者の農業所得別に見ると、農業所得が「500万円未満」の農業者では、「店舗等との取引、宅配は実施していない」との回答割合が高く、「300万円以上」の農業者では、「現在スーパーマーケット等小売店舗との取引がある」との回答割合が高くなっている。また、「300～500万円未満」の農業者で、「現在、飲食店との取引がある」との回答割合も高い。
- 前回と比べ、「現在、飲食店との取引がある」、「消費者へ宅配を実施している」との回答割合が上がっている。

項目	今回		前回 (H30)
	件数	割合	割合
(1)現在スーパーマーケット等小売店舗との取引がある	20	8.5%	11.5%
(2)現在、飲食店との取引がある	18	7.7%	6.2%
(3)その他店舗等への直接出荷、販売(場所借り)をしている	10	4.3%	5.3%
(4)消費者への宅配を実施している	17	7.3%	7.1%
(5)店舗等との取引、宅配は実施していない	79	33.8%	43.4%
(6)通信販売を民間事業者のサイトで実施している	3	1.3%	-
(7)通信販売を自身のサイトで実施している	3	1.3%	-
(8)その他	26	11.1%	5.3%

n=234

[(8)その他] の具体的な内容：
庭先販売のみ/市場出荷のみ/販売はしていない 等



<農業所得（問8）とのクロス>

項目		50万円未満	50～100万円未満	100～300万円未満	300～500万円未満	500～1,000万円未満	1,000～2,000万円未満	2,000万円以上
(1)現在スーパーマーケット等小売店舗との取引がある	件数	1	0	7	4	5	1	0
	割合	1.6%	-	14.9%	25.0%	29.4%	33.3%	-
(2)現在、飲食店との取引がある	件数	3	2	6	4	3	0	0
	割合	4.8%	5.9%	12.8%	25.0%	17.6%	-	-
(3)その他店舗等への直接出荷、販売をしている	件数	2	2	3	2	1	0	0
	割合	3.2%	5.9%	6.4%	12.5%	5.9%	-	-
(4)消費者への宅配を実施している	件数	4	4	4	1	2	0	0
	割合	6.5%	11.8%	8.5%	6.3%	11.8%	-	-
(5)店舗等との取引、宅配は実施していない	件数	28	16	18	4	2	0	0
	割合	45.2%	47.1%	38.3%	25.0%	11.8%	-	-
(6)通信販売を民間事業者のサイトで実施している	件数	0	0	1	1	1	0	0
	割合	-	-	2.1%	6.3%	5.9%	-	-
(7)通信販売を自身のサイトで実施している	件数	1	0	1	1	0	0	0
	割合	1.6%	-	2.1%	6.3%	-	-	-
(8)その他	件数	7	3	1	2	2	1	0
	割合	11.3%	8.8%	2.1%	12.5%	11.8%	33.3%	-

8 農業の担い手についてお伺いします。

問20 認定農業者制度についてお伺いします。(単一回答)

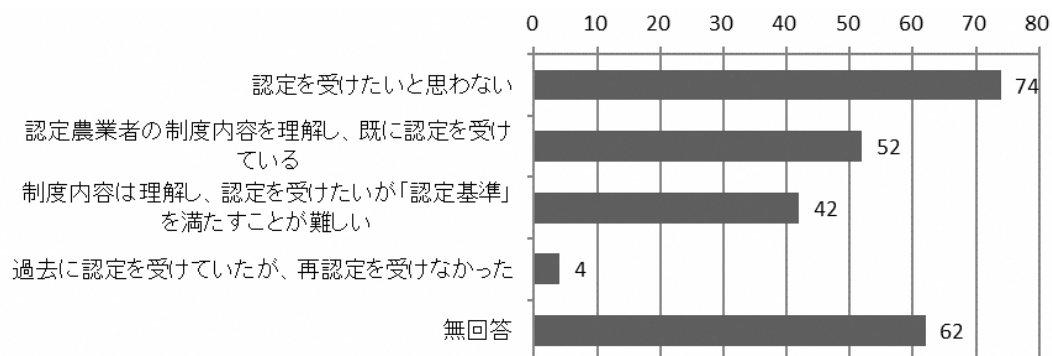
- 認定農業者制度について、「認定を受けたいと思わない」が最も多く(31.6%)、次いで、「認定農業者の制度内容を理解し、既に認定を受けている」(22.2%)、「制度内容は理解し、認定を受けたいが「認定基準」を満たすことが難しい」(17.9%)の順となっている。
- 回答者の農業所得別に見ると、農業所得が「100万円未満」の農業者が「認定を受けたいと思わない」との回答割合が高いのに対し、「100万円以上」の農業者では、「認定農業者の制度内容を理解し、既に認定を受けている」との回答割合が高くなっている。
- 前回と比べ、「認定を受けたいと思わない」との回答割合が上がっている。他はほとんど変化がない。

項目	今回		前回 (H30)
	件数	割合	割合
(1)認定農業者の制度内容を理解し、既に認定を受けている	52	22.2%	22.1%
(2)制度内容は理解し、認定を受けたいが「認定基準」を満たすことが難しい	42	17.9%	17.7%
(3)過去に認定を受けていたが、再認定を受けなかった	4	1.7%	1.8%
(4)認定を受けたいと思わない	74	31.6%	26.5%
(5)無回答	62	26.5%	25.7%

n=234

[(3)過去に認定を受けていたが、再認定を受けなかった]の具体的な理由：
認定基準に満たなくなった/今後の農業生産、収入の拡大を望まないため/計画実行が大変 等

[(4)認定を受けたいと思わない]の具体的な理由：
農業で生計を維持できないため/認定者と未認定との区別が嫌/高齢のため/後継者がいない/農地が小規模のため/メリットを感じない/メリットがわからない 等



<農業所得（問8）とのクロス>

項目		なし(自家用のみ)	50万円未満	50~100万円未満	100~300万円未満	300~500万円未満	500~1,000万円未満	1,000~2,000万円未満	2,000万円以上
(1)認定農業者の制度内容を理解し、既に認定を受けている	件数	2	5	3	17	11	11	1	1
	割合	5.3%	8.1%	8.8%	36.2%	68.8%	64.7%	33.3%	50.0%
(2)制度内容は理解し、認定を受けたいが「認定基準」を満たすことが難しい	件数	4	12	10	11	2	0	1	1
	割合	10.5%	19.4%	29.4%	23.4%	12.5%	-	33.3%	50.0%
(3)過去に認定を受けていたが、再認定を受けなかった	件数	1	1	1	1	0	0	0	0
	割合	2.6%	1.6%	2.9%	2.1%	-	-	-	-
(4)認定を受けたいと思わない	件数	18	28	12	11	1	3	0	0
	割合	47.4%	45.2%	35.3%	23.4%	6.3%	17.6%	-	-

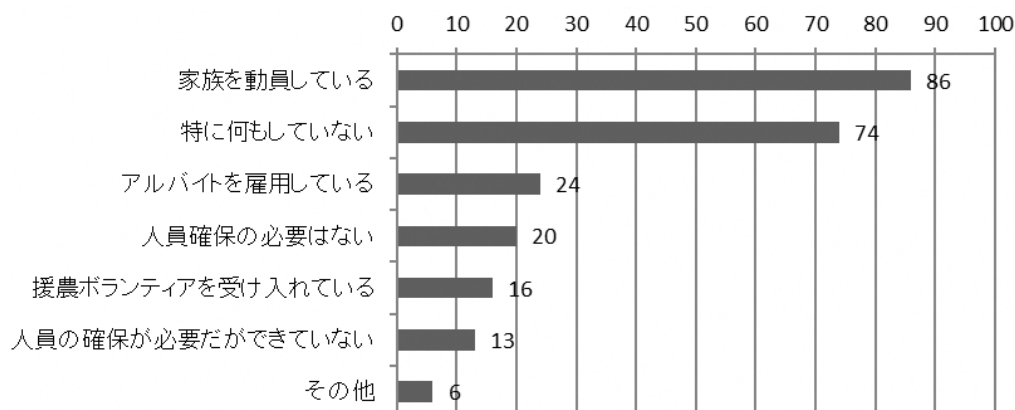
問21 農作業の人員確保について教えてください。(複数回答)

- 農作業の人員確保について、「家族を動員している」との回答が最も多く(36.8%)、次いで、「特に何もしていない」(31.6%)、「アルバイトを雇用している」(10.3%)の順となっている。
- 回答者の農業所得別に見ると、農業所得が「2,000万円未満」の農業者では、「家族を動員している」との回答割合が、「2,000万円以上」の農業者では、「アルバイトを雇用している」との回答割合が高くなっている。

項目	件数	割合
(1)アルバイトを雇用している	24	10.3%
(2)家族を動員している	86	36.8%
(3)援農ボランティアを受け入れている	16	6.8%
(4)人員確保の必要はない	20	8.5%
(5)人員の確保が必要だができていない	13	5.6%
(6)特に何もしていない	74	31.6%
(7)その他	6	2.6%

n=234

[(7)その他]の具体的な内容：
近隣住民に手伝ってもらっている 等



<農業所得（問8）とのクロス>

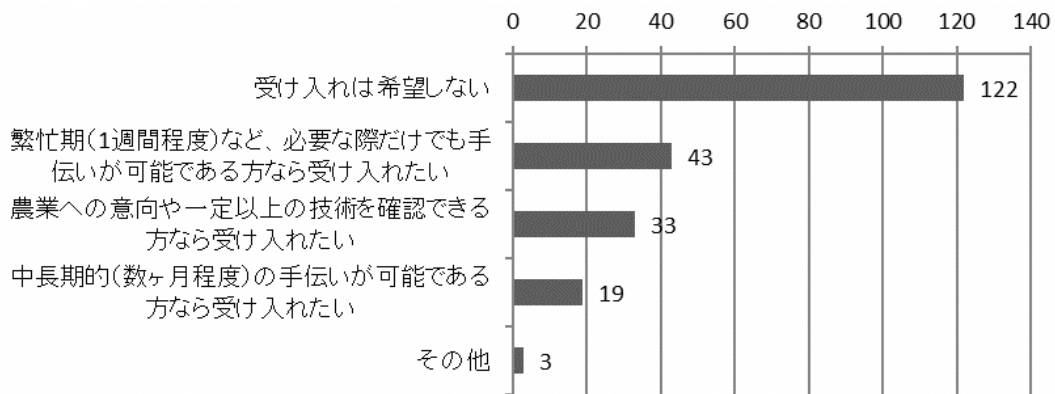
項目		なし（自家用のみ）	50万円未満	50～100万円未満	100～300万円未満	300～500万円未満	500～1,000万円未満	1,000～2,000万円未満	2,000万円以上
(1)アルバイトを雇用している	件数	1	3	5	4	3	3	1	2
	割合	2.6%	4.8%	14.7%	8.5%	18.8%	17.6%	33.3%	100.0%
(2)家族を動員している	件数	4	22	13	24	8	9	2	0
	割合	10.5%	35.5%	41.2%	51.1%	50.0%	52.9%	66.7%	-
(3)援農ボランティアを受け入れている	件数	1	1	2	6	3	3	0	0
	割合	2.6%	1.6%	5.9%	12.8%	18.8%	17.6%	-	-
(4)人員確保の必要はない	件数	3	11	3	3	0	0	0	0
	割合	7.9%	17.7%	8.8%	6.4%	-	-	-	-
(5)人員の確保が必要だができていない	件数	0	3	2	4	2	2	0	0
	割合	-	4.8%	5.9%	8.5%	12.5%	11.8%	-	-
(6)特に何もしていない	件数	23	23	8	15	1	2	0	0
	割合	60.5%	37.1%	23.5%	31.9%	6.3%	11.8%	-	-
(7)その他	件数	1	2	0	1	1	0	1	0
	割合	2.6%	3.2%	-	2.1%	6.3%	-	33.3%	-

問22 援農ボランティアとして、農作業の手伝いをしてくれる方を受け入れることについて、どのような人材であれば受け入れたいですか？お考えを教えてください。（複数回答）

- 援農ボランティアとして、受け入れたい人材については、「受け入れを希望しない」が最も多く（52.1%）、次いで、「繁忙期（1週間程度）など、必要な際だけでも手伝いが可能である方なら受け入れたい」（18.4%）の順となっている。
- 回答者の農業所得別に見ると、農業所得が「500万円未満」の農業者では、「受け入れを希望しない」との回答割合が最も高く、「500万円以上」の農業者では、一定の割合で、「中長期的（数ヶ月程度）の手伝いが可能である方なら受け入れたい」、「繁忙期など、必要な際だけでも手伝いが可能である方なら受け入れたい」、及び「農業への意向や一定以上の技術を確認できる方なら受け入れたい」との回答割合が見られる。
- 前回と比べ、「受け入れは希望しない」との回答割合が高く上がっている。

項目	今回		前回（H30）
	件数	割合	割合
(1)中長期的（数ヶ月程度）の手伝いが可能である方なら受け入れたい	19	8.1%	8.8%
(2)繁忙期など、必要な際だけでも手伝いが可能である方なら受け入れたい	43	18.4%	18.6%
(3)農業への意向や一定以上の技術を確認できる方なら受け入れたい	33	14.1%	13.3%
(4)受け入れは希望しない	122	52.1%	38.9%
(5)その他	3	1.3%	2.7%

n=234



< 農業所得 (問 8) とのクロス >

項目		なし	50万円未満	50~100万円未満	100~300万円未満	300~500万円未満	500~1,000万円未満	1,000~2,000万円未満	2,000万円以上
		(1)中長期的(数ヶ月程度)の手伝いが可能である方なら受け入れたい	件数	1	2	3	4	3	3
	割合	2.6%	3.2%	8.8%	8.5%	18.8%	17.6%	-	100.0%
(2)繁忙期の手伝いが可能である方なら受け入れたい	件数	2	12	7	10	3	6	1	0
	割合	5.3%	19.4%	20.6%	21.3%	18.8%	35.3%	33.3%	-
(3)農業への意向や技術のある方なら受け入れたい	件数	1	6	4	9	5	6	0	0
	割合	2.6%	9.7%	11.8%	19.1%	31.3%	35.3%	-	-
(4)受け入れは希望しない	件数	29	39	15	25	7	3	2	0
	割合	76.3%	62.9%	44.1%	53.2%	43.8%	17.6%	66.7%	-
(5)その他	件数	0	0	2	0	0	0	0	0
	割合	-	-	5.9%	-	-	-	-	-

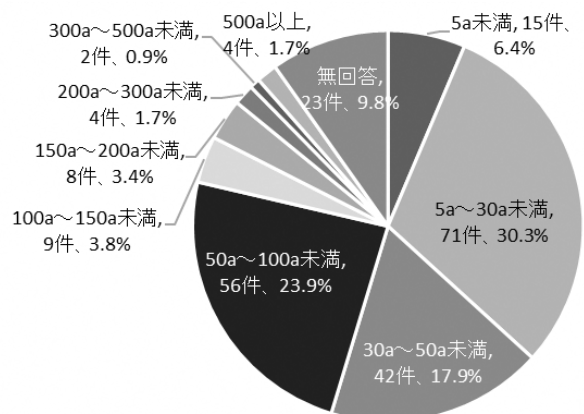
9 農地の状況についてお伺いします。

問 23 あなたが所有 (市内・市外) 及び貸借して営農する農地の合計面積を教えてください。(単一回答)

○所有する農地の規模として、「5a~30a 未満」(30.3%) が最も多く、次いで、「50a~100a 未満」(23.9%)、「30a~50a 未満」(17.9%) の順となっている。

項目	今回		前回 (H30)
	件数	割合	割合
(1)5a 未満	15	6.4%	6.2%
(2)5a~30a 未満	71	30.3%	34.5%
(3)30a~50a 未満	42	17.9%	19.5%
(4)50a~100a 未満	56	23.9%	19.5%
(5)100a~150a 未満	9	3.8%	8.0%
(6)150a~200a 未満	8	3.4%	0.9%
(7)200a~300a 未満	4	1.7%	1.8%
(8)300a~500a 未満	2	0.9%	0.0%
(9)500a 以上	4	1.7%	2.7%
(10)無回答	23	9.8%	7.1%

n=234



問 24 あなたの農地保全・活用の課題について教えてください。(複数回答)

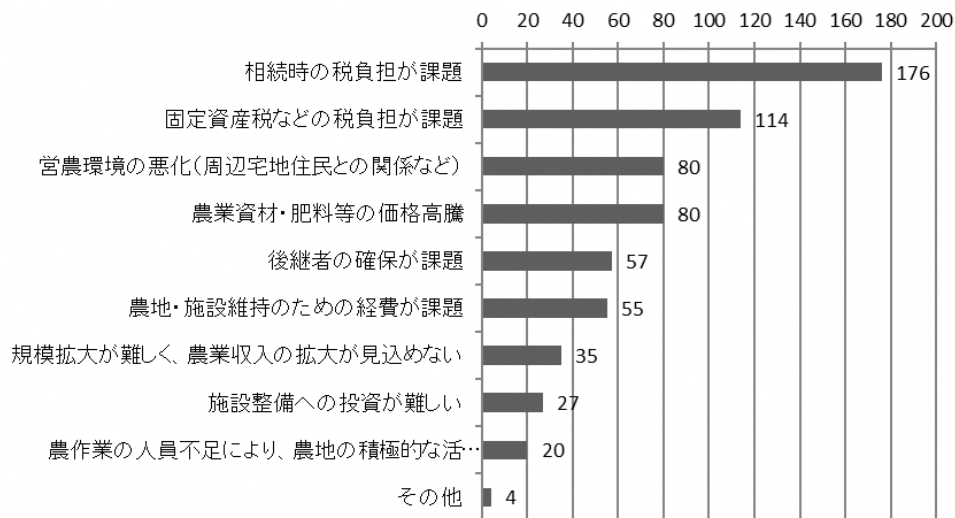
○農地保全・活用上の課題として、「相続時の税負担が課題」と挙げる回答者が最も多く、回答者の75.2%を占める。次いで、「固定資産税などの税負担が課題」(48.7%)、「営農環境の悪化(周辺宅地住民との関係など)」と「農業資材・肥料等の価格高騰」(34.2%)の順となっている。

○前回と比べ、「後継者の確保が課題」、「農地・施設維持のための経費が課題」との回答割合が上がっている。

項目	今回		前回(H30)
	件数	割合	割合
(1)相続時の税負担が課題	176	75.2%	80.5%
(2)固定資産税などの税負担が課題	114	48.7%	52.2%
(3)営農環境の悪化(周辺宅地住民との関係など)	80	34.2%	43.4%
(4)農業資材・肥料等の価格高騰	80	34.2%	
(5)規模拡大が難しく、農業収入の拡大が見込めない	35	15.0%	16.8%
(6)後継者の確保が課題	57	24.4%	15.0%
(7)農作業の人員不足により、農地の積極的な活用が図れないことが課題	20	8.5%	16.8%
(8)施設整備への投資が難しい	27	11.5%	11.5%
(9)農地・施設維持のための経費が課題	55	23.5%	16.8%
(10)その他	4	1.7%	1.8%

n=234

[(10)その他]の具体的な内容：
ゴミの不法投棄/東京都の道路との線引き 等



問 25 都市農地に関する制度の改正により、

相続税納税猶予制度適用農地でも貸借が可能になり、貸借中に生産緑地の相続が発生した場合も相続税納税猶予制度の適用を受けることができます。

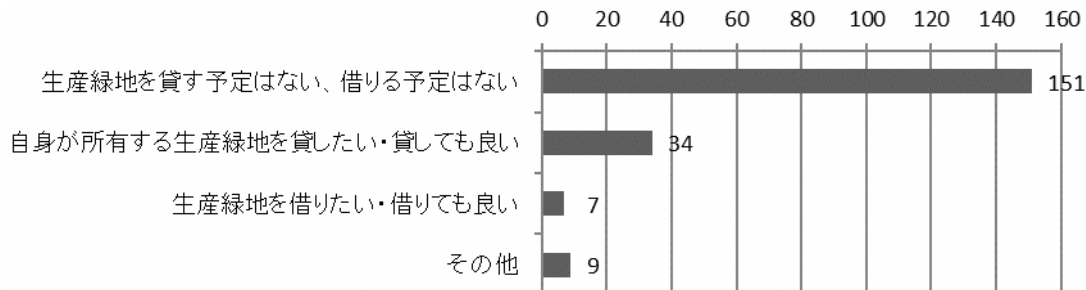
これを受けて、生産緑地の貸借について、あなたのお考えをお聞かせください。(複数回答)

○生産緑地の貸借について、「生産緑地を貸す予定はない、借りる予定はない」と挙げる回答者が最も多く、回答者の64.5%を占める。次いで、「自身が所有する生産緑地を貸したい・貸しても良い」(14.5%)の順となっており、「生産緑地を借りたい・借りても良い」は3.0%に留まっている。

○「生産緑地を貸したい・貸しても良い」とお考えの方が望む活用は、「JA や行政に貸して市民農園を開設してほしい」(61.8%)が最も多く、次いで、「地域の担い手に貸して営農を続けてもらいたい」(41.2%)、「新規就農者に貸して、営農を続けてもらいたい」(23.5%)の順となっている。

項目	件数	割合
(1)自身が所有する生産緑地を貸したい・貸しても良い	34	14.5%
(2)生産緑地を借りたい・借りても良い	7	3.0%
(3)生産緑地を貸す予定はない、借りる予定はない	151	64.5%
(4)その他	9	3.8%

n=234

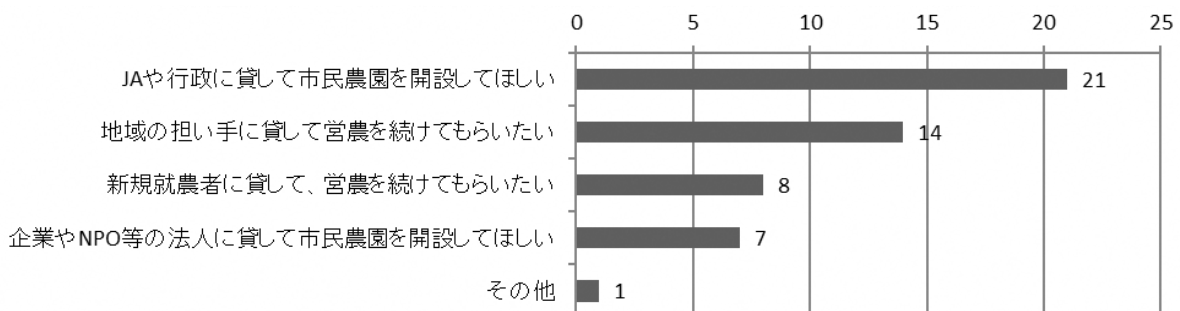


問 25 で「(1)自身が所有する生産緑地を貸したい・貸しても良い」を回答した方

自身が所有する生産緑地を貸したい・貸しても良いとお考えの場合には、どのような活用を望みますか。
(複数回答)

項目	件数	割合
(1)地域の担い手に貸して営農を続けてもらいたい	14	41.2%
(2)新規就農者に貸して、営農を続けてもらいたい	8	23.5%
(3)JA や行政に貸して市民農園を開設してほしい	21	61.8%
(4)企業や NPO 等の法人に貸して市民農園を開設してほしい	7	20.6%
(5)その他	1	2.9%

n=34



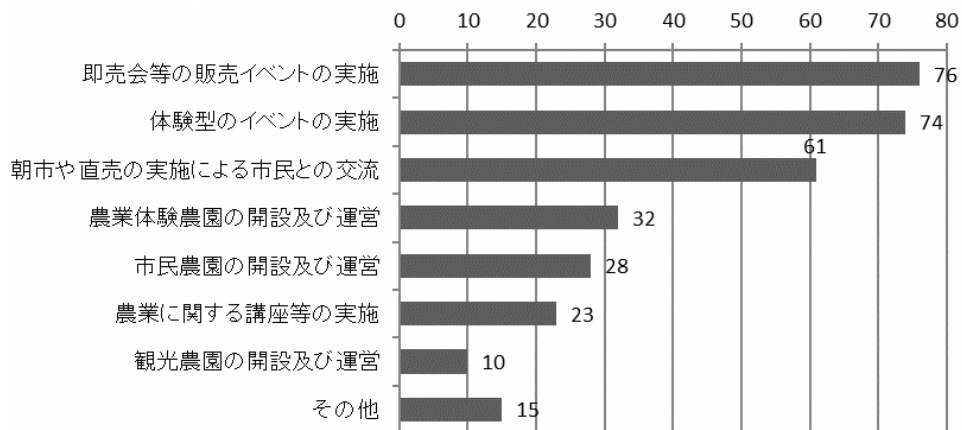
10 農業を通じた市民等との交流についてお伺いします。

問 26 今後、農業を通じた市民等との交流にあたっては、どのような取り組みが効果的か、お考えを教えてください。(複数回答)

- 市民等との交流にあたって、効果的な取り組みとしては、「即売会等の販売イベントの実施」(32.5%)が最も多く、次いで、「体験型のイベントの実施」(31.6%)、「朝市の実施による市民との交流」(26.1%)、「農業体験農園の開設及び運営」(13.7%)、「市民農園の開設及び運営」(12.0%)の順となっている。
- 前回は、「朝市の実施による市民との交流」が最も多かったが、今回は、「即売会等の販売イベントの実施」が最も多くなっている。また、「即売会等の販売イベントの実施」、「体験型のイベントの実施」、「農業に関する講座等の実施」との回答割合が上がっている。

項目	今回		前回 (H30)
	件数	割合	割合
(1)体験型のイベントの実施	74	31.6%	26.5%
(2)農業に関する講座等の実施	23	9.8%	7.1%
(3)即売会等の販売イベントの実施	76	32.5%	26.5%
(4)市民農園の開設及び運営	28	12.0%	15.9%
(5)農業体験農園の開設及び運営	32	13.7%	15.0%
(6)観光農園の開設及び運営	10	4.3%	8.0%
(7)朝市の実施による市民との交流	61	26.1%	33.6%
(8)その他	15	6.4%	6.2%

n=234



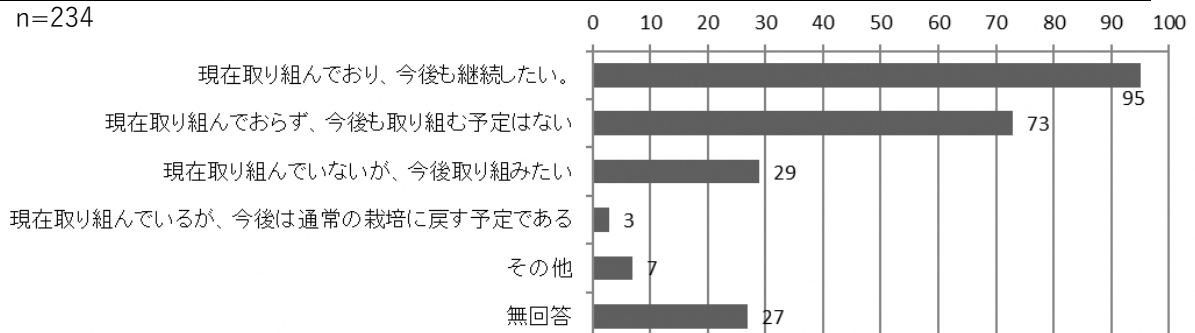
11 環境に配慮した農業についてお伺いします。

問 27 有機農業など環境に配慮した農業について、お考えをお聞かせください。(単一回答)

- 有機農業など環境に配慮した農業については、「現在取り組んでおり、今後も継続したい」(40.6%)が最も多く、次いで、「現在取り組んでおらず、今後も取り組む予定はない」(31.2%)、「現在取り組んでいないが、今後取り組みたい」(12.4%)の順となっている。
- どのような環境に配慮した農業に取り組んでいるかについては、「農薬の使用量を減らしている」(74.5%)が最も多く、次いで、「化学肥料を使わないなど環境に配慮した肥料を使用している」(36.7%)、「環境に配慮した機材や資材を利用している」(15.3%)の順になっている。

項目	件数	割合
(1)現在取り組んでおり、今後も継続したい	95	40.6%
(2)現在取り組んでいるが、今後は通常の栽培に戻す予定である	3	1.3%
(3)現在取り組んでいないが、今後取り組みたい	29	12.4%
(4)現在取り組んでおらず、今後も取り組む予定はない	73	31.2%
(5)その他	7	3.0%
(6)無回答	27	11.5%

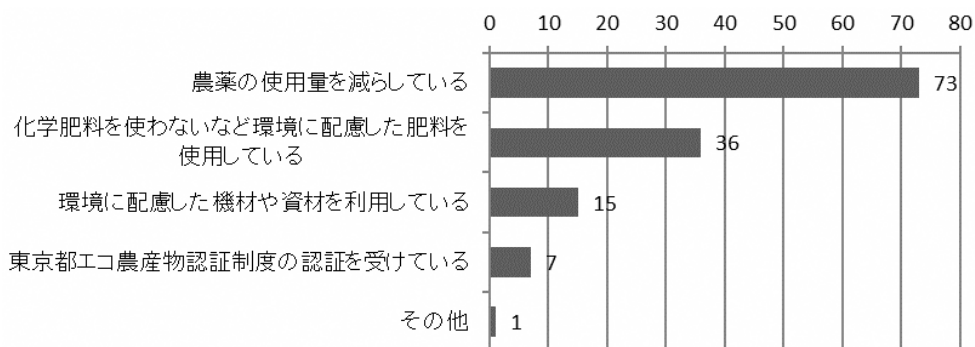
n=234



取り組んでいるとお答えの場合には、どのようなことに取り組んでいますか。(複数回答)

項目	件数	割合
(1)化学肥料を使わないなど環境に配慮した肥料を使用している	36	36.7%
(2)農薬の使用量を減らしている	73	74.5%
(3)環境に配慮した機材や資材を利用している	15	15.3%
(4)東京都エコ農産物認証制度の認証を受けている	7	7.1%
(5)その他	1	1.0%

n=98



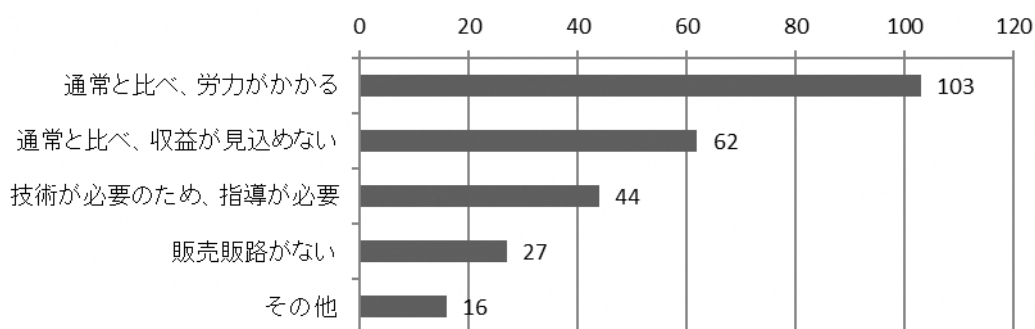
問 28 有機農業など環境に配慮した農業に取り組むことの課題について、お考えをお聞かせください。(複数回答)

○有機農業など環境に配慮した農業に取り組むにあたっての課題は、「通常と比べ、労力がかかる」(44.0%)が最も多く、次いで、「通常と比べ、収益が見込めない」(26.5%)、「技術が必要のため、指導が必要」(18.8%)の順となっている。

項目	件数	割合
(1)通常と比べ、収益が見込めない	62	26.5%
(2)通常と比べ、労力がかかる	103	44.0%
(3)技術が必要のため、指導が必要	44	18.8%
(4)販売販路がない	27	11.5%
(5)その他	16	6.8%

n=234

[(5)その他]の具体的な内容：
大規模でない有機農業経営は難しい／花卉などは見栄えを重視する必要がある／おい等の苦情が心配 等



問 29 営農、農業経営に関する課題や農地保全に関する課題、第2次農業振興計画策定からの10年間の農業施策の評価、今後の第3次農業施策に対する期待など、ご意見がありましたらご自由にご記入ください。

① 農業経営（所得向上、後継者問題等）に関する意見

- ・農業経営を生業にしたいという若者が増えることを期待。
- ・農業に期待していない。不動産の収入を上げていることを考えている。
- ・農業経営が楽になり、農家が増えるような状況になってほしいと願っている。
- ・どの様にしたら収益をあげられるか、労働の対価に見合う利益を確保出来るかが問題である。
- ・高齢のため体力が限界である。
- ・農業をやっていく上で必要なことがそろっていない。価格が安定しない。上がればテレビなどで騒がれ、下がれば当たり前。人件費、肥料資材に対してかかる費用を考えてほしい。

等

② 農業振興の取組に関する意見

- ・JAとコラボして経験のない人にも積極的に取組めることで農地保全に通じる。
- ・都心部では面積、環境含め有機農業は無理である。
- ・西東京市も例外なく後継者の不在、相続等で年を追うごとに農業が産業として縮小していくことは確実である。個人的には農業・農地を守るといった施策は意味をなさず、厳しい状況を今後も生き残れるような意欲のある農業者が今後も安心して農業を続けられるような西東京市であってほしい。
- ・農業を続けていけるよう考えていかないと食料がなくなる。輸入に頼らず、地産地消を強く感じている。
- ・施設利用は有効と思う。
- ・東大農場跡地を東京第2の道の駅化、6次産業研究実施はどうか。
- ・東京農業にエールを送る。
- ・もっと国会で土地、農地かつ費用をとりあげてほしい。
- ・温暖化になるのも土地が減って高層ビルなどが建ち、熱の逃げ場がなくなったことも多いにあると思う。
- ・相続時に東京都に買ってもらい、一部農家レストランを開き、地場野菜の料理、販売、教室などを行い、残りの畑は農業体験農園を行う。管理は農園協会が行い、市民の方が活気あふれる場にしたい。
- ・西東京市の生産緑地は激減しているのがとても心配である。可能な限り、減少速度を少しでも抑える努力をしていくので、ご支援及び協力をお願いしたいと思う。
- ・農地減少は避けることができない。減少をできるだけ緩やかにすることを考えることが大切である。

等

③ 支援施策に関する意見

- ・経営が安定するまでの資金的支援。
- ・契約期間のある農地貸借の仕組み（投資しやすいように）。
- ・ビニールハウス、作業場の貸借支援など。
- ・参加意欲に農家ごとの差が大きいと感じる。将来、積極的に農業に取り組みたい方々への支援は必要だと思うが、相続等で農地の大半を売却してしまい、名ばかりが農家となっている方々の扱いも検討すべきではないか。
- ・直売所設置の補助、農機具などの補助。
- ・専門家の技術指導。

- ・相続で土地の売買がある場合に市で購入してもらう。
- ・市民農園ではなく市が経営できるようにする。
- ・都市農家が法人化した時のメリット・デメリットを、営農を考える上で考慮していかなければ黒字化を目指すのは難しいのかと思う。法人化した場合などの講座等あれば嬉しい。
- ・農業者への助成金や支援は規模に応じて行うべきである。現在までのやり方ではバラマキにすぎないと考えている。
- ・庭先など規模的に小さい農家から大規模迄全体がまとまることはないので、また新しい志を持ち計画をもっている方も少ないと思う。全体を規模に分けてそれぞれに合ったものを考える。小規模でも農地を残そうとしている人たちがいる。農地として申請しても営農もしないのはペナルティーの強化をしないとイケない。今までと同じ策では自然環境も変わっている中、自然相手の農業をもっと考え直すべきと思う。
- ・相続の時、土地、農地を売らない方法を考えてほしい。
- ・評価できない、期待できない、していない。
- ・食糧自給率を回復するためにも都市近郊農地を保全する施策が必要であると思う。

等

④ 税制に関する意見

- ・相続税が高く、農地の減少が心配である。
- ・相続時の税負担が一番の問題である。
- ・現在の農業は相続により畑がどんどん減少している。この点を改良していただかないと東京の農地はなくなってしまう。
- ・固定資産税等の納税分を確保出来ないで、農業収入で生活が不可能な事が最大の課題である。
- ・宅地並相続すると宅地課税になってしまい、農地が存続できない。税金を払ってでも同じ事ができない。政府も少し思っほしい。
- ・農地保全と言っても親が亡くなれば相続税を払わなければならない。少しでも相続税が減れば、畑をてばなさに済むのではないか。今のままだと3代で営農者がいても、畑がないという事になってしまいそうである。

等

⑤ 法制度に関する意見

- ・相続税納税猶予制度適用農地でも貸借が可能になったことがありがたい。
- ・20年間の相続税納税猶予制度も終わり、生産緑地のみとなった為、気持ち的に楽になった。終生の制度では畑は減少していくと考える。いくら貸借が出来るにしても、借りてまでも農業をやりたいという人はそうはいないと思う。

等

⑥ その他

- ・学校農園を10数年行ったが先生により考え方の相違があり、農業者の思うようにいかない。ボールが畑に入り農作物の出荷不能になったり、ハウスがボールで穴が開いた。境界の雑草で困った。

等

(2) 市民意向調査

ア アンケート概要

項目	内容
目的	・農産物の購入方法、市内産農産物の購入実態、農地を近隣に持つ市民としての意見、農業振興上の課題等の把握
調査対象	・市民 3,000 票 ※18 歳以上の市民無作為抽出による。ただし、年齢別に抽出。
配布回収方法	・郵送配布・郵送または WEB 回収（令和 4 年 12 月 2 日～12 月 23 日）
回収数	・891 件（回収率 29.7%）（郵送回収 618 件、WEB 回答 273 件）
設問概要	<p>【属性】</p> <p>問 1：年齢 問 2：性別 問 3：職業 問 4：家族構成 問 5：住まいの形態 問 6：居住地 問 7：西東京市への居住年数 ※問 8～27 まで産業振興アンケート</p> <p>【農産物の消費】</p> <p>問 28：日頃、農産物を購入する場所 問 29：農産物を買う際に重視している点 問 30：市内産農産物を購入する理由 問 31：市内産農産物の購入場所 問 32：農産物直売所を利用する理由 問 33：市内の農産物を購入しない理由</p> <p>【西東京市の農業・農地の役割】</p> <p>問 34：西東京市内の農業や農地についてのイメージ 問 35：西東京市の農業について知っていること 問 36：農業・農地が持つ役割で、今後期待すること</p> <p>【農とのふれあい】</p> <p>問 37：農業体験など、農とのふれあいの経験 問 38：市民農園や農業体験農園の利用意向 問 39：アルバイトやボランティアでの農業や農作業の手伝いへの興味</p> <p>【過去 5 年間の農業施策】</p> <p>問 40：事業の実施内容・状況の満足度、重要度</p> <p>【その他】</p> <p>問 41：自由意見</p>

※アンケート結果の比率は、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しているため、百分率の合計が 100.0%にならないことがあります。

イ アンケート結果

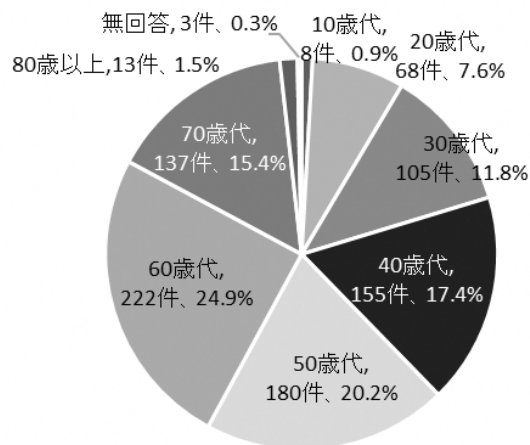
1 あなたとご家族のことについてお伺いします。

問1 あなたの年齢は、おいくつですか？（単一回答）

○回答者の年齢として、「60歳代」が最も多く（24.9%）、次いで、「50歳代」（20.2%）、「40歳代」（17.4%）、「70歳代」（15.4%）、「30歳代」（11.8%）と続く。

項目	件数	割合
(1)10歳代	8	0.9%
(2)20歳代	68	7.6%
(3)30歳代	105	11.8%
(4)40歳代	155	17.4%
(5)50歳代	180	20.2%
(6)60歳代	222	24.9%
(7)70歳代	137	15.4%
(8)80歳以上	13	1.5%
(9)無回答	3	0.3%

n = 891

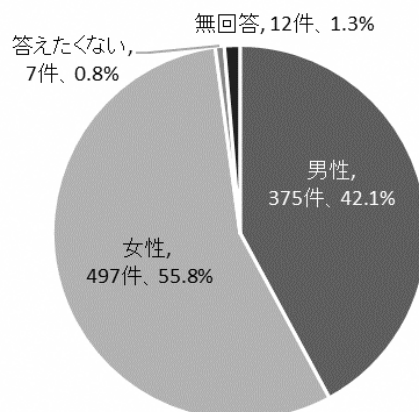


問2 あなたの性別をお答えください。（単一回答）

○回答者の性別は、「女性」が55.8%、「男性」が42.1%である。

項目	件数	割合
(1)男性	375	42.1%
(2)女性	497	55.8%
(3)答えたくない	7	0.8%
(4)無回答	12	1.3%

n = 891

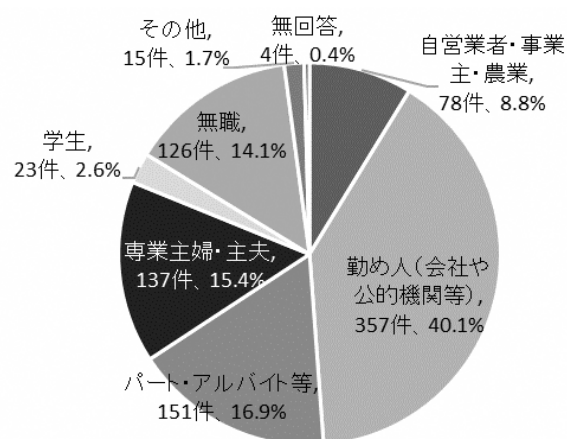


問3 あなたの職業は何ですか？（単一回答）

○回答者の職業として、「勤め人（会社や公的機関等）」（40.1%）が最も多く、次いで、「パート・アルバイト等」（16.9%）、「専業主婦・主夫」（15.4%）、「無職」（14.1%）、と続く。

項目	件数	割合
(1)自営業者・事業主・農業	78	8.8%
(2)勤め人（会社や公的機関等）	357	40.1%
(3)パート・アルバイト等	151	16.9%
(4)専業主婦・主夫	137	15.4%
(5)学生	23	2.6%
(6)無職	126	14.1%
(7)その他	15	1.7%
(8)無回答	4	0.4%

n = 891

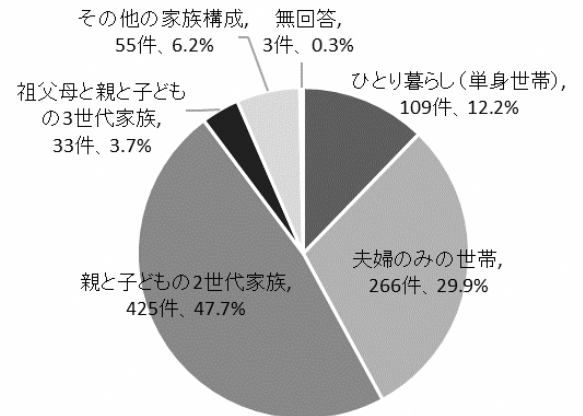


問4 あなたを含めて同居している家族構成はどれですか？（単一回答）

○回答者の家族構成として、「親と子どもの2世代家族」（47.7%）が最も多く、次いで、「夫婦のみの世帯」（29.9%）となっている。「ひとり暮らし（単身世帯）」の割合は1割程度である。

項目	件数	割合
(1)ひとり暮らし（単身世帯）	109	12.2%
(2)夫婦のみの世帯	266	29.9%
(3)親と子どもの2世代家族	425	47.7%
(4)祖父母と親と子どもの3世代家族	33	3.7%
(5)その他の家族構成	55	6.2%
(6)無回答	3	0.3%

n = 891

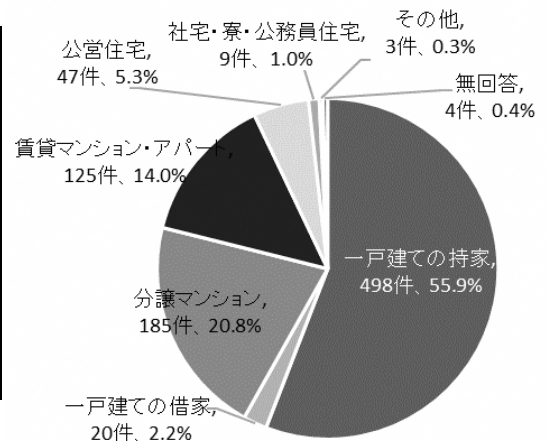


問5 あなたのお住まいの形態はどれですか？（単一回答）

○回答者のお住まいとして、「一戸建ての持家」（55.9%）の割合が最も多く、次いで、「分譲マンション」（20.8%）、「賃貸マンション・アパート」（14.0%）の順となっている。

項目	件数	割合
(1)一戸建ての持家	498	55.9%
(2)一戸建ての借家	20	2.2%
(3)分譲マンション	185	20.8%
(4)賃貸マンション・アパート	125	14.0%
(5)公営住宅（市営・都営・公社等）	47	5.3%
(6)社宅・寮・公務員住宅	9	1.0%
(7)その他	3	0.3%
(8)無回答	4	0.4%

n = 891



問6 あなたのお住まいはどちらですか？（単一回答）

○回答者のお住まいとしては、「芝久保町」（9.0%）が最も多く、次いで、「向台町」（7.5%）、「谷戸町」（7.0%）、「田無町」（6.2%）、ひばりが丘（6.2%）、保谷町（6.1%）の順となっている。

項目	件数	割合	項目	件数	割合
(1)田無町	55	6.2%	(13)富士町	45	5.1%
(2)南町	44	4.9%	(14)中町	31	3.5%
(3)西原町	25	2.8%	(15)東町	41	4.6%
(4)緑町	19	2.1%	(16)泉町	40	4.5%
(5)谷戸町	62	7.0%	(17)住吉町	31	3.5%
(6)北原町	30	3.4%	(18)ひばりが丘	55	6.2%
(7)向台町	67	7.5%	(19)ひばりが丘北	15	1.7%
(8)芝久保町	80	9.0%	(20)栄町	27	3.0%
(9)新町	37	4.2%	(21)北町	31	3.5%
(10)柳沢	39	4.4%	(22)下保谷	35	3.9%
(11)東伏見	25	2.8%	(23)無回答	3	0.3%
(12)保谷町	54	6.1%			

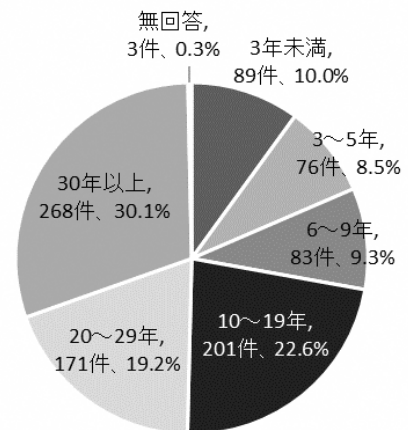
n = 891

問7 西東京市にお住まいになってどれくらいですか？（単一回答）

○西東京市への居住年数として、「30年以上」（30.1%）が最も多く、次いで、「10～19年」（22.6%）、「20～29年」（19.2%）の順となっている。

項目	件数	割合
(1)3年未満	89	10.0%
(2)3～5年	76	8.5%
(3)6～9年	83	9.3%
(4)10～19年	201	22.6%
(5)20～29年	171	19.2%
(6)30年以上	268	30.1%
(7)無回答	3	0.3%

n = 891



7 農産物の消費についてお伺いします。

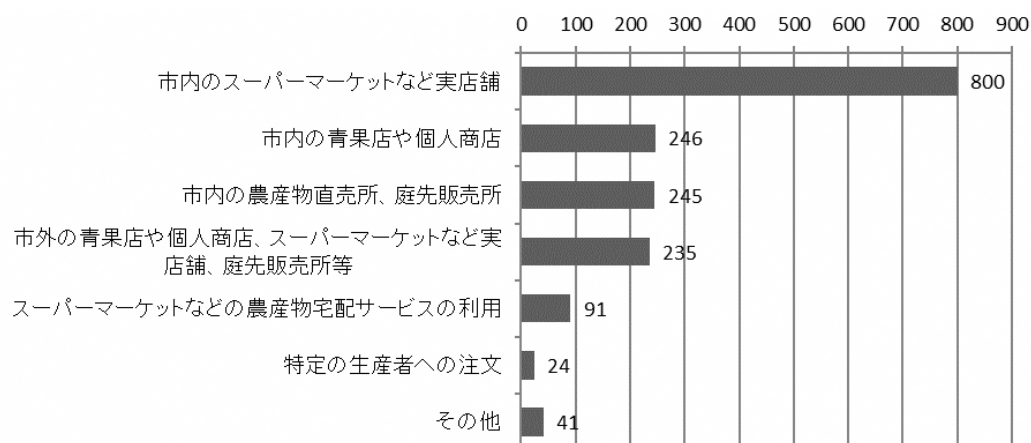
問28 日頃、農産物を主にどこで（どのように）買いますか？（複数回答：3つまで）

- 回答者の 89.8%が「市内のスーパーマーケットなど実店舗」で日頃、農産物を購入している。次いで、「市内の青果店や個人商店」（27.6%）、「市内の農産物直売所（JA 含む）、庭先販売所」（27.5%）の順となっている。
- 回答者の年齢別に見ると、どの年代も「市内のスーパーマーケットなど実店舗」との回答割合が多い。また、「市内の農産物直売所（JA 含む）、庭先販売所」は、年代が高くなるほど利用が多いが、20 歳代も一定数いる。
- 回答者の居住年数別に見ると、居住年数が「30 年以上」の回答者にとっては、4 割弱の回答者が、「市内の農産物直売所（JA 含む）、庭先販売所」を利用している。

項目	件数	割合
(1)市内の青果店や個人商店	246	27.6%
(2)市内のスーパーマーケットなど実店舗	800	89.8%
(3)市内の農産物直売所（JA 含む）、庭先販売所	245	27.5%
(4)市外の青果店や個人商店、スーパーマーケットなど実店舗、庭先販売所	235	26.4%
(5)スーパーマーケットなどの農産物宅配サービスの利用（ネット、電話、注文票で注文するもの）	91	10.2%
(6)特定の生産者への注文（ネット、電話等含む）	24	2.7%
(7)その他	41	4.6%

n = 891

[(7)その他] の具体的な内容：
市外のデパート／市外の直売所／市外の道の駅 等



<年齢とのクロス>

項目		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳～
(1)市内の青果店や個人商店	件数	0	15	30	45	49	66	38	3
	割合	-	22.1%	28.6%	29.0%	27.2%	29.7%	27.7%	23.1%
(2)市内のスーパーマーケット、生協店舗	件数	5	62	94	146	156	204	120	10
	割合	62.5%	91.2%	89.5%	94.2%	86.7%	91.9%	87.6%	76.9%
(3)市内の農産物直売所（JA含む）、庭先販売所	件数	0	16	16	35	44	71	59	4
	割合	-	23.5%	15.2%	22.6%	24.4%	32.0%	43.1%	30.8%
(4)市外の青果店や個人商店、スーパーマーケットなど実店舗、庭先販売所	件数	0	12	27	43	49	63	37	4
	割合	-	17.6%	25.7%	27.7%	27.2%	28.4%	27.0%	30.8%
(5)スーパーマーケットなどの農産物宅配サービスの利用	件数	1	4	8	26	26	17	8	1
	割合	12.5%	5.9%	7.6%	16.8%	14.4%	7.7%	5.8%	7.7%
(6)特定の生産者への注文（ネット、電話等含む）	件数	0	1	3	0	6	8	5	1
	割合	-	1.5%	2.9%	-	3.3%	3.6%	3.6%	7.7%
(7)その他	件数	3	2	1	4	9	6	14	2
	割合	37.5%	2.9%	1.0%	2.6%	5.0%	2.7%	10.2%	15.4%

<居住年数とのクロス>

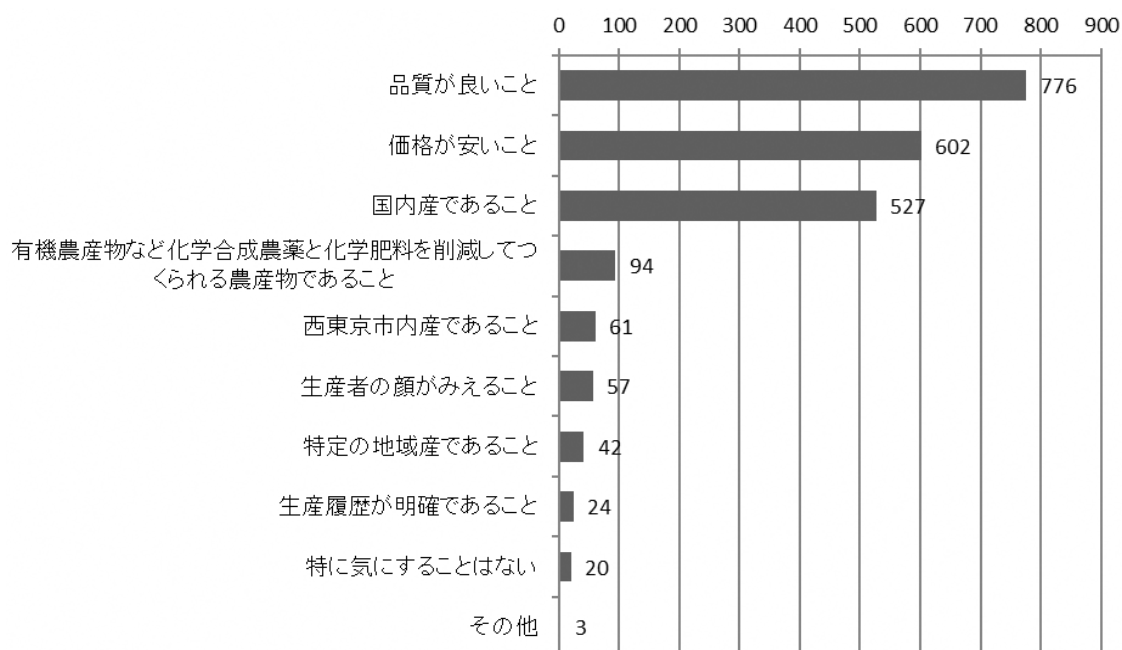
項目		3年未満	3～5年	6～9年	10～19年	20～29年	30年以上
(1)市内の青果店や個人商店	件数	21	24	22	57	44	78
	割合	23.6%	31.6%	26.5%	28.4%	25.7%	29.1%
(2)市内のスーパーマーケット、生協店舗	件数	80	73	71	180	154	239
	割合	89.9%	96.1%	85.5%	89.6%	90.1%	89.2%
(3)市内の農産物直売所（JA含む）、庭先販売所	件数	16	19	18	51	36	105
	割合	18.0%	25.0%	21.7%	25.4%	21.1%	39.2%
(4)市外の青果店や個人商店、スーパーマーケットなど実店舗、庭先販売所	件数	21	18	28	55	53	60
	割合	23.6%	23.7%	33.7%	27.4%	31.0%	22.4%
(5)スーパーマーケットなどの農産物宅配サービスの利用	件数	10	5	11	26	20	19
	割合	11.2%	6.6%	13.3%	12.9%	11.7%	7.1%
(6)特定の生産者への注文（ネット、電話等含む）	件数	3	2	1	5	6	7
	割合	3.4%	2.6%	1.2%	2.5%	3.5%	2.6%
(7)その他	件数	5	2	4	4	7	19
	割合	5.6%	2.6%	4.8%	2.0%	4.1%	7.1%

問 29 農産物を買う際に重視している点は何ですか？（複数回答：3つまで）

- 農産物を買う際に気にしていることとして、回答者の 87.1%が「品質が良いこと（新鮮であること）」を挙げている。次いで、「価格が安いこと」が 67.6%、「国内産であること」が 59.1%の順となっている。
- 回答者の年齢別に見ると、どの年代も「品質が良いこと」を挙げる割合が高い。
- 前回と比べ、「西東京市内産であること」、「品質が良いこと」、「価格が安いこと」、「生産者の顔がみえること」との回答割合が上がっている。

項目	今回		前回（H30）
	件数	割合	割合
(1)国内産であること	527	59.1%	74.4%
(2)西東京市内産であること	61	6.8%	6.3%
(3)特定の地域産であること（有名な生産地など）	42	4.7%	6.9%
(4)品質が良いこと（新鮮であること）	776	87.1%	84.7%
(5)価格が安いこと	602	67.6%	66.9%
(6)有機農産物や化学合成農薬と化学肥料を削減してつくられる農産物であること	94	10.5%	13.4%
(7)生産履歴（肥料・農薬等の使用記録）が明確であること	24	2.7%	3.4%
(8)生産者の顔がみえること（生産者名表示など生産者がわかること）	57	6.4%	5.6%
(9)特に気にすることはない	20	2.2%	2.5%
(10)その他	3	0.3%	1.6%

n = 891



<年齢とのクロス>

項目		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳～
(1)国内産であること	件数	4	33	50	87	112	143	87	9
	割合	50.0%	48.5%	47.6%	56.1%	62.2%	64.4%	63.5%	69.2%
(2)西東京市内産であること	件数	0	5	5	9	7	19	15	1
	割合	-	7.4%	4.8%	5.8%	3.9%	8.6%	10.9%	7.7%
(3)特定の地域産であること(有名な生産地など)	件数	1	3	4	6	6	12	10	0
	割合	12.5%	4.4%	3.8%	3.9%	3.3%	5.4%	7.3%	-
(4)品質が良いこと(新鮮であること)	件数	7	54	92	133	155	199	123	11
	割合	87.5%	79.4%	87.6%	85.8%	86.1%	89.6%	89.8%	84.6%
(5)価格が安いこと	件数	6	54	81	119	124	136	76	5
	割合	75.0%	79.4%	77.1%	76.8%	68.9%	61.3%	55.5%	38.5%
(6)有機農産物や化学合成農薬と化学肥料を削減してつくられる農産物であること	件数	2	5	11	11	14	24	23	3
	割合	25.0%	7.4%	10.5%	7.1%	7.8%	10.8%	16.8%	23.1%
(7)生産履歴(肥料・農薬等の使用記録)が明確であること	件数	0	1	2	5	7	5	3	1
	割合	-	1.5%	1.9%	3.2%	3.9%	2.3%	2.2%	7.7%
(8)生産者の顔がみえること(生産者名表示など生産者がわかること)	件数	0	0	4	7	9	15	18	3
	割合	-	-	3.8%	4.5%	5.0%	6.8%	13.1%	23.1%
(9)特に気にすることはない	件数	0	3	4	4	2	6	1	0
	割合	-	4.4%	3.8%	2.6%	1.1%	2.7%	0.7%	-
(10)その他	件数	0	1	0	0	1	0	0	1
	割合	-	1.5%	-	-	0.6%	-	-	7.7%

問30 市内産の農産物を購入される理由は何ですか？(単一回答)

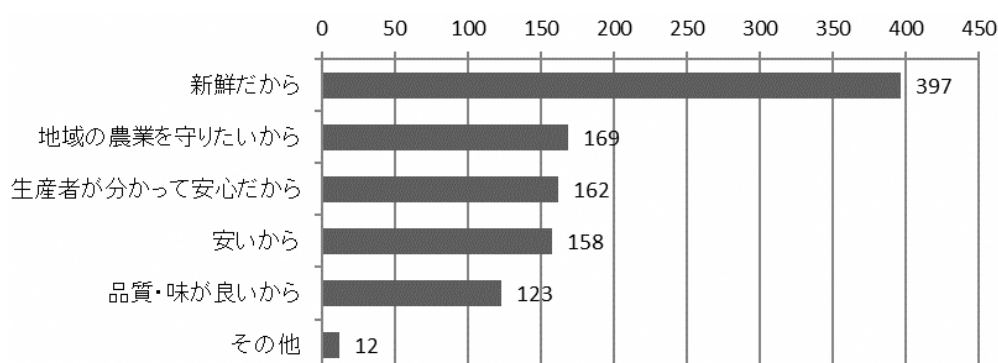
- 「西東京市産の農産物を購入していない」回答者の割合は約3割で、約6割が「市内産の農産物を購入している」。
- 西東京市産の農産物を購入する理由として、「新鮮だから」(73.4%)が最も多く、次いで、「地域の農業を守りたいから」(31.2%)、「生産者が分かって安心だから」(29.9%)、「安いから」(29.2%)の順となっている。
- 回答者の年齢別に見ると、「西東京市産の農産物を購入していない」回答者は、年代が若いほど割合が高い傾向にある。
- 回答者の市内への居住年数別に見ても、「西東京市産の農産物を購入していない」回答者は、居住年数が浅いほど割合が高い傾向にある。
- 前回と比べ、「地域の農業を守りたいから」、「新鮮だから」との回答割合が上がっている。

項目	件数	割合
(1)市内産の農産物を購入している	541	60.7%
(2)市内産農産物を購入していない	268	30.1%
(3)無回答	82	9.2%

項目	今回		前回(H30)
	件数	割合	割合
(1)生産者が分かって安心だから	162	29.9%	24.1%
(2)地域の農業を守りたいから	169	31.2%	15.6%
(3)品質・味が良いから	123	22.7%	17.8%
(4)新鮮だから	397	73.4%	42.8%
(5)安いから	158	29.2%	21.6%
(6)その他	12	2.2%	1.6%

n=541

〔(6)その他〕の具体的な内容：
近所で購入できるから／スーパーで売っているから 等



<年齢とのクロス>

項目		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳～
(1)市内産の農産物を購入している	件数	3	31	45	91	110	156	96	7
	割合	37.5%	45.6%	42.9%	58.7%	61.1%	70.3%	70.1%	53.8%
①生産者が分かって安心だから	件数	1	15	8	18	35	51	31	2
	割合	12.5%	22.1%	7.6%	11.6%	19.4%	23.0%	22.6%	15.4%
②地域の農業を守りたいから	件数	0	11	12	34	34	50	26	2
	割合	-	16.2%	11.4%	21.9%	18.9%	22.5%	19.0%	15.4%
③品質・味が良いから	件数	1	7	11	18	28	37	21	0
	割合	12.5%	10.3%	10.5%	11.6%	15.6%	16.7%	15.3%	-
④新鮮だから	件数	3	16	31	67	74	118	81	6
	割合	37.5%	23.5%	29.5%	43.2%	41.1%	53.2%	59.1%	46.2%
⑤安いから	件数	2	12	14	29	29	47	22	2
	割合	25.0%	17.6%	13.3%	18.7%	16.1%	21.2%	16.1%	15.4%
⑥その他	件数	0	2	1	4	2	2	1	0
	割合	-	2.9%	1.0%	2.6%	1.1%	0.9%	0.7%	-
(2)市内産農産物を購入していない	件数	5	31	56	53	52	52	19	0
	割合	62.5%	45.6%	53.3%	34.2%	28.9%	23.4%	13.9%	-

<居住年数とのクロス>

項目		3年未満	3～5年	6～9年	10～19年	20～29年	30年以上
(1)市内産の農産物を購入している	件数	36	37	51	120	105	190
	割合	40.4%	48.7%	61.4%	59.7%	61.4%	70.9%
①生産者が分かって安心だから	件数	9	12	9	34	32	65
	割合	10.1%	15.8%	10.8%	16.9%	18.7%	24.3%
②地域の農業を守りたいから	件数	4	10	16	47	30	62
	割合	4.5%	13.2%	19.3%	23.4%	17.5%	23.1%
③品質・味が良いから	件数	5	10	10	31	22	45
	割合	5.6%	13.2%	12.0%	15.4%	12.9%	16.8%
④新鮮だから	件数	23	25	34	91	75	148
	割合	25.8%	32.9%	41.0%	45.3%	43.9%	55.2%
⑤安いから	件数	14	11	16	31	38	47
	割合	15.7%	14.5%	19.3%	15.4%	22.2%	17.5%
⑥その他	件数	2	0	3	2	2	3
	割合	2.2%	-	3.6%	1.0%	1.2%	1.1%
(2)市内産農産物を購入していない	件数	43	36	27	65	44	53
	割合	48.3%	47.4%	32.5%	32.3%	25.7%	19.8%

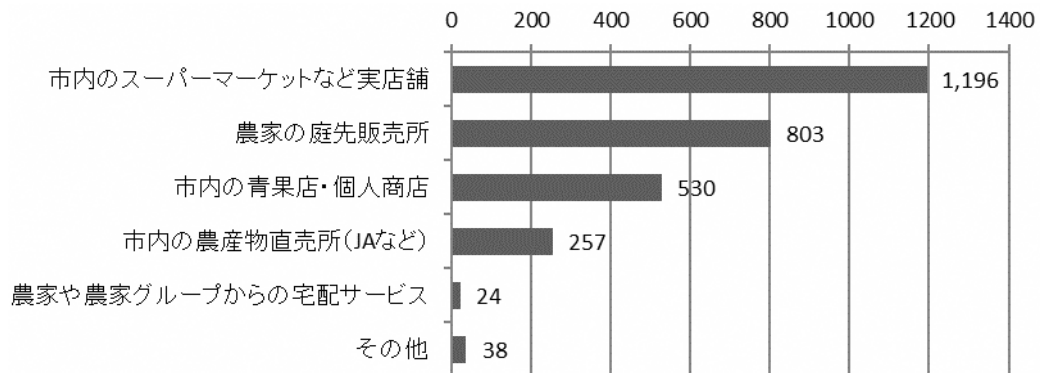
問 31 西東京市内産農産物を購入されている方にお伺いします。購入先の多い場所はどこですか？
(上位3箇所)

○西東京市内産農産物の購入先として、「市内のスーパーマーケットなど実店舗」が最も多く、次いで、「農家の庭先販売所」、「市内の青果店・個人商店」の順となっている。

<第1位：3点、第2位：2点、第3位：1点とした場合の合計点>

項目	点数
(1)市内の青果店・個人商店	530
(2)市内のスーパーマーケットなど実店舗	1,196
(3)市内の農産物直売所 (JA など)	257
(4)農家の庭先販売所	803
(5)農家や農家グループからの宅配サービス	24
(6)その他	38

[(6)その他] の具体的な内容：コンビニエンスストア 等



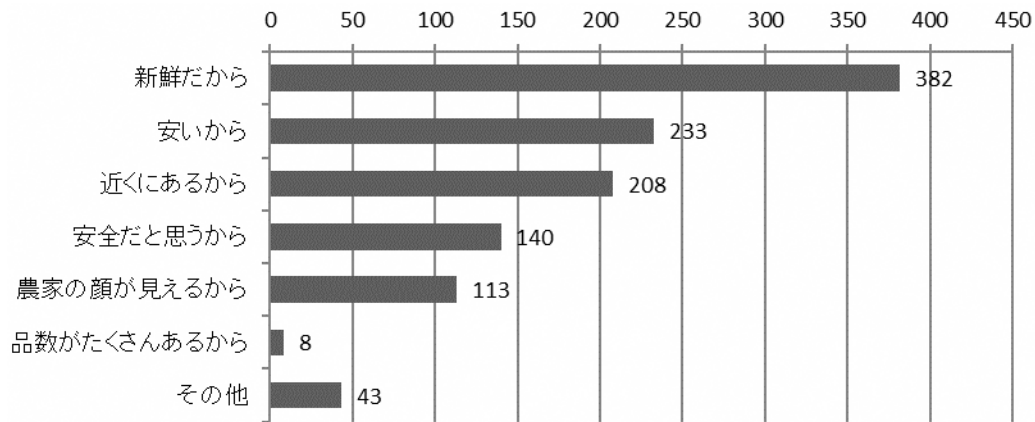
問 32 市内の農産物直売所を利用する方にお伺いします。農産物直売所を利用する理由は何ですか？
(複数回答)

○農産物直売所を利用する理由としては、「新鮮だから」が最も多く、農産物直売所利用者の70.6%を占める。次いで、「安いから」(43.1%)、「近くにあるから」(38.4%)と続く。
○回答者の年齢別に見ると、年齢が高い層では、「農家の顔が見えるから」、及び「安全だと思うから」を、農産物直売所を利用する理由として挙げる回答者の割合が高い。
○回答者の市内への居住年数別に見ると、居住年数が長いほど、「新鮮であるから」を、農産物直売所を利用する理由として挙げる割合が高い。

項目	今回		前回 (H30)
	件数	割合	割合
(1)新鮮だから	382	70.6%	42.2%
(2)安いから	233	43.1%	27.5%
(3)農家の顔が見えるから	113	20.9%	18.8%
(4)安全だと思うから	140	25.9%	16.9%
(5)近くにあるから	208	38.4%	26.6%
(6)品数がたくさんあるから	8	1.5%	0.6%
(7)その他	43	7.9%	1.6%

n = 541

〔(7)その他〕の具体的な内容：
 美味しいから／農家を応援したいから／スーパーで見かけない品もあるから 等



<年齢とのクロス>

項目		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳～
(1)新鮮だから	件数	1	20	26	62	75	112	80	5
	割合	12.5%	29.4%	24.8%	40.0%	41.7%	50.5%	58.4%	38.5%
(2)安いから	件数	1	14	23	42	45	63	42	2
	割合	12.5%	20.6%	21.9%	27.1%	25.0%	28.4%	30.7%	15.4%
(3)農家の顔が見えるから	件数	0	5	7	13	19	31	34	3
	割合	-	7.4%	6.7%	8.4%	10.6%	14.0%	24.8%	23.1%
(4)安全だと思うから	件数	0	6	11	23	27	37	33	3
	割合	-	8.8%	10.5%	14.8%	15.0%	16.7%	24.1%	23.1%
(5)近くにあるから	件数	1	11	16	32	40	62	41	4
	割合	12.5%	16.2%	15.2%	20.6%	22.2%	27.9%	29.9%	30.8%
(6)品数がたくさんあるから	件数	0	0	2	0	3	1	2	0
	割合	-	-	1.9%	-	1.7%	0.5%	1.5%	-
(7)その他	件数	2	3	7	13	8	9	0	1
	割合	25.0%	4.4%	6.7%	8.4%	4.4%	4.1%	-	7.7%

<居住年数とのクロス>

項目		3年未満	3～5年	6～9年	10～19年	20～29年	30年以上
(1)新鮮だから	件数	24	24	25	84	78	146
	割合	27.0%	31.6%	30.1%	41.8%	45.6%	54.5%
(2)安いから	件数	19	15	19	49	48	82
	割合	21.3%	19.7%	22.9%	24.4%	28.1%	30.6%
(3)農家の顔が見えるから	件数	7	8	3	19	22	53
	割合	7.9%	10.5%	3.6%	9.5%	12.9%	19.8%
(4)安全だと思うから	件数	3	7	11	25	34	60
	割合	3.4%	9.2%	13.3%	12.4%	19.9%	22.4%
(5)近くにあるから	件数	16	14	16	49	36	76
	割合	18.0%	18.4%	19.3%	24.4%	21.1%	28.4%
(6)品数がたくさんあるから	件数	0	1	2	1	0	4
	割合	-	1.3%	2.4%	0.5%	-	1.5%
(7)その他	件数	3	2	7	12	9	10
	割合	3.4%	2.6%	8.4%	6.0%	5.3%	3.7%

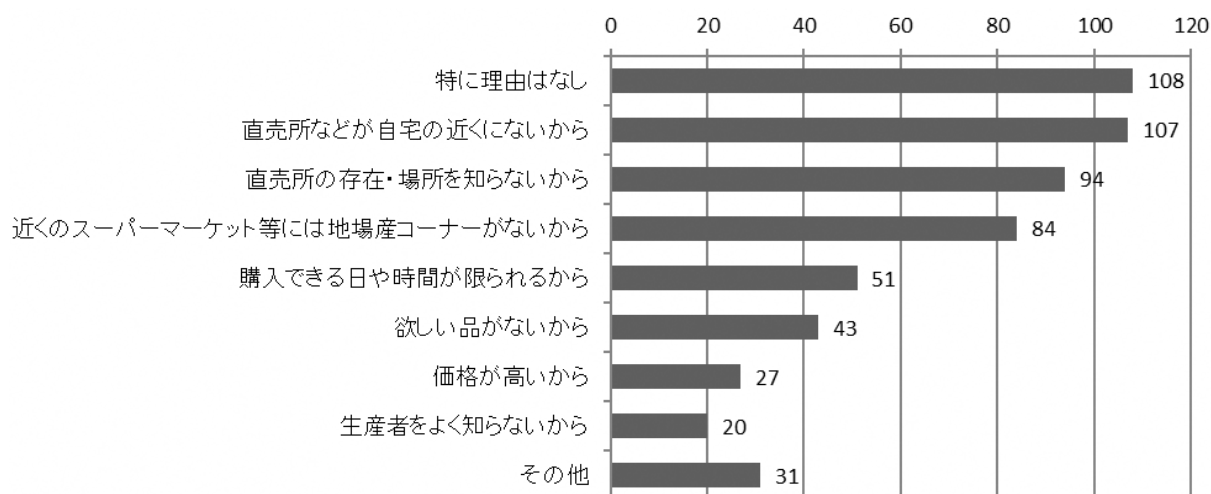
問 33 問 30 で「(2) 市内産農産物を購入していない」を選択した方にお伺いします。購入しない理由は何ですか？（複数回答）

- 市内農産物を購入していない理由として、「特に理由はなし」（40.3%）が最も多く、次いで、「直売所などが自宅の近くにないから」（39.9%）、「直売所の存在・場所を知らないから」（35.1%）、「近くのスーパーマーケット等には地場産コーナーがないから」（31.3%）の順となっている。
- 回答者の年齢別に見ると、「30 歳代」は「直売所の存在・場所を知らないから」、「50 歳代」、「60 歳代」、「80 歳以上」は「直売所などが自宅の近くにないから」を理由として挙げる回答者の割合が最も高くなっている。
- 回答者の居住年数別に見ると、居住年数が「3 年未満」、「3～5 年」の回答者で、「直売所の存在・場所を知らないから」を理由として挙げる回答者の割合が高い。
- 前は「直売所の存在・場所を知らないから」を理由として挙げる回答者が最も多かったが、今回は「特に理由はなし」を理由として挙げる回答者が最も多い。

項目	今回		前回（H30）
	件数	割合	割合
(1)直売所の存在・場所を知らないから	94	35.1%	20.0%
(2)直売所などが自宅の近くにないから	107	39.9%	23.4%
(3)近くのスーパーマーケット等には地場産コーナーがないから	84	31.3%	11.9%
(4)価格が高いから	27	10.1%	3.8%
(5)欲しい品がないから	43	16.0%	5.6%
(6)購入できる日や時間が限られるから	51	19.0%	12.2%
(7)生産者をよく知らないから	20	7.5%	2.5%
(8)特に理由はなし	108	40.3%	11.3%
(9)その他	31	11.6%	5.6%

n = 268

〔(9)その他〕の具体的な内容：
直売所に入りにくい／駐車場がないから／帰宅途中に直売所がない／市内産かどうかは意識していない 等



<年齢とのクロス>

項目		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳～
(1)直売所の存在・場所を知らないから	件数	1	9	22	16	22	11	13	0
	割合	12.5%	13.2%	21.0%	10.3%	12.2%	5.0%	9.5%	
(2)直売所などが自宅の近くにないから	件数	1	8	14	19	25	23	12	4
	割合	12.5%	11.8%	13.3%	12.3%	13.9%	10.4%	8.8%	30.8%
(3)近くのスーパーマーケット等には地場産コーナーがないから	件数	0	9	10	13	21	16	14	1
	割合	-	13.2%	9.5%	8.4%	11.7%	7.2%	10.2%	7.7%
(4)価格が高いから	件数	0	5	8	5	3	4	1	1
	割合	-	7.4%	7.6%	3.2%	1.7%	1.8%	0.7%	7.7%
(5)欲しい品がないから	件数	0	4	12	3	11	8	3	1
	割合	-	5.9%	11.4%	1.9%	6.1%	3.6%	2.2%	7.7%
(6)購入できる日や時間が限られるから	件数	0	2	13	11	11	8	3	1
	割合	-	2.9%	12.4%	7.1%	6.1%	3.6%	2.2%	7.7%
(7)生産者をよく知らないから	件数	0	3	5	2	4	5	1	0
	割合	-	4.4%	4.8%	1.3%	2.2%	2.3%	0.7%	-
(8)特に理由はなし	件数	3	10	15	21	17	23	17	2
	割合	37.5%	14.7%	14.3%	13.5%	9.4%	10.4%	12.4%	15.4%
(9)その他	件数	0	5	3	4	7	7	4	1
	割合	-	7.4%	2.9%	2.6%	3.9%	3.2%	2.9%	7.7%

<居住年数とのクロス>

項目		3年未満	3～5年	6～9年	10～19年	20～29年	30年以上
(1)直売所の存在・場所を知らないから	件数	20	12	9	21	12	20
	割合	22.5%	15.8%	10.8%	10.4%	7.0%	7.5%
(2)直売所などが自宅の近くにないから	件数	16	9	12	24	16	29
	割合	18.0%	11.8%	14.5%	11.9%	9.4%	10.8%
(3)近くのスーパーマーケット等には地場産コーナーがないから	件数	11	8	4	18	20	23
	割合	12.4%	10.5%	4.8%	9.0%	11.7%	8.6%
(4)価格が高いから	件数	6	6	2	6	3	4
	割合	6.7%	7.9%	2.4%	3.0%	1.8%	1.5%
(5)欲しい品がないから	件数	7	5	1	7	10	12
	割合	7.9%	6.6%	1.2%	3.5%	5.8%	4.5%
(6)購入できる日や時間が限られるから	件数	5	6	7	11	10	10
	割合	5.6%	7.9%	8.4%	5.5%	5.8%	3.7%
(7)生産者をよく知らないから	件数	4	1	4	3	4	4
	割合	4.5%	1.3%	4.8%	1.5%	2.3%	1.5%
(8)特に理由はなし	件数	15	10	16	24	19	24
	割合	16.9%	13.2%	19.3%	11.9%	11.1%	9.0%
(9)その他	件数	4	3	0	9	6	9
	割合	4.5%	3.9%	-	4.5%	3.5%	3.4%

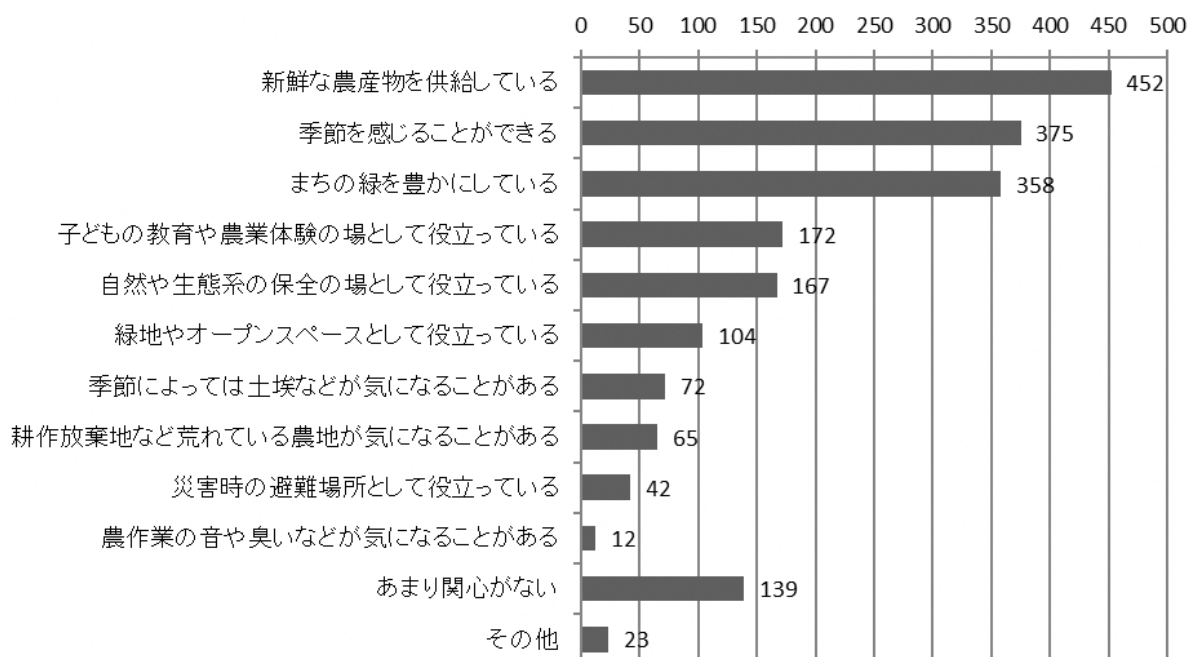
8 西東京市の農業・農地の役割についてお伺いします。

問 34 あなたは、西東京市内の農業や農地についてどのように感じていますか？（複数回答：3つまで）

- 西東京市内の農業や農地に関するイメージとして、「新鮮な野菜を供給している」（50.7％）を挙げる回答者が最も多く、次いで、「季節を感じるができる」（42.1％）、「まちの緑を豊かにしている」（40.2％）、「子どもの教育や農業体験の場として役立っている」（19.3％）、「自然や生態系の保全の場として役立っている」（18.7％）の順となっている。
- 回答者の年齢別に見ると、年齢が高い層では、「新鮮な野菜を供給している」を西東京市内の農業や農地に関するイメージに挙げる回答者の割合が高く、年齢が低い層では、「まちの緑を豊かにしている」を農業や農地に関するイメージに挙げる回答者の割合が高い。
- 前回と比べ、「緑地やオープンスペースとして役立っている」、「自然や生態系の保全の場として役立っている」、「子どもの教育や農業体験の場として役立っている」、「あまり関心がない」との回答割合が上がっている。

項目	今回		前回 (H30)
	件数	割合	割合
(1)新鮮な農産物を供給している	452	50.7%	52.8%
(2)まちの緑を豊かにしている	358	40.2%	44.1%
(3)季節を感じるができる	375	42.1%	45.6%
(4)緑地やオープンスペースとして役立っている	104	11.7%	9.7%
(5)自然や生態系の保全の場として役立っている	167	18.7%	13.8%
(6)子どもの教育や農業体験の場として役立っている	172	19.3%	17.5%
(7)災害時の避難場所として役立っている	42	4.7%	5.0%
(8)季節によっては土埃などが気になることがある	72	8.1%	23.4%
(9)農作業の音や臭いなどが気になることがある	12	1.3%	2.5%
(10)耕作放棄地など荒れている農地が気になることがある	65	7.3%	10.3%
(11)あまり関心がない	139	15.6%	3.4%
(12)その他	23	2.6%	9.1%

n=891



<年齢とのクロス>

項目		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳～
(1)新鮮な農産物を供給している	件数	3	24	39	72	97	134	74	8
	割合	37.5%	35.3%	37.1%	46.5%	53.9%	60.4%	54.0%	61.5%
(2)まちの緑を豊かにしている	件数	4	29	39	65	81	88	48	4
	割合	50.0%	42.6%	37.1%	41.9%	45.0%	39.6%	35.0%	30.8%
(3)季節を感じるができる	件数	3	21	30	66	76	101	73	3
	割合	37.5%	30.9%	28.6%	42.6%	42.2%	45.5%	53.3%	23.1%
(4)緑地やオープンスペースとして役立っている	件数	2	11	4	11	17	28	28	3
	割合	25.0%	16.2%	3.8%	7.1%	9.4%	12.6%	20.4%	23.1%
(5)自然や生態系の保全の場として役立っている	件数	2	7	12	25	41	53	25	2
	割合	25.0%	10.3%	11.4%	16.1%	22.8%	23.9%	18.2%	15.4%
(6)子どもの教育や農業体験の場として役立っている	件数	3	13	33	47	29	35	12	0
	割合	37.5%	19.1%	31.4%	30.3%	16.1%	15.8%	8.8%	-
(7)災害時の避難場所として役立っている	件数	0	6	3	6	6	11	8	2
	割合	-	8.8%	2.9%	3.9%	3.3%	5.0%	5.8%	15.4%
(8)季節によっては土埃などが気になることがある	件数	1	1	7	19	16	17	11	0
	割合	12.5%	1.5%	6.7%	12.3%	8.9%	7.7%	8.0%	-
(9)農作業の音や臭いなどが気になることがある	件数	0	0	0	4	3	2	2	1
	割合	-	-	-	2.6%	1.7%	0.9%	1.5%	7.7%
(10)耕作放棄地など荒れている農地が気になることがある	件数	2	2	7	11	8	19	13	2
	割合	25.0%	2.9%	6.7%	7.1%	4.4%	8.6%	9.5%	15.4%
(11)あまり関心がない	件数	1	21	30	24	24	23	12	4
	割合	12.5%	30.9%	28.6%	15.5%	13.3%	10.4%	8.8%	30.8%
(12)その他	件数	0	0	4	5	4	7	3	0
	割合	-	-	3.8%	3.2%	2.2%	3.2%	2.2%	-

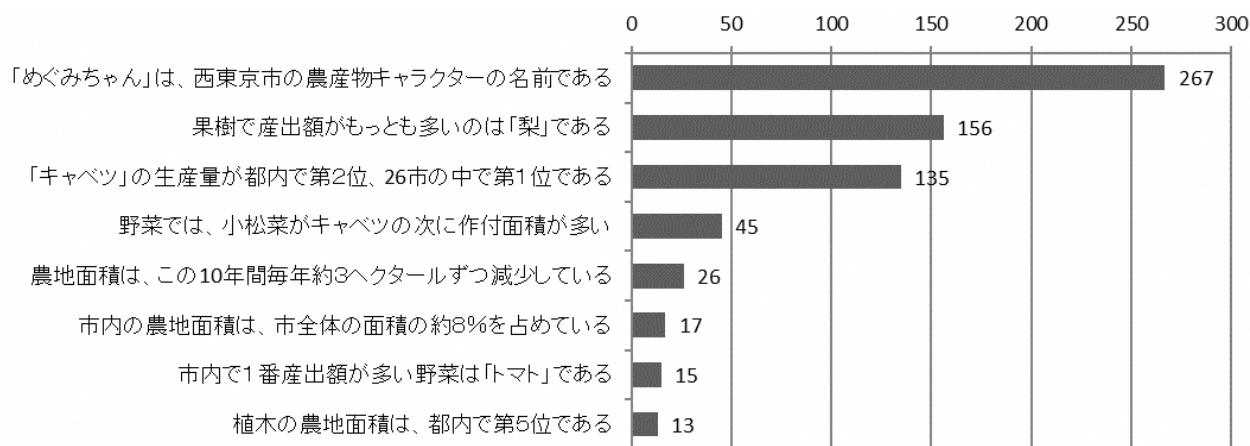
問 35 西東京市の農業について知っていることを教えてください。(複数回答)

○西東京市の農業について知っていることは、「めぐみちゃん」は、西東京市の農産物キャラクターの名前である」を挙げる回答者が最も多く(30.0%)、次いで、「果樹で産出額がもっとも多いのは「梨」である」(17.5%)、「「キャベツ」の生産量が都内で第2位、26市の中で第1位である」(15.2%)の順となっている。

○回答者の年齢別に見ると、10歳代～70歳代まで、「めぐみちゃん」は、西東京市の農産物キャラクターの名前である」との回答が最も多く、80歳代は「「キャベツ」の生産量が都内で第2位、26市の中で第1位である」との回答が最も多い。

項目	件数	割合
(1)「キャベツ」の生産量が都内で第2位、26市の中で第1位である	135	15.2%
(2)市内で1番産出額が多い野菜は「トマト」である	15	1.7%
(3)果樹で産出額がもっとも多いのは「梨」である	156	17.5%
(4)野菜では、小松菜がキャベツの次に作付面積が多い	45	5.1%
(5)植木の農地面積は、都内で第5位である	13	1.5%
(6)市内の農地面積は、市全体の面積の約8%を占めている	17	1.9%
(7)農地面積は、この10年間毎年約3ヘクタールずつ減少している	26	2.9%
(8)「めぐみちゃん」は、西東京市の農産物キャラクターの名前である	267	30.0%

n=891



<年齢とのクロス>

項目	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳～	
(1)「キャベツ」の生産量が都内で第2位、26市の中で第1位である	件数	2	10	6	19	24	41	27	5
	割合	25.0%	14.7%	5.7%	12.3%	13.3%	18.5%	19.7%	38.5%
(2)市内で1番産出額が多い野菜は「トマト」である	件数	0	1	1	0	3	5	4	1
	割合	-	1.5%	1.0%	-	1.7%	2.3%	2.9%	7.7%
(3)果樹で産出額がもっとも多いのは「梨」である	件数	1	11	10	20	38	45	28	3
	割合	12.5%	16.2%	9.5%	12.9%	21.1%	20.3%	20.4%	23.1%
(4)野菜では、小松菜がキャベツの次に作付面積が多い	件数	0	1	1	6	10	16	10	1
	割合	-	1.5%	1.0%	3.9%	5.6%	7.2%	7.3%	7.7%
(5)植木の農地面積は、都内で第5位である	件数	0	0	0	1	2	6	4	0
	割合	-	-	-	0.6%	1.1%	2.7%	2.9%	-
(6)市内の農地面積は、市全体の面積の約8%を占めている	件数	0	0	1	2	3	5	6	0
	割合	-	-	1.0%	1.3%	1.7%	2.3%	4.4%	-
(7)農地面積は、この10年間毎年約3ヘクタールずつ減少している	件数	0	0	0	2	5	8	10	1
	割合	-	-	-	1.3%	2.8%	3.6%	7.3%	7.7%
(8)「めぐみちゃん」は、西東京市の農産物キャラクターの名前である	件数	4	22	25	62	59	60	31	4
	割合	50.0%	32.4%	23.8%	40.0%	32.8%	27.0%	22.6%	30.8%

<居住年数とのクロス>

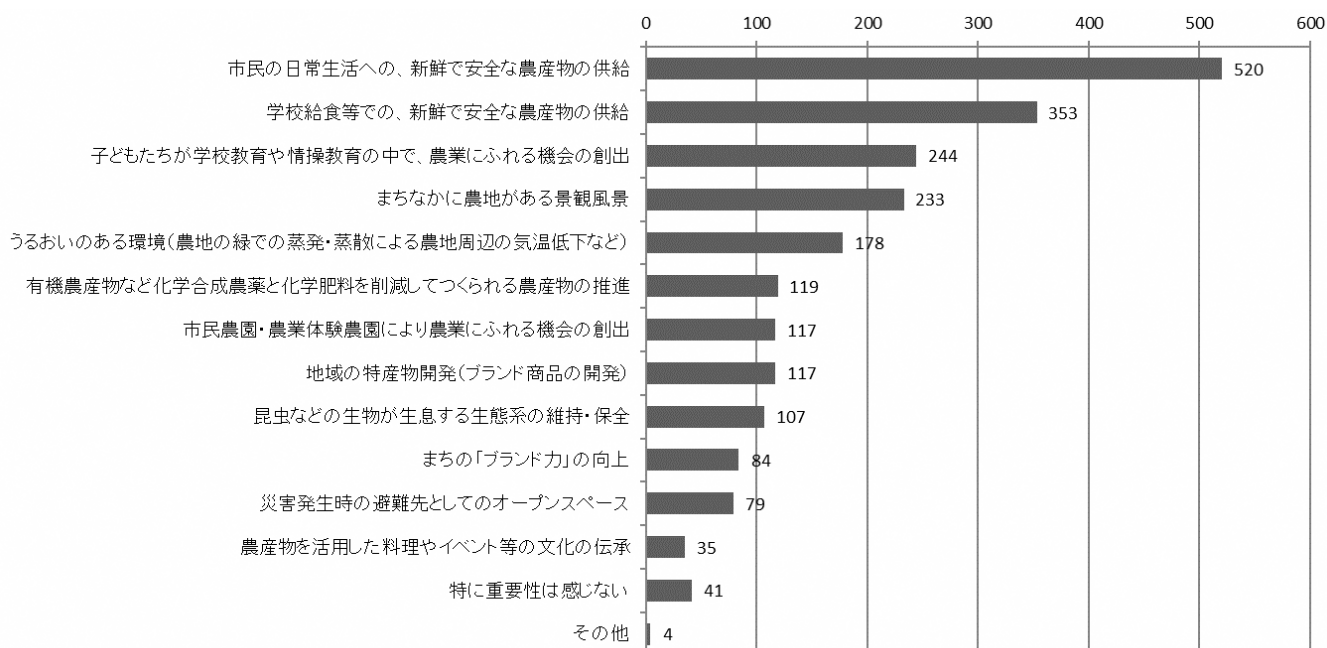
項目	3年未満	3～5年	6～9年	10～19年	20～29年	30年以上	
(1)「キャベツ」の生産量が都内で第2位、26市の中で第1位である	件数	7	7	8	20	34	58
	割合	7.9%	9.2%	9.6%	10.0%	19.9%	21.6%
(2)市内で1番産出額が多い野菜は「トマト」である	件数	3	0	2	2	4	4
	割合	3.4%	-	2.4%	1.0%	2.3%	1.5%
(3)果樹で産出額がもっとも多いのは「梨」である	件数	6	7	12	37	36	58
	割合	6.7%	9.2%	14.5%	18.4%	21.1%	21.6%
(4)野菜では、小松菜がキャベツの次に作付面積が多い	件数	2	2	3	9	8	21
	割合	2.2%	2.6%	3.6%	4.5%	4.7%	7.8%
(5)植木の農地面積は、都内で第5位である	件数	2	0	2	1	1	7
	割合	2.2%	-	2.4%	0.5%	0.6%	2.6%
(6)市内の農地面積は、市全体の面積の約8%を占めている	件数	3	0	1	1	2	10
	割合	3.4%	-	1.2%	0.5%	1.2%	3.7%
(7)農地面積は、この10年間毎年約3ヘクタールずつ減少している	件数	2	0	2	5	5	12
	割合	2.2%	-	2.4%	2.5%	2.9%	4.5%
(8)「めぐみちゃん」は、西東京市の農産物キャラクターの名前である	件数	8	13	24	72	53	97
	割合	9.0%	17.1%	28.9%	35.8%	31.0%	36.2%

問 36 農業や農地には、地域の生活と関係する機能が多くあります。
 あなたは、農業や農地が持つ役割について、今後どのようなことに期待されますか？（複数回答：3
 つまで）

- 農業・農地が持つ役割への期待について、「市民の日常生活への新鮮で安全な農産物の供給」（58.4%）を挙げる回答者の割合が最も多く、次いで、「学校給食等での、新鮮で安全な農産物の供給」（39.6%）、「子どもたちが学校教育や情操教育の中で、農業に触れる機会の創出」（27.4%）「まちなかに農地がある景観風景」（26.2%）の順となっている。
- 回答者の年齢別に見ると、「10歳代」、「30歳代」、「40歳代」で「子どもたちが学校教育や情操教育の中で、農業にふれる機会の創出」を期待する割合が他の年代と比べ、比較的高くなっている。
- 前回と比べ、「学校給食等での、新鮮で安全な農産物の供給」、「子どもたちが学校教育や情操教育の中で、農業にふれる機会の創出」、「農産物を活用した料理やイベント等の文化の伝承」、「まちの「ブランド力」の向上」、「特に重要性は感じない」との回答割合が上がっている。

項目	今回		前回(H30)
	件数	割合	割合
(1)市民の日常生活への新鮮で安全な農産物の供給	520	58.4%	63.1%
(2)学校給食等での、新鮮で安全な農産物の供給	353	39.6%	32.2%
(3)まちなかに農地がある景観風景	233	26.2%	26.9%
(4)有機農産物など化学合成農薬と化学肥料を削減してつくられる農産物の推進	119	13.4%	16.6%
(5)うるおいのある環境（農地の緑での蒸発・蒸散による農地周辺の気温低下など）	178	20.0%	29.1%
(6)昆虫などの生物が生息する生態系の維持・保全	107	12.0%	13.1%
(7)災害発生時の避難先としてのオープンスペース	79	8.9%	12.8%
(8)市民農園・農業体験農園により農業にふれる機会の創出	117	13.1%	15.0%
(9)子どもたちが学校教育や情操教育の中で、農業にふれる機会の創出	244	27.4%	24.7%
(10)地域の特産物開発（ブランド商品の開発）	117	13.1%	13.4%
(11)農産物を活用した料理やイベント等の文化の伝承	35	3.9%	2.5%
(12)まちの「ブランド力」の向上	84	9.4%	8.8%
(13)特に重要性は感じない	41	4.6%	1.6%
(14)その他	4	0.4%	3.8%

n = 891



<年齢とのクロス>

項目		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳～
(1)市民の日常生活への新鮮で安全な農産物の供給	件数	4	35	56	79	102	154	83	6
	割合	50.0%	51.5%	53.3%	51.0%	56.7%	69.4%	60.6%	46.2%
(2)学校給食等での、新鮮で安全な農産物の供給	件数	2	27	43	80	69	78	49	3
	割合	25.0%	39.7%	41.0%	51.6%	38.3%	35.1%	35.8%	23.1%
(3)まちなかに農地がある景観風景	件数	4	21	20	35	43	63	43	3
	割合	50.0%	30.9%	19.0%	22.6%	23.9%	28.4%	31.4%	23.1%
(4)有機農産物など化学合成農薬と化学肥料を削減してつくられる農産物の推進	件数	1	3	8	13	27	37	24	5
	割合	12.5%	4.4%	7.6%	8.4%	15.0%	16.7%	17.5%	38.5%
(5)うるおいのある環境	件数	1	9	11	29	32	56	38	2
	割合	12.5%	13.2%	10.5%	18.7%	17.8%	25.2%	27.7%	15.4%
(6)昆虫などの生物が生息する生態系の維持・保全	件数	2	12	10	15	24	25	18	1
	割合	25.0%	17.6%	9.5%	9.7%	13.3%	11.3%	13.1%	7.7%
(7)災害発生時の避難先としてのオープンスペース	件数	1	7	8	10	15	22	14	2
	割合	12.5%	10.3%	7.6%	6.5%	8.3%	9.9%	10.2%	15.4%
(8)市民農園・農業体験農園により農業にふれる機会の創出	件数	3	7	15	22	25	29	16	0
	割合	37.5%	10.3%	14.3%	14.2%	13.9%	13.1%	11.7%	-
(9)子どもたちが学校教育や情操教育の中で、農業にふれる機会の創出	件数	3	18	43	61	39	49	26	4
	割合	37.5%	26.5%	41.0%	39.4%	21.7%	22.1%	19.0%	30.8%
(10)地域の特産物開発（ブランド商品の開発）	件数	1	9	13	17	29	29	18	1
	割合	12.5%	13.2%	12.4%	11.0%	16.1%	13.1%	13.1%	7.7%
(11)農産物を活用した料理やイベント等の文化の伝承	件数	0	3	3	6	8	11	4	0
	割合	-	4.4%	2.9%	3.9%	4.4%	5.0%	2.9%	-
(12)まちの「ブランド力」の向上	件数	0	9	15	18	21	13	8	0
	割合	-	13.2%	14.3%	11.6%	11.7%	5.9%	5.8%	-
(13)特に重要性は感じない	件数	0	3	8	9	10	7	4	0
	割合	-	4.4%	7.6%	5.8%	5.6%	3.2%	2.9%	-
(14)その他	件数	0	0	0	0	0	3	0	1
	割合	-	-	-	-	-	1.4%	-	7.7%

9 農とのふれあいについてお伺いします。

問 37 農業体験など、農とのふれあいについて、どのようなご経験がありますか？（複数回答）

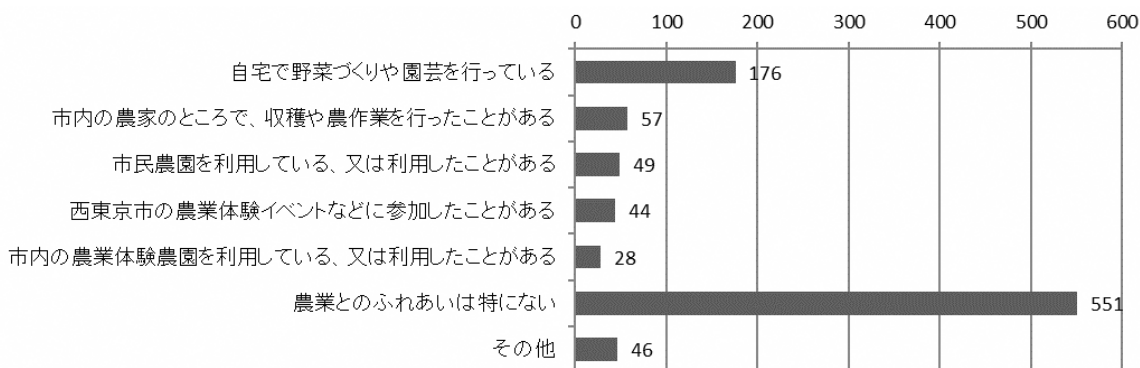
- 「農業とのふれあいは特にない」との回答者が、61.8%であった。農とのふれあいの経験がある回答者の中では、「自宅で野菜づくりや園芸を行っている」が最も多く（19.8%）、次いで、「市内の農家のところで、収穫や農作業を行ったことがある」（6.4%）、「市民農園を利用している、又は利用したことがある」（5.5%）の順となっている。
- 回答者の年齢別に見ると、「10歳代」では「農業とのふれあいは特にない」との回答者の割合が、他の年齢層に比べて低い。また、「20歳代」、「60歳代」、「70歳代」の「市民農園を利用している、又は利用したことがある」との回答割合が比較的高い。

項目	件数	割合
(1)市民農園を利用している、又は利用したことがある	49	5.5%
(2)市内の農業体験農園を利用している、又は利用したことがある	28	3.1%
(3)西東京市の農業体験イベントなどに参加したことがある	44	4.9%
(4)自宅で野菜づくりや園芸を行っている	176	19.8%
(5)市内の農家のところで、収穫や農作業を行ったことがある	57	6.4%
(6)農業とのふれあいは特にない	551	61.8%
(7)その他	46	5.2%

n = 891

[(7)その他] の具体的な内容：

実家が農家である／市外の農業体験に行ったことがある／近所の農家さんや直売所での会話／保育園のイベントや学校の授業／親戚が農家である 等



<年齢とのクロス>

項目		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳～
(1)市民農園を利用している、又は利用したことがある	件数	0	6	4	2	8	18	11	0
	割合	-	8.8%	3.8%	1.3%	4.4%	8.1%	8.0%	-
(2)市内の農業体験農園（注）を利用している、又は利用したことがある	件数	0	6	2	6	7	5	1	1
	割合	-	8.8%	1.9%	3.9%	3.9%	2.3%	0.7%	7.7%
(3)西東京市の農業体験イベントなどに参加したことがある	件数	1	9	2	7	7	10	6	2
	割合	12.5%	13.2%	1.9%	4.5%	3.9%	4.5%	4.4%	15.4%
(4)自宅で野菜づくりや園芸を行っている	件数	0	10	13	30	38	53	30	1
	割合	-	14.7%	12.4%	19.4%	21.1%	23.9%	21.9%	7.7%
(5)市内の農家のところで、収穫や農作業を行ったことがある	件数	3	9	8	14	13	5	4	1
	割合	37.5%	13.2%	7.6%	9.0%	7.2%	2.3%	2.9%	7.7%
(6)農業とのふれあいは特にない	件数	2	40	74	93	112	133	85	10
	割合	25.0%	58.8%	70.5%	60.0%	62.2%	59.9%	62.0%	76.9%
(7)その他	件数	2	7	4	9	5	9	10	0
	割合	25.0%	10.3%	3.8%	5.8%	2.8%	4.1%	7.3%	-

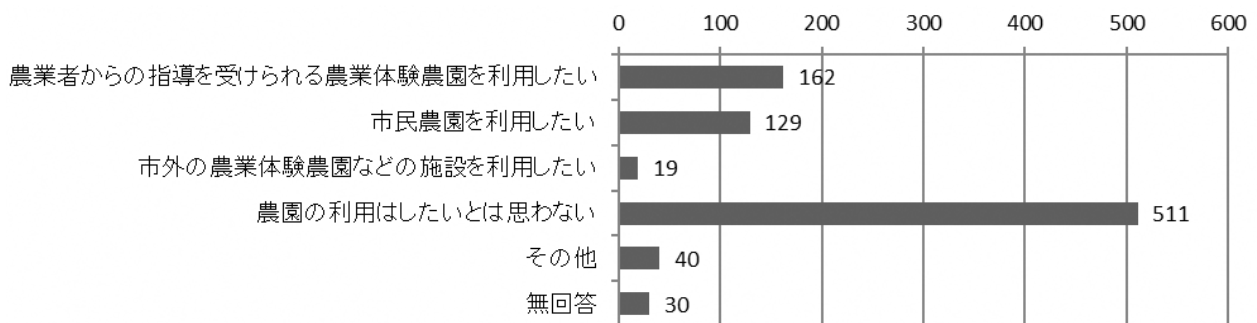
問 38 今後、市民農園や農業体験農園といった農園を利用したいですか？（単一回答）

- 市民農園や農業体験農園の利用意向として、「農園の利用はしたいとは思わない」回答者が最も多く（57.4%）、次いで、「農業者からの指導を受けられる農業体験農園を利用したい」（18.2%）、「市民農園を利用したい」（14.5%）の順となっている。
- 回答者の年齢別に見ると、「60歳代以下」で「農業者からの指導を受けられる農業体験農園を利用したい」を挙げる回答者の割合が高く、「70歳代以上」で、「市民農園を利用したい」を挙げる回答者の割合が高い。
- 回答者の職業別に見ると、「学生」で、「農業者からの指導を受けられる農業体験農園を利用したい」との回答割合がやや高い。
- 前回と比べ、「農業者からの指導を受けられる農業体験農園を利用したい」との回答割合が上がっている。

項目	今回		前回(H30)
	件数	割合	割合
(1)市民農園を利用したい	129	14.5%	16.9%
(2)農業者からの指導を受けられる農業体験農園を利用したい	162	18.2%	16.6%
(3)市外の農業体験農園などの施設を利用したい	19	2.1%	2.5%
(4)農園の利用はしたいとは思わない	511	57.4%	49.7%
(5)その他	40	4.5%	6.6%
(6)無回答	30	3.4%	7.8%

n = 891

〔(5)その他〕の具体的な内容：
定年してから考えたい・利用したい／利用したいが体力・時間がない／利用したいが近くにない 等



<年齢とのクロス>

項目		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳～
(1)市が開設する市民農園を利用したい	件数	2	6	21	27	25	27	17	4
	割合	25.0%	8.8%	20.0%	17.4%	13.9%	12.2%	12.4%	30.8%
(2)農業者からの指導を受けられる農業体験農園を利用したい	件数	2	11	22	28	36	46	16	1
	割合	25.0%	16.2%	21.0%	18.1%	20.0%	20.7%	11.7%	7.7%
(3)市外の農業体験農園などの施設を利用したい	件数	1	1	3	6	5	3	0	0
	割合	12.5%	1.5%	2.9%	3.9%	2.8%	1.4%	-	-
(4)農園の利用はしたいとは思わない	件数	3	47	58	85	101	132	77	6
	割合	37.5%	69.1%	55.2%	54.8%	56.1%	59.5%	56.2%	46.2%
(5)その他	件数	0	3	1	9	6	8	11	2
	割合	-	4.4%	1.0%	5.8%	3.3%	3.6%	8.0%	15.4%

<職業とのクロス>

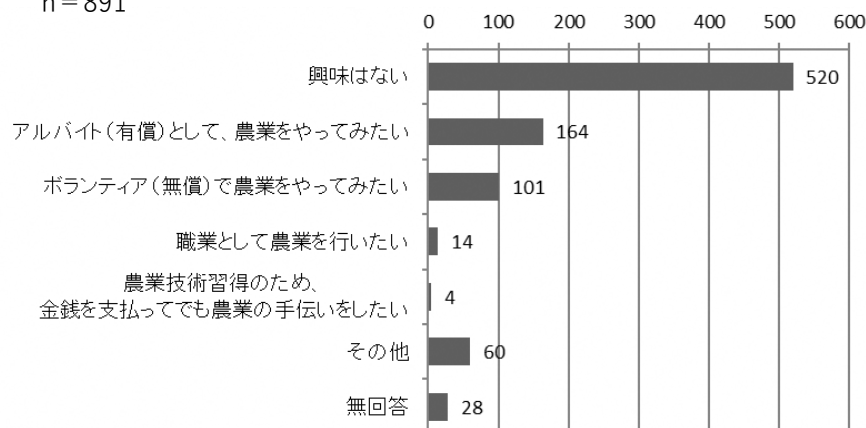
項目		自営業者等	勤め人	パート・アルバイト	専業主婦	学生	無職	その他
(1)市が開設する市民農園を利用したい	件数	10	64	15	12	4	21	3
	割合	12.8%	17.9%	9.9%	8.8%	17.4%	16.7%	20.0%
(2)農業者からの指導を受けられる農業体験農園を利用したい	件数	17	72	30	17	6	18	1
	割合	21.8%	20.2%	19.9%	12.4%	26.1%	14.3%	6.7%
(3)市外の農業体験農園などの施設を利用したい	件数	0	12	3	2	1	1	0
	割合	-	3.4%	2.0%	1.5%	4.3%	0.8%	-
(4)農園の利用はしたいとは思わない	件数	39	196	89	92	12	72	9
	割合	50.0%	54.9%	58.9%	67.2%	52.2%	57.1%	60.0%
(5)その他	件数	6	9	8	7	0	9	1
	割合	7.7%	2.5%	5.3%	5.1%	-	7.1%	6.7%

問 39 農作業や、アルバイトやボランティアでの農業の手伝いに興味がありますか？（単一回答）

- 農業や農作業の手伝いへの興味について、「興味はない」との回答者が最も多い（58.4%）。
- 興味がある回答者の中では、「アルバイト（有償）として、農業をやってみたい」が最も多く（18.4%）、次いで、「ボランティア（無償）で農業をやってみたい」（11.3%）の順となっている。
- 回答者の年齢別に見ると、「10歳代」で「アルバイト（有償）として、農業をやってみたい」との回答者が「興味はない」より多くなっている。
- 回答者の職業別に見ると、「学生」の農作業や、アルバイトやボランティアでの農業の手伝いへの「興味はない」との回答割合が高い一方、「アルバイト（有償）として、農業をやってみたい」との回答割合も高い。
- 前回と比べ、「興味はない」との回答割合が上がっているが、農作業や、アルバイトやボランティアでの農業の手伝いへの興味を示す回答割合も上がっている。

項目	今回		前回 (H30)
	件数	割合	割合
(1)職業として農業を行いたい	14	1.6%	1.3%
(2)アルバイト（有償）として、農業をやってみたい	164	18.4%	11.3%
(3)ボランティア（無償）で農業をやってみたい	101	11.3%	8.4%
(4)農業技術習得のため、金銭を支払ってでも農業の手伝いをしたい	4	0.4%	0.3%
(5)興味はない	520	58.4%	57.2%
(6)その他	60	6.7%	13.1%
(7)無回答	28	3.1%	8.4%

n = 891



〔(6)その他〕の具体的な内容：
副業としてやってみたい／興味はあるが、高齢のため難しい／興味はあるが、健康上難しい／育て方を習いたい／興味はあるが、時間がない／虫が嫌い 等

<年齢とのクロス>

項目		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳～
(1)職業として農業を行いたい	件数	0	2	2	2	1	5	1	1
	割合		2.9%	1.9%	1.3%	0.6%	2.3%	0.7%	7.7%
(2)アルバイト(有償)として、農業をやってみたい	件数	5	19	20	33	39	42	5	1
	割合	62.5%	27.9%	19.0%	21.3%	21.7%	18.9%	3.6%	7.7%
(3)ボランティア(無償)で農業をやってみたい	件数	1	4	12	18	13	26	25	2
	割合	12.5%	5.9%	11.4%	11.6%	7.2%	11.7%	18.2%	15.4%
(4)農業技術習得のため、金銭を支払ってでも農業の手伝いをしたい	件数	0	0	1	0	1	0	2	0
	割合	-	-	1.0%	-	0.6%	-	1.5%	-
(5)興味はない	件数	2	41	66	93	105	130	74	7
	割合	25.0%	60.3%	62.9%	60.0%	58.3%	58.6%	54.0%	53.8%
(6)その他	件数	0	2	4	9	15	13	15	2
	割合	-	2.9%	3.8%	5.8%	8.3%	5.9%	10.9%	15.4%

<職業とのクロス>

項目		自営業者等	勤め人	パート・アルバイト	専業主婦	学生	無職	その他
(1)職業として農業を行いたい	件数	5	5	2	0	0	2	0
	割合	6.4%	1.4%	1.3%			1.6%	
(2)アルバイト(有償)として、農業をやってみたい	件数	14	74	32	18	11	12	3
	割合	17.9%	20.7%	21.2%	13.1%	47.8%	9.5%	20.0%
(3)ボランティア(無償)で農業をやってみたい	件数	9	46	10	11	1	22	2
	割合	11.5%	12.9%	6.6%	8.0%	4.3%	17.5%	13.3%
(4)農業技術習得のため、金銭を支払ってでも農業の手伝いをしたい	件数	1	1	1	1	0	0	0
	割合	1.3%	0.3%	0.7%	0.7%	-	-	-
(5)興味はない	件数	39	211	89	84	11	74	9
	割合	50.0%	59.1%	58.9%	61.3%	47.8%	58.7%	60.0%
(6)その他	件数	5	18	11	14	0	11	1
	割合	6.4%	5.0%	7.3%	10.2%	-	8.7%	6.7%

10 過去5年間の農業施策についてお伺いします。

問 40 西東京市の農業振興に向けて、以下のような施策を実施してきました。これらの事業について、内容を知っているか、重要だと思うかについてお答えください。

【食と暮らしを支える多様な農業】

事業1 直売所の利用の促進

・市ホームページ、ガイド冊子「おでかけ図鑑」にて直売所を紹介

- 認知度については、「全く知らない」が52.7%、「あまり知らない」が24.1%、「少し知っている」が10.4%であった。
- 重要度については、「やや重要である」が38.6%、「重要である」が26.5%、「わからない」が14.8%であった。

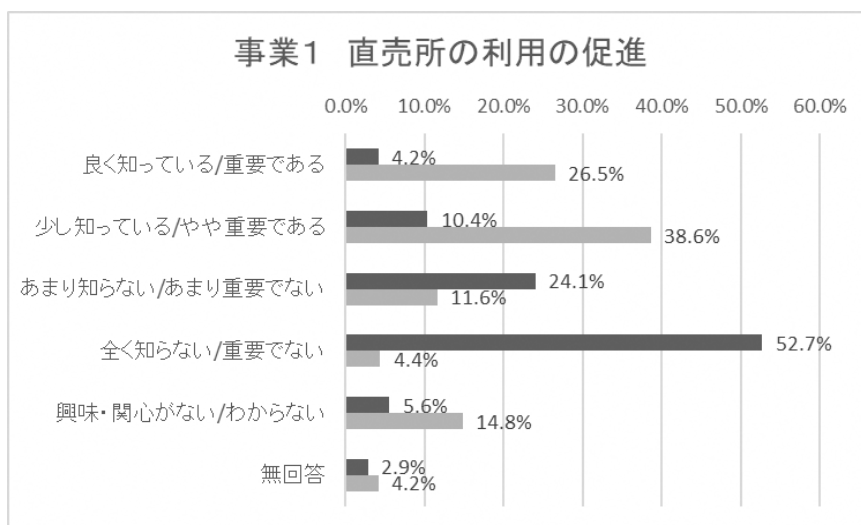
< 認知度 >

項目	件数	割合
よく知っている	37	4.2%
少し知っている	93	10.4%
あまり知らない	215	24.1%
全く知らない	470	52.7%
興味・関心がない	50	5.6%
無回答	26	2.9%

n=891

< 重要度 >

項目	件数	割合
重要である	236	26.5%
やや重要である	344	38.6%
あまり重要でない	103	11.6%
重要でない	39	4.4%
わからない	132	14.8%
無回答	37	4.2%



事業2 めぐみちゃんメニューの推進

・小中学生が考えたメニューの販売
・わが家のとっておきレシピ

- 認知度については、「全く知らない」が51.1%、「あまり知らない」が16.4%、「少し知っている」が12.2%であった。
- 重要度については、「やや重要である」が37.6%、「あまり重要でない」が17.8%、「わからない」が17.3%であった。

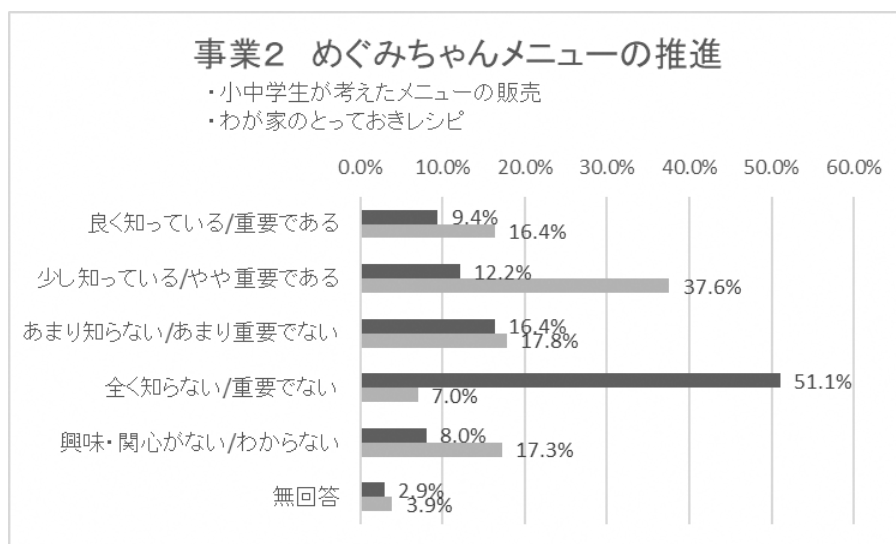
<認知度>

項目	件数	割合
よく知っている	84	9.4%
少し知っている	109	12.2%
あまり知らない	146	16.4%
全く知らない	455	51.1%
興味・関心がない	71	8.0%
無回答	26	2.9%

n=891

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	146	16.4%
やや重要である	335	37.6%
あまり重要でない	159	17.8%
重要でない	62	7.0%
わからない	154	17.3%
無回答	35	3.9%



事業2 めぐみちゃんメニューの推進

・農産物等販売会（マルシェ）の開催

○認知度については、「全く知らない」が42.2%、「あまり知らない」が23.6%、「少し知っている」が16.3%であった。

○重要度については、「やや重要である」が35.2%、「重要である」が32.2%、「わからない」が13.9%であった。

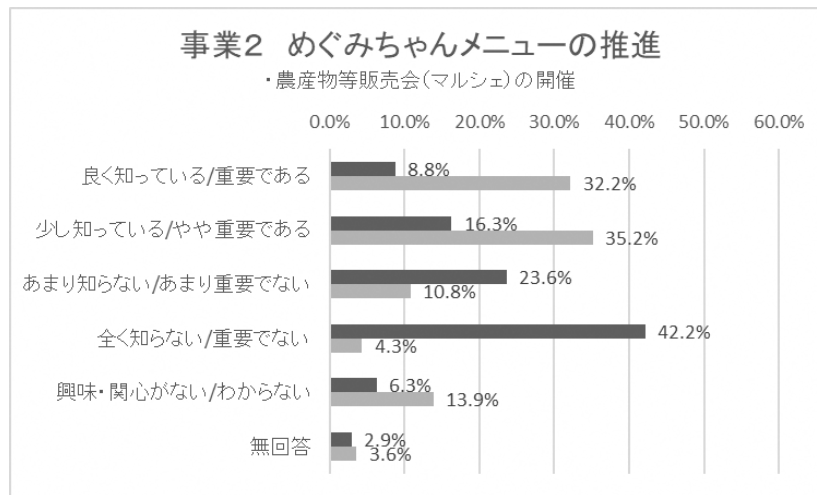
<認知度>

項目	件数	割合
よく知っている	78	8.8%
少し知っている	145	16.3%
あまり知らない	210	23.6%
全く知らない	376	42.2%
興味・関心がない	56	6.3%
無回答	26	2.9%

n=891

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	287	32.2%
やや重要である	314	35.2%
あまり重要でない	96	10.8%
重要でない	38	4.3%
わからない	124	13.9%
無回答	32	3.6%



事業2 めぐみちゃんメニューの推進

・情報発信 (ホームページ・Twitter・YouTube)

○認知度については、「全く知らない」が 49.2%、「あまり知らない」が 25.0%、「興味・関心がない」が 9.3%であった。

○重要度については、「やや重要である」が 35.9%、「重要である」が 27.2%、「わからない」が 15.9%であった。

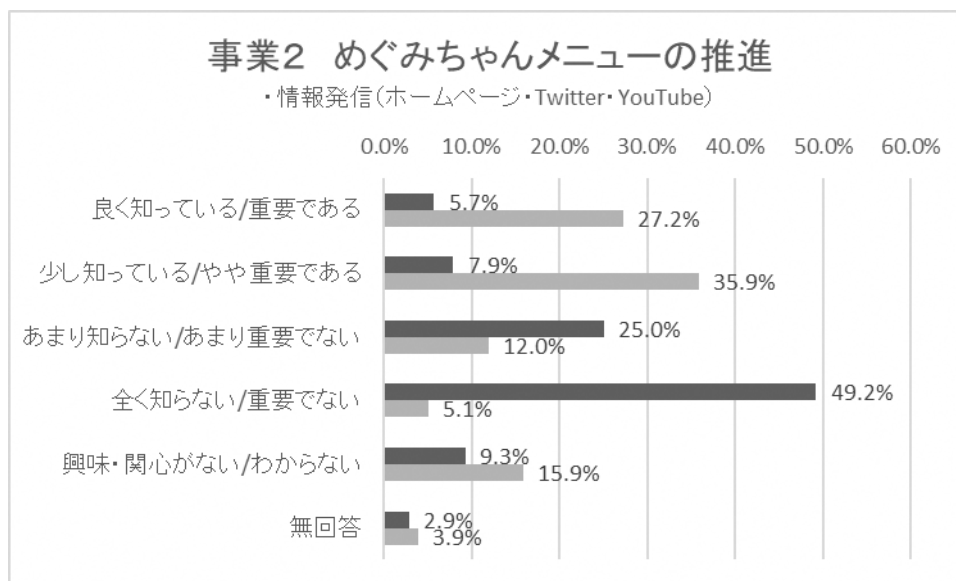
< 認知度 >

項目	件数	割合
よく知っている	51	5.7%
少し知っている	70	7.9%
あまり知らない	223	25.0%
全く知らない	438	49.2%
興味・関心がない	83	9.3%
無回答	26	2.9%

n=891

< 重要度 >

項目	件数	割合
重要である	242	27.2%
やや重要である	320	35.9%
あまり重要でない	107	12.0%
重要でない	45	5.1%
わからない	142	15.9%
無回答	35	3.9%



事業3 学校給食との連携・農産物等販売会（マルシェ）の実施

- ・学校栄養士と農業者の連絡会を開催、共通メニューを市内小中学校・保育園で提供、小中学生が考えたメニューを提供

○認知度については、「全く知らない」が47.6%、「あまり知らない」が19.5%、「少し知っている」が13.1%であった。

○重要度については、「重要である」が38.8%、「やや重要である」が31.4%、「わからない」が12.1%であった。

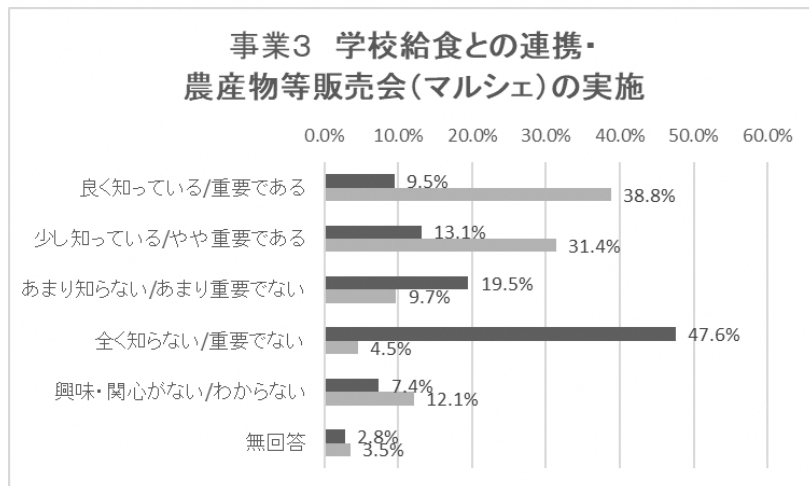
<認知度>

項目	件数	割合
よく知っている	85	9.5%
少し知っている	117	13.1%
あまり知らない	174	19.5%
全く知らない	424	47.6%
興味・関心がない	66	7.4%
無回答	25	2.8%

n=891

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	346	38.8%
やや重要である	280	31.4%
あまり重要でない	86	9.7%
重要でない	40	4.5%
わからない	108	12.1%
無回答	31	3.5%



事業4 地域や商店街との連携

- ・即売会の実施
- ・ファームカーを活用した農産物の直売・農業者のPR

○認知度については、「全く知らない」が48.8%、「あまり知らない」が25.4%、「少し知っている」が11.7%であった。

○重要度については、「やや重要である」が36.3%、「重要である」が34.6%、「わからない」が12.5%であった。

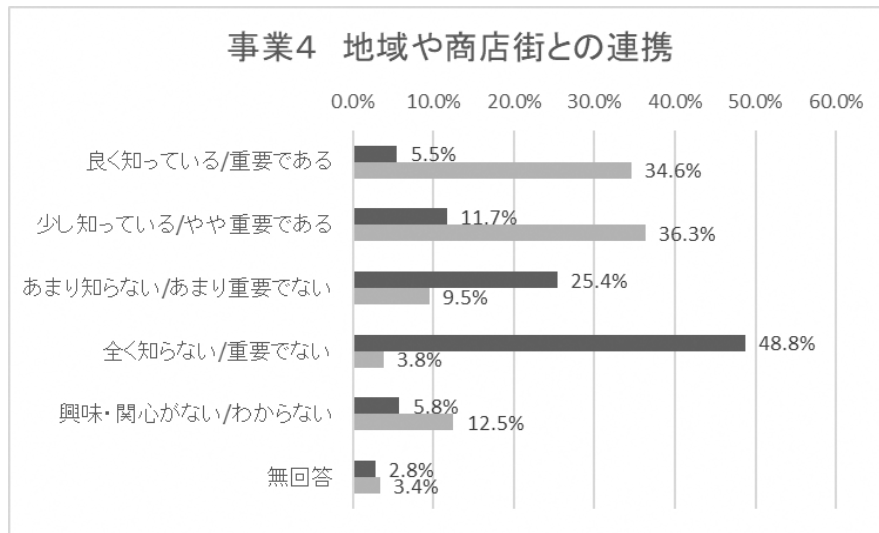
<認知度>

項目	件数	割合
よく知っている	49	5.5%
少し知っている	104	11.7%
あまり知らない	226	25.4%
全く知らない	435	48.8%
興味・関心がない	52	5.8%
無回答	25	2.8%

n=891

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	308	34.6%
やや重要である	323	36.3%
あまり重要でない	85	9.5%
重要でない	34	3.8%
わからない	111	12.5%
無回答	30	3.4%



【多様な担い手が生きがいややりがいを感じる農業経営】

事業5 農業者と援農ボランティアのマッチング機会の提供・援農ボランティアのスキルアップ

- ・「東京の青空塾」修了者と農業者のマッチング
- ・「広域援農ボランティア」の周知・広報
- ・農のアカデミー体験実習農園での農業者による指導

○認知度については、「全く知らない」が 57.5%、「あまり知らない」が 22.4%、「興味・関心がない」が 8.6%であった。

○重要度については、「やや重要である」が 33.3%、「重要である」が 28.2%、「わからない」が 17.6%であった。

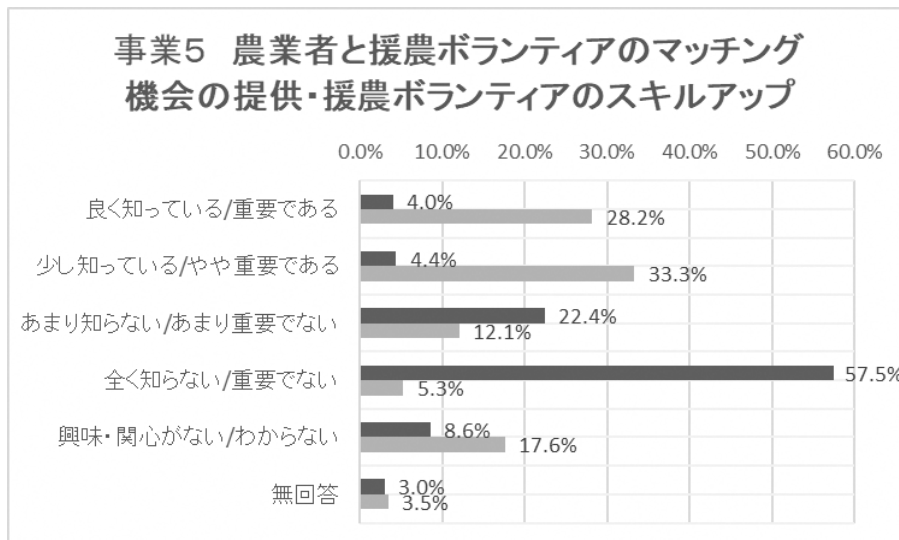
< 認知度 >

項目	件数	割合
よく知っている	36	4.0%
少し知っている	39	4.4%
あまり知らない	200	22.4%
全く知らない	512	57.5%
興味・関心がない	77	8.6%
無回答	27	3.0%

n=891

< 重要度 >

項目	件数	割合
重要である	251	28.2%
やや重要である	297	33.3%
あまり重要でない	108	12.1%
重要でない	47	5.3%
わからない	157	17.6%
無回答	31	3.5%



【農地の保全と活用】

事業6 市内農業関係施設の活用推進

- ・ 景観散策会や、寄せ植え体験を実施
- ・ 農業学習（蔵の里事業）や防災訓練を実施

○認知度については、「全く知らない」が 51.6%、「あまり知らない」が 24.5%、「興味・関心がない」が 8.0%であった。
 ○重要度については、「やや重要である」が 37.5%、「重要である」が 24.2%、「わからない」が 16.2%であった。

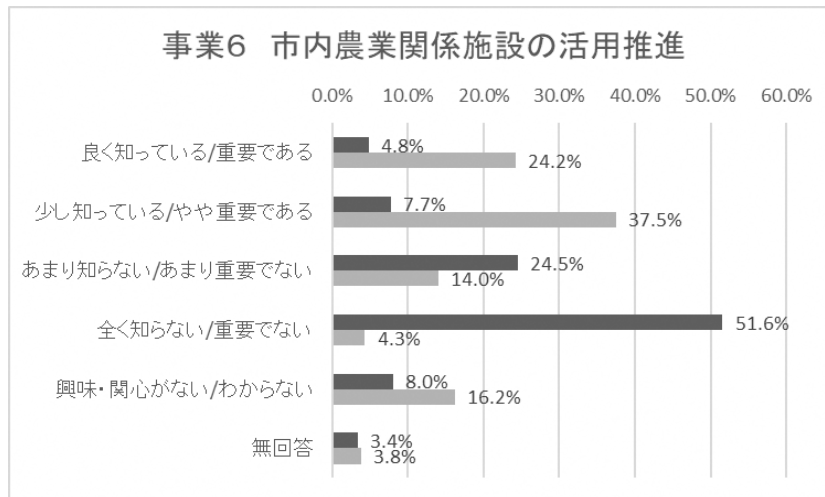
< 認知度 >

項目	件数	割合
よく知っている	43	4.8%
少し知っている	69	7.7%
あまり知らない	218	24.5%
全く知らない	460	51.6%
興味・関心がない	71	8.0%
無回答	30	3.4%

n=891

< 重要度 >

項目	件数	割合
重要である	216	24.2%
やや重要である	334	37.5%
あまり重要でない	125	14.0%
重要でない	38	4.3%
わからない	144	16.2%
無回答	34	3.8%



事業7 災害時協力農地の拡大

- ・ 災害時協力農地の推進

○認知度については、「全く知らない」が 49.2%、「あまり知らない」が 25.0%、「少し知っている」が 11.1%であった。
 ○重要度については、「重要である」が 46.6%、「やや重要である」が 26.0%、「わからない」が 11.6%であった。

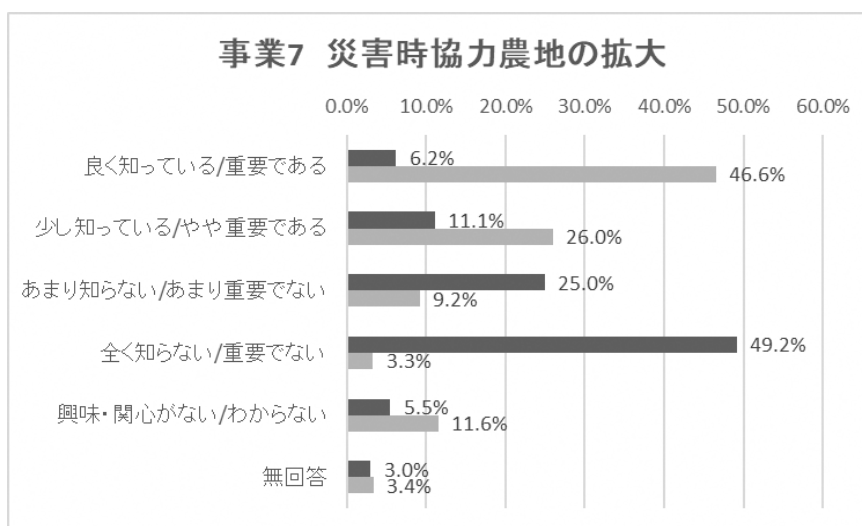
< 認知度 >

項目	件数	割合
よく知っている	55	6.2%
少し知っている	99	11.1%
あまり知らない	223	25.0%
全く知らない	438	49.2%
興味・関心がない	49	5.5%
無回答	27	3.0%

n=891

< 重要度 >

項目	件数	割合
重要である	415	46.6%
やや重要である	232	26.0%
あまり重要でない	82	9.2%
重要でない	29	3.3%
わからない	103	11.6%
無回答	30	3.4%



事業8 農業普及啓発プロジェクトの活用

- ・市内農業関係施設を利用したイベントの実施
- ・直売の支援にファームカーを活用

○認知度については、「全く知らない」が53.0%、「あまり知らない」が24.9%、「少し知っている」が7.7%であった。

○重要度については、「やや重要である」が37.4%、「重要である」が25.0%、「わからない」が16.0%であった。

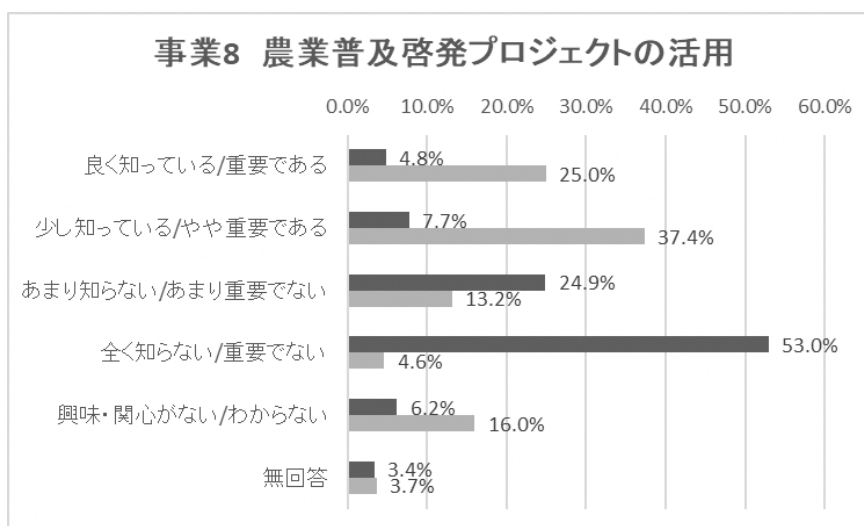
< 認知度 >

項目	件数	割合
よく知っている	43	4.8%
少し知っている	69	7.7%
あまり知らない	222	24.9%
全く知らない	472	53.0%
興味・関心がない	55	6.2%
無回答	30	3.4%

< 重要度 >

項目	件数	割合
重要である	223	25.0%
やや重要である	333	37.4%
あまり重要でない	118	13.2%
重要でない	41	4.6%
わからない	143	16.0%
無回答	33	3.7%

n=891



【農業を通じた交流】

事業9 イベント等の実施事業

- ・「親子で野菜づくりにチャレンジ」イベントを実施
- ・緑のアカデミー事業として植木生産の広報・交流実施
- ・イベントでの農の情報発信の充実

○認知度については、「全く知らない」が51.6%、「あまり知らない」が25.5%、「少し知っている」が7.9%であった。

○重要度については、「やや重要である」が36.1%、「重要である」が26.3%、「わからない」が14.7%であった。

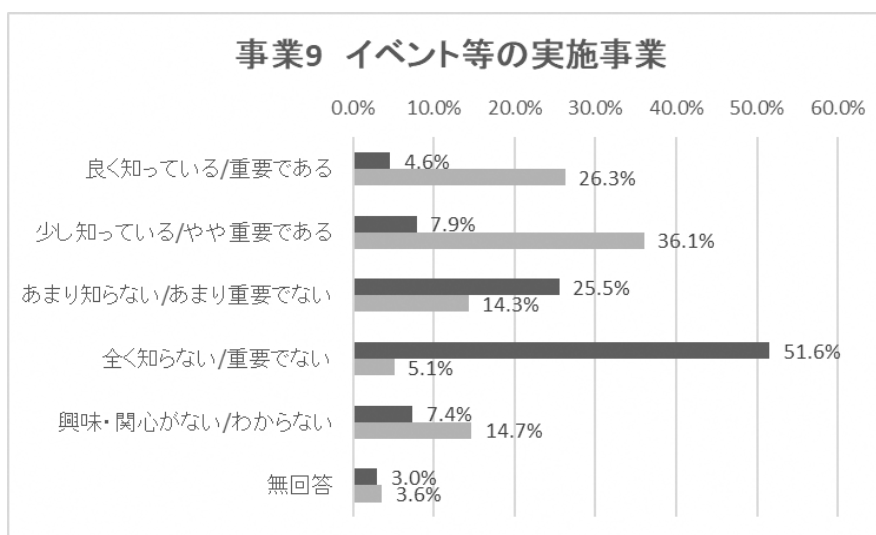
< 認知度 >

項目	件数	割合
よく知っている	41	4.6%
少し知っている	70	7.9%
あまり知らない	227	25.5%
全く知らない	460	51.6%
興味・関心がない	66	7.4%
無回答	27	3.0%

n=891

< 重要度 >

項目	件数	割合
重要である	234	26.3%
やや重要である	322	36.1%
あまり重要でない	127	14.3%
重要でない	45	5.1%
わからない	131	14.7%
無回答	32	3.6%



事業10 市民農園の新しい展開

- ・使用料の見直し
- ・「肥培管理マニュアル」の作成
- ・マナー遵守の活動の実施
- ・情報誌『Apron (エプロン)』の配布

○認知度については、「全く知らない」が53.9%、「あまり知らない」が25.9%、「興味・関心がない」が8.0%であった。

○重要度については、「やや重要である」が34.3%、「重要である」が20.2%、「あまり重要でない」が19.2%であった。

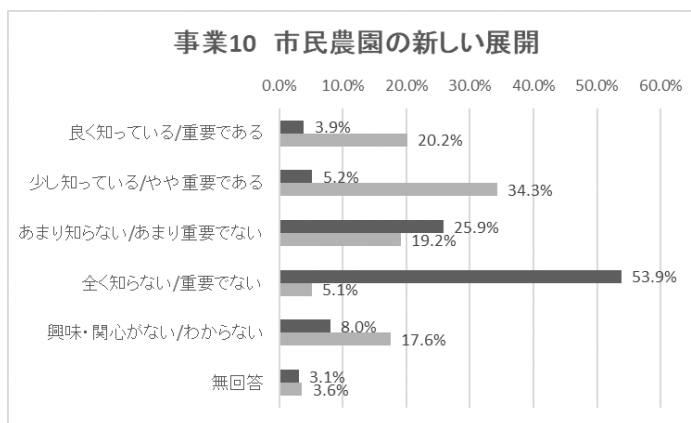
<認知度>

項目	件数	割合
よく知っている	35	3.9%
少し知っている	46	5.2%
あまり知らない	231	25.9%
全く知らない	480	53.9%
興味・関心がない	71	8.0%
無回答	28	3.1%

n=891

<重要度>

項目	件数	割合
重要である	180	20.2%
やや重要である	306	34.3%
あまり重要でない	171	19.2%
重要でない	45	5.1%
わからない	157	17.6%
無回答	32	3.6%



事業11 農業体験農園の推進

- ・ホームページ等を活用した情報発信
- ・市報や市民まつりでの広報の実施、支援
- ・開設時に支援（補助金）の実施

○認知度については、「全く知らない」が44.9%、「あまり知らない」が27.4%、「少し知っている」が11.2%であった。

○重要度については、「やや重要である」が33.2%、「重要である」が28.5%、「わからない」が16.4%であった。

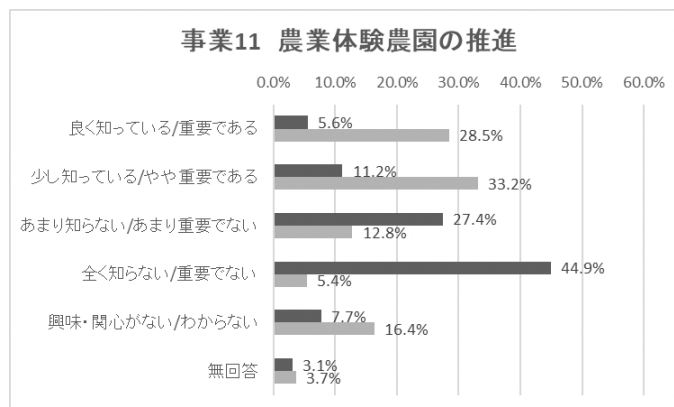
<認知度>

項目	件数	割合
よく知っている	50	5.6%
少し知っている	100	11.2%
あまり知らない	244	27.4%
全く知らない	400	44.9%
興味・関心がない	69	7.7%
無回答	28	3.1%

n=891

<重要度>

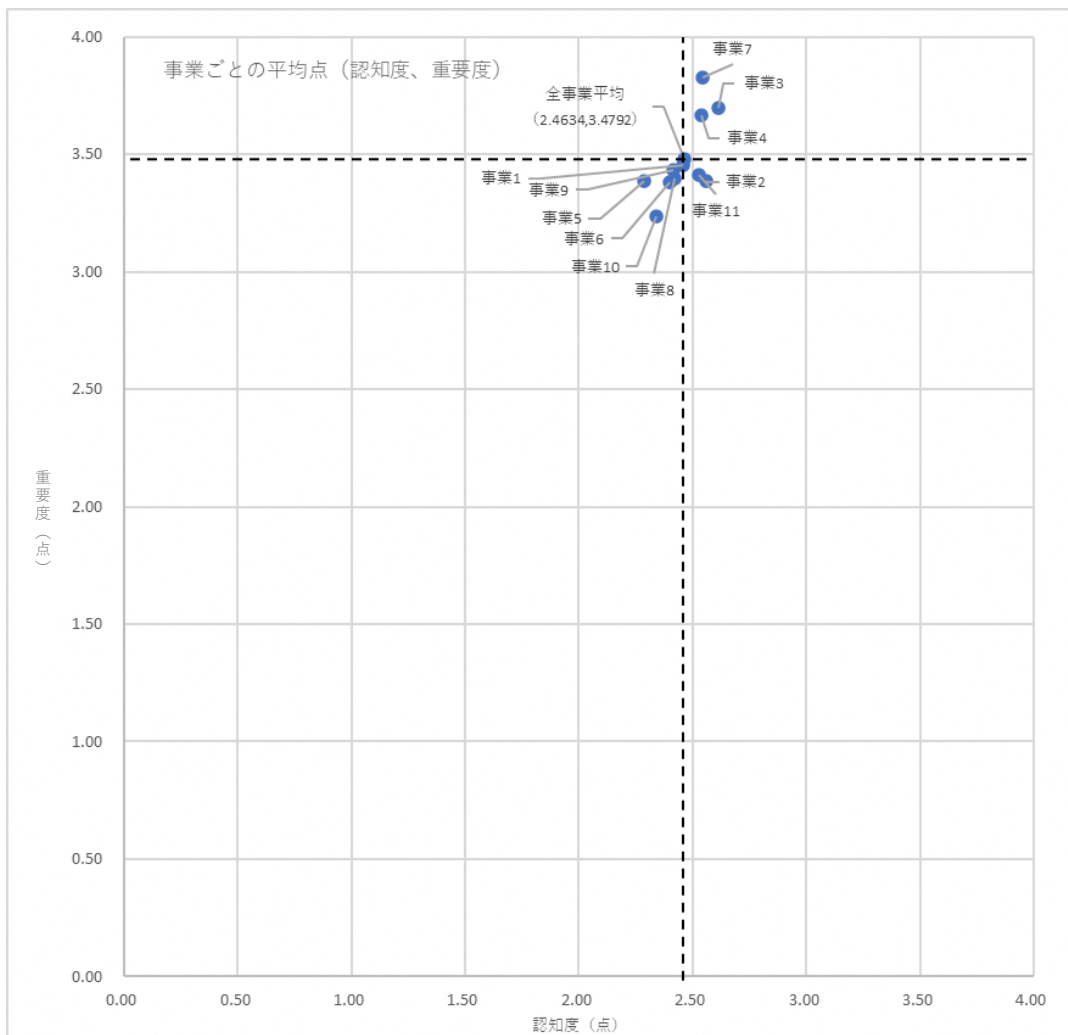
項目	件数	割合
重要である	254	28.5%
やや重要である	296	33.2%
あまり重要でない	114	12.8%
重要でない	48	5.4%
わからない	146	16.4%
無回答	33	3.7%



事業ごとの平均点（認知度、重要度）

- 第1象限（認知度高、重要度高）にあてはまる事業は、3,4,7の3事業である。
- 第2象限（認知度低、重要度高）にあてはまる事業は、0事業である。
- 第3象限（認知度低、重要度低）にあてはまる事業は、1,5,6,8,9,10の6事業である。
- 第4象限（認知度高、重要度低）にあてはまる事業は、2,11の2事業である。

平均点	認知度	重要度
事業1	2.46	3.45
事業2	2.56	3.38
事業3	2.61	3.70
事業4	2.54	3.67
事業5	2.29	3.39
事業6	2.40	3.38
事業7	2.54	3.83
事業8	2.42	3.40
事業9	2.42	3.43
事業10	2.34	3.24
事業11	2.53	3.41
平均	2.4634	3.4792



問 41 西東京市の農業施策全般に対して、考えやアイデアがありましたら、ご自由にご記入ください。

① 農地の保全、農の風景の保全に関する意見

- ・西東京市内は狭小の持ち家が多いが、それを最大限活用して草木、植樹等豊かな景観がある。またゴミ処理、分別も都内では TOP 5 ? 入りする民度の高さがある。正しく園芸大国日本の理想的な街並みがある。
- ・夏の暑い時に畑の傍を歩いて涼しく感じた時もあり、農地が温暖化を少しでも減らせることが出来ればと思う。
- ・農地が減り続けているのが気になる。
- ・地域の農業を守ってほしいと思っている。
- ・生産緑地が単なる税金減免のために耕作しているふりなら、条件を厳しくした方がよい。宅地として放出される部分を増やしてほしい。
- ・農地が年々減っていくのを目の当たりにして、危機を感じているが、このアンケートを見て、内容や数値について全く知らなかったことがわかった。以後、西東京市の農業について、関心を持っていかなければと思う。大きな木のある屋敷林である日突然伐採されるのを見て、とても残念に感じている。買い取ってほしかったが、市には予算がないという話を聞き、残念。景観は二度と戻らない。出来るだけ保護をお願いしたい。
- ・有効活用されていない荒れた農地がよく見られる。
- ・農地でも何も作っていない所は知らないのか。
- ・栗の木を数本植え、地面にはシートを張り、全く手入れをしない農地、菜類を植えても手入れなし、収穫なしの農地、立派な生産緑地の標識ではあまりにも税金対策と分かる所が多いのは反発を感じる。
- ・栄町の森は、保存すべきと考える。現在は個人の私有物だが、いずれ相続が発生し、これと類似の屋敷林の樹木はなくなり、住宅地化している。緑豊かな地域である栄町に移住したが、ずいぶん景観が劣化している。悲しむべし。
- ・30年前に保谷に越して来た当時は大きなキャベツ畑や栗林、雑木林などをいたるところで目にするのができたが、この30年の間にずいぶん減ってしまい、宅地などに変わっている。緑などが多い景観が変わってしまったのも残念であるし、温暖化防止の観点からももっと緑を増やすべきで、市がもっと積極的に緑地や農地を増やす施策を実施すべきだと思う。
- ・これ以上農地面積が減らないでほしい。
- ・畑などが住宅地に変わってしまい、残念に思う。残してほしい。
- ・税金対策の農地は要らないと思う。
- ・まずは荒れているような農地や耕地の整備等、審美的な部分から始めた方がよい。
- ・農地よりも商業施設に利用してほしい。
- ・近所で今まで畑や緑地だったところが最近になってコンビニになったり、木がどんどん切り倒されて公園になったりしていて悲しい。便利になったと思う一方で、季節ごとに変わる景観を楽しむにしていたのにそれが無くなっていくのを見るとやるせない気持ちになる。
- ・江東区から引っ越してきたが、高い建物が少ないので空が広く、星がよく見え、緑が多いことに喜びを感じる。都会にはないものを大事にする街づくりを期待する。
- ・農地の保全。
- ・身近に畑がある事がとてもいい事だと思うのでこれからも残してほしいと思う。

② 担い手の確保・育成、援農に関する意見

- ・後継者育成に力を入れてください。
- ・西東京の豊かな大地、農地の担い手を守っていただけたらと思う。

- ・農家の庭にある樹木の枯葉は今の時期、近隣住民にとっても農家にとっても清掃が大変だと思うが、ボランティアで住民一体となって定期的に清掃し、集めた枯葉を堆肥にし、それを売って地域に還元したらどうか。西東京市だけでなく市外の農家とも協力できればと思う。
- ・ボランティアなどお手伝いできる機会があれば参加したい。
- ・農地を集合して大規模化し、農家が共同で営農し、技術革新とコストダウンを実現できる企業体にし、若者が進んで参画でき、夢を持てる事業にしたら後継者不足の解決になると考える。
- ・農作業で出来る事があるならば手伝う。
- ・畑にボランティアでトマトやキャベツ、ナスなど作り方を教えて出来たものを食べてもらう。
- ・農業を手伝いたい。アルバイトをしたい時にネットですぐに求人が分かると良い。
- ・農業をやりたい人と休耕地を使って有効活用して欲しい人を行政が見つないで地域活性化、雇用創出、経済効果などが期待できるのではないか。
- ・健康増進（運動不足の解消）の一環として、農業手伝いを募る。
- ・農業は絶対に守っていかなければならないが、ボランティアではなく産業として就労場所としての認知を広げるべき。高齢化社会なので、最低賃金でも働きたい人は多いはず。
- ・農園でバイトしたい。
- ・農業のアルバイトは楽しそうで興味がある。
- ・季節毎に必要な、収穫アルバイトを斡旋してほしい。
- ・農家の手伝いアルバイトを、市に仲介してほしい。

③ 市民等への農業の理解・情報の発信について

- ・もともと住民意識の高い土地柄である。住民運動により保谷高校の開校誘致、東大農場の千葉移転阻止等の成果がある。どのような施策でも協力者が多く得られると思うが、情報発信等、誰にも分かり易く発信する必要性を感じる。
- ・食材として重要なものであるのに、西東京市に関しての農業、農作物について知らないことに驚いている。雑誌やTVなど、メディアでのPR強化で、もっと認知度を上げていくことが必要かもしれない。
- ・一般の人達が近郊農業の魅力をSNSで発信する。
- ・認知度が低いのが問題。広くアピールして知ってもらわないと意見も言えない。一部の人達だけで行っているのは問題。
- ・もっと地元の農業のPRを行ってほしい。1つの観光産業として発信してほしい。興味があり、また、見える化により努力（肥料関係）を見たい。
- ・西東京市の農業の施策について知らなかった事もあったが、国民が農業に関心を持って担い手を増やすことはとても重要である。市内に限らず、国内の農家の野菜を買うのはもちろんだが、私達も情報をシェアしたりするようにしたい。
- ・庭先販売所は新鮮でしかも安く、よく利用するが、その農家さんの特徴（力を入れていること、有機、こだわり）、品種などはわからないので、もっとアピールをしてくれると親しみや購入しようと思う人が増えると思う。農業は人にとっても大切な分野であり、応援したいといつも思っている。頑張ってください。
- ・農業は日本にとって最も重要な産業である。西東京市の農業の活性化には住民の協力なくしてはできない。イベントをしていると思うが、末端まで広くPRしてほしい。キャベツ、トマト、梨、長年住んでいて全く知らなかった。西東京の農業の顔がたくさんあるなら、駅前の商業地区で大胆な催しを奇数月にしてほしい。頑張れ西東京農業！
- ・フルーツ狩りのカレンダーやマップを作成し、駅に広告か冊子を置き、農業を気軽に楽しめるようにする。なるべく当日持ち物不要で気軽に参加できるように（土日営業、予約不要など）。
- ・地元の食材を使ったお店などをまとめたガイドブック。
- ・南町住民だが、畑の作物は沢山出来ているが、出荷している様には思えない。どうなっているのですか。どうぞ廃棄するのなら、一人500円を取って取り放題キャンペーンでもしたら良いと思う。

- ・レシピの提供、ワークショップ等。
- ・「青空レストラン」の様な番組に来てもらって、もっと西東京市の野菜の事を知ってもらってはどうか。市外から引っ越してきたが、西東京市の野菜のおいしさには「いい所に引っ越してきたな」と、口にするたびに思っている。
- ・知らない事が多すぎる。知らない事に税金が使われている事に無関心でいすぎたことを反省した。やっている事をもっともっと知らせてほしい。
- ・近郊農業に適した立地だと思うので、PR誌等は「西東京市の農業」として独立した項目で広報等普及に努めてほしい。
- ・農業施策の事について全く知らなかった。市報とかに書いてあるかもしれないが、市報もホームページも見ません。カラーのチラシとかをポストに投函してあれば見る気がするので、チラシをポストインしてほしい。
- ・数年暮らしているだけで、積極的に情報収集をしなくても、市が農業と教育の事業に熱心なのかという事は感じた。移住先の検討を考える若い家庭などにもおススメしたいと思える。もっと市外にもアピールできるように、著名人親子をゲストに迎えるなど親子向け農業体験イベント等を増やすと良いかと思う。応援している。
- ・子供が小学校の時、学校近くの農家さんの畑で芋掘体験のお手伝いをしたことがあるが、その時以来、農家さん達と関わる事がなかった。様々な野菜の収穫時期に農家さん達のお手伝いのできるのであれば、もっと子供達と参加したかったと思った。タイムリーな情報発信があれば、便利だと思う
- ・市報は目を通すが、市ホームページは何か調べたい事柄がないと見ないので、農業に関する情報は見た事がなかった。
- ・子供からの発信はその家庭を動かす力があるので、学校給食との連携（めぐみちゃんメニュー）。また、飲食店でのメニュー化などPRして行うと良い。
- ・そもそもPR力が足りていない。わざわざ西東京のHPを開くことはないのではないか。アナログだが人々の目に止まるようにする方が効果的。駅、駐輪場の傍など、又は病院、薬局、美容など待つ場でのポスター。
- ・全国のメディアにもっとブッシュした方がいいと思う。
- ・今まであまり意識しておらず、知らない事が沢山あった。そういう方も多いと思い。広報に工夫を凝らされたらと思う。アンケートも興味深い方法にしたらどうか。楽しみながら地域を考えるという方法はどうか。
- ・住んで5年近くになるが、取り組みについてほぼ何も知らない。おそらく接する機会がないためだと思ったと思うが、そう思う人はおそらく少なくない。もっと接する（知る）機会、場、広報活動など、アピール方法を検討されるべきではないか。子供と一緒に体験したい、知りたい、やってみみたい方は多いと思う。
- ・どのような広報をされているのか市民には不透明である。今まで「第2次西東京市農業振興計画」の策定がある事も知らなかった（市報等に広報不足が原因と思った）。今回のアンケートにより初めて知った。各分野で西東京市民のため、様々な策定がある事に敬意を表す。
- ・PRが足りないのもっと認知度が上がる様に市報や、アスタ等でPRをするべき。
- ・体験等をやっていたのであれば、駅や掲示板にて告知するなど大々的にやらないと広まらないと思う。SNSをしっかりと使う。
- ・SNSは広告費用削減できる可能性と一気に拡散するかもしれない可能性がある。新しいことにトライして、色々な事に柔軟に対応してもっと活発的な市になることを願っている。
- ・保育園や幼稚園、学校から、子供達、保護者への宣伝、連絡などが有効な情報発信だと思う。市内新聞より、学校などの案内の方が目を通す。但し、情報過多にならない様に。
- ・西東京市に引越ししてきて、まだ日が浅いため、いろいろ取り組まれている事を知らなかった。どこにいけば農業の取組などの情報が得られるのか、今回このアンケートをやるとても興味がわいた。情報の公開をもっとすれば、もっと広がるのではないかな。

- ・キャベツやトマトの生産量が多いことは知らなかった。西東京市の飲食店などでも地産地消の PR ができれば、若い世帯への認知が広がるのではないかと思う。
- ・学生や高齢者でも気軽に農業のアルバイトをできるよう、そのような機会を市民に広報する。「西東京市産」の野菜を使ったレストランがわかるガイドマップの作成。
- ・施策を知らなかったが、市の HP など調べようと思わない。効果的な周知の手段について良いアイデアはないが、検討の必要があると思う。
- ・SNS や YouTube はよほどユニークでない限り注目を集めないで、やるなら西東京市出身の人気 Youtuber グループ、コムドットに協力を依頼する、Twitter で事務連絡のような内容ばかりでなく面白さを重視したツイートをする(例:ナウル共和国政府観光局)などなんらかの尖った方法が必要だと考える。
- ・スーパーに地産地消コーナーを設けて、市オリジナル給食レシピを無料配布すれば親子をターゲットに出来るかどうか。
- ・まずは、情報発信。知ってもらわなければならない。そのために、ネットや SNS などを積極的に活用すべきだと思う。時間があれば映像制作が本職なので、西東京チャンネルなんかを立ち上げたい。
- ・いろいろ試してほしい。
- ・知らない対策や企画がたくさんあった。もっと認知してもらったり、参加してもらうために幼稚園、保育園、学校から広告や冊子を配ってもらって子育て世代に PR をしていくと良いと思った。
- ・何をしているのか全くわからない。もっと周知する方法を考えないと広がらないのではないか。
- ・情報をほとんど目にしたことがないので、まずは多くの人に情報発信する必要があると思う。
- ・広報を見やすくしてほしい。
- ・農業施策についてまったく知らないで、意見を出しにくい。まずは、市民に PR してほしい。かつての「ひまわり事業」の経験から、土に触れてみたい市民はすごく多い。農業というよりもそのような軽い体験を増やすと自然と農業にも関心を向けるのではないか。
- ・PR 強化(イベント、駅や商業施設など人が集まる場所への掲示や展示など)。
- ・イベントなどがある際は、目にする機会が少ないのでチラシを各家に配布すると見るかもしれない。
- ・市内に看板建てて日常生活で目に入る様にアピールする事をお勧めする。
- ・めぐみちゃんの YouTube チャンネルを作って情報発信する。
- ・PR の工夫。
- ・学校教育などを通して、まず若年層に PR することが必要と考える。
- ・大切なことだが全く知らなかったで、もっと PR をして、皆が知れる機会があったらいいと思った。

④ 農産物直売所・イベント等について

- ・買い物難民地域での公民館等で販売。
- ・駅付近でマルシェを開催する。
- ・先月たまたまいこいの森公園で、JA の直売テントで野菜を買い物した。ほぼ毎日のようにウォーキングしているが、日時のポスターとがなく、いつか知らない。JA の直売所はバスの車内から見るが、不便な所で気になっていても行きにくい。
- ・「町の駅」設置に連携した農産物の販売を提案したい。
- ・キャベツの生産量が高いのは知っていたが、直売所などではあまり見たことがない。大根や小松菜やきゅうり、ブロッコリーなどはよく見かける。もっとキャベツを地元に出して、メニュー開発をして西東京市の売りにしたらどうか。
- ・規模の小さな直売所では認知されないと思う。谷戸小学校の南側に広い空き地があるが、「道の駅」でも作れないのか。
- ・地産地消はとても大切である。農協の直売所の稼働時間、売り場の拡張を望む。
- ・美味しい野菜を無人販売しているのがありがたい。しかも 100 円は驚きである。無人販売所のある場所をもっとアピールしてもらいたい。

- ・新鮮な野菜を通り沿いに販売して頂けたら嬉しい。
- ・スーパーの店頭などで、マルシェの開催などがあると気軽に行けていいと思う。
- ・ブラックフライデーに収穫祭を行う（アメリカでの本来の意味なので、日本で始まっているブラックフライデーより意味のあるものになるのでは）。
- ・市内の農家の庭先販売所がどこにあって、"今の時期"に何が買えるのか、などインターネットなどで一覧で見られたらもっと利用したくなると思う。
- ・都会で農業を続けていくのは大変だと思うが、直売所が近くにあるので買うことで支援になればと思う。
- ・各地にある道の駅のような、特に農作物に重点をおいた大規模な特産品販売所を作ってみる。駐車場もあり、子供の好きな縁日風の店もあり、特産品をフードコートで食べられる。
- ・ひばりが丘や田無の駅近で、定期的に週末マルシェを開くとか、道の駅のような所を作る。
- ・まず近隣に農家の直売所がない。また、直売所の品数少なく、すぐに在庫なし、価格がスーパーと比べて高め。
- ・戸建の家も多く、草花を育てている人も多いので、季節ごとの花などを育てて売るフリマのような場所があればいいのではないかと。苗木や鉢植え、切り花をホームセンターまで買いに出ているが、そんな場所が身近にあり、月1、もしくは季節で年4回、月2回でもあれば活気になるのではないかと。土や備品（鉢、軽石、肥料など）も売ればいいと思うし、近所に"焼物のカップ"などに、ケヤキなどの木を植え、盆栽鉢として販売しているお店があり、とてもカワイイので若い人や年寄りにも人気が出そうである（サボテンなども）。農業を広い意味で捉え、大きく広い視野でやりやすい今どきスタイルを作ったらどうか。東伏見の公園とかで開催するか、小さめから、お祭りをしていたので、仲よし公園あたりで始めたらよさそう。
- ・農協で販売する野菜は品評会のように立派すぎる。もっと少し曲がっていても新鮮でお値打ち品を出してほしい。値段が高いものが多い。買いものに来た人に、「今はこんな種をまいてプランターでも育てることが出来ますよ」など育てる事に無知な人に啓発活動も必要ではないか。
- ・農家の庭先での野菜販売。生産者の顔が見えない。
- ・今も農家の庭先での販売所は良く利用している。これからも代々続いてほしい。現在の売り場の数が少なくならない様に望む。
- ・ミニ道の駅。但し駐車場はなし、自転車のみを作って情報発信し、室内を緑で明るくキレイに保つ（クラウドファンディング等で）。
- ・農業に力を入れるなら毎週土日のどちらかは駅前や商店街、いこいの森でイベントするなど、他の地域からも足を運びたいようなイベントをした方がよい（SNSで発信）。
- ・市内の農産物がもっと身近に手軽に購入できる場所があったら嬉しいし、アピールしてほしい。
- ・西東京産の農作物をJAが週2回販売（直販）している。できれば、市とも協力し、大規模の販売をしてほしい（年数回）。
- ・直売所MAPなど、HPなどであると嬉しい。直売所は通り道にないので。営業時間や本日の野菜値段などリアルタイムでわかると助かる。
- ・地域野菜を使った食イベントの開催、大崎駅のように駅前の広場など目立つ場所で定期的を開催すると認知度が上がると思う。
- ・駅そばなどでもっとめずらしい新鮮な野菜を売って、知名度をあげてはどうか。
- ・商業施設などの空いているスペースで1ヶ月に1回などの頻度で農家の方の育てている野菜を販売し、農家の方と直接お話ができる場があると交流も深まり、良いのではないかとと思う。
- ・高層マンションの共有スペースで地元農家のマルシェを開いてほしい。
- ・農家の野菜が買える場所を増やしてほしい。
- ・野菜も良いが、花や観葉植物の栽培や販売があれば良いと思う。
- ・複数農家さんと手を組んでイベントをもっと行ってほしい 子育て世代も利用しやすいよう、夕方や夜の時間、土日にも開催してほしい。
- ・直売所の情報発信があると良い。
- ・農家の庭先販売だと種類がないため、JAで買物をしたいと思っているが、営業時間に間に合わない。

⑤ 西東京市の特産について

- ・西東京市にしかない特産品の創設。
- ・清瀬市はみつばちではちみつなど販売しているように思ったが、西東京市は出来ないか。
- ・農業をもっと盛り立てていく様、応援したい。キャベツが有名なのであれば、キャベツを使った料理のコンテストなど、大々的にやってほしい。
- ・西東京市の農業について知っていることがなかった。量、額、面積ではなく、西東京市ならではの、西東京市でなければ手に入らない物が何かあると良いと思う。そういう物があれば値段が高くてほしい。
- ・西東京市といえばこれ、というものが無いよう、もしくは少ないように感じる。何か確立できたら良いと思う。
- ・梨のブランド力を高めていくと良いと思う。

⑥ 農業体験の場づくり、市民と生産者との交流について

- ・小学校、幼稚園農業体験授業良い。
- ・農家主催のイベント（芋ほりとか梨もぎなど）へ市が共催としてバックアップする。
- ・園児、児童たちの体験農業を一年間やり、自分たちで植えて耕した作物を収穫し食べる→また、クズを利用して肥料を作る。
- ・個人的には農業に興味があるので、手軽に体験できれば様々なイベントに参加したいと思った。色々なイベントがあったことを知らなかった。
- ・市民農園のマナーがあまりよくなく、体験農園に移った方から農家の方の指導があり、雰囲気も良いので移って良かったと聞いた。練馬区で体験農園を利用していた時は補助金のおかげで安く利用できていたので、西東京市でも制度を作って頂けると嬉しい。
- ・ご近所の方から、市民農園で作られたというトマトや大根を頂いた事がある。とても新鮮で美味しく頂いた。好きな方は喜んで利用されているので、是非続けて頂きたい。
- ・市民に対して無料で野菜づくりなどの農業体験が気軽に出来る場が（子ども）あると良いと思う。
- ・子供時代に感覚を身につけると一生忘れない。
- ・市民農園か農業体験農園かは知らないが、作業のために路駐は良くないと思っている。大抵路駐してある。
- ・収穫→持ち帰りに興味がある。とうもろこし狩り、キュウリもぎ等、季節の野菜を自分の手で採れたら楽しい（もちろん有料でOK）。農家さんとの交流も話を聞くことで理解が深まる。
- ・畑の一区画だけでも借りて、お花や野菜を作りたいが、どこにあるかわからない。
- ・新町市民農園の閉鎖については残念だった。
- ・収穫体験がもっといろんな農園であったら子供と参加したい。
- ・興味ある人が気軽に野菜作りを通して、人とのつながりを感じられる場として、農地を活用してほしいと思う。
- ・電子化、映像化による宣伝、やった感の推進自体について、反対ではないが、実体験の無いまま推進一途の現状を良いとは思わない。人と直接話せない、土に直接触れない農業や農産物の知識では本物とは言えないと思う。両方の知識、体験が必要と思う。子供たちに幼児・小・中学校時代に土と農業者、東大農場との触れ合う機会を作って下さい。
- ・市民参加の収穫フェアなどあればいいのではないか。
- ・市民農園を増やして、気軽に利用できるようにしてほしい。
- ・市内農家が市民農園を設置してほしい。新町市民農園が廃止した後、代わりの新規農園を設営してほしい。
- ・自分で作って食べられる農園を安く利用できると嬉しい。
- ・近くに指導者がいる市民農園がほしい。
- ・さつまいも掘り体験、焼き芋大会をやりたい親子は多い。

⑦ 環境に配慮した農業、安全な農産物、地産地消について

- ・色々な場所で、採りたて新鮮野菜が置かれる様になり、写真など顔の見える農家、安心安全と感じる。
- ・できれば農薬をあまり使わず、安全で色々な品種で市内産を食べられれば嬉しいといつも思っている。
- ・地産地消。
- ・保育園、小学校で積極的に消費。
- ・品質の高いオーガニック品を分かり易い販売拠点で販売する。
- ・このアンケートの内容を見て、改めて農業に関係している方達に感謝したいと思う。これからも未来の子供達のために、有機農産物を使った給食等を作って頂けたら良いと思う。
- ・保谷庁舎に隣接した「道の駅」ファーマーセンターを開設し、地元農家に参画して頂く。地産地消の推進を提唱する。
- ・自分が農業をやってみようとは思わない。西東京市の農産物を進んで購入はしたいと思っている。これからも子ども達には新鮮で安全な農産物の提供をお願いしたい。
- ・地産地消ができるまちを、購入することで応援したい。
- ・地産地消の推進によって、もっと色んなところで地元の新鮮な野菜や果物を味わいたい。
- ・地元の安全な野菜などを進んで購入したいと思う。
- ・無農薬の野菜を作り、西東京市の野菜直売所で売ったら、売れると思う。直売所が少ないので、つくる。
- ・東久留米市の農家直売所一覧が非常に見易く役立ったので参考にしてほしい。

⑧ 農業振興について

- ・市内自給自足が出来るくらいに西東京市内の農家さんに市も応援を！農家の皆様のいつも頑張ってお下さる姿に頭が下がる。
- ・次世代を担う子供達に農業の大切さを教えるには市をあげて教育施策として取り組む必要がある（小中学校での農業教育やイベントの開催）。
- ・小さい頃から農業にふれる事が当たり前出来る様な地域になると良い。精神的リスクのある若者が出てこられる場所として不耕作地が利用できないか。
- ・農業のすきま産業推進し、農家との情報共有をする。例えば、高齢で、〇〇作りやめるため、新しい人、既存農家に情報発信。既存農家が1つの作物だけでなく、複数を少量ずつ一年通して収穫。収入を得るスキームを作るなど。
- ・田無タクシーを上手く活用できないか。
- ・正直なところ、今まで西東京市の農業について、あまり深く考えたことがなかった。これを機にもう少し関心を持って生活しようと思う。
- ・自宅が市の外れにあるので、あまり市の活動に参加していない。なかなか参加しづらいが、農業を大切にしていくことは重要だと思うので、これからも活動を続けていって下さい。
- ・市外から通っている人の活用不足。色々な企業に通っている人で、高い能力を持った人がいることを知らない。
- ・西東京市の飲食店（レストラン、バー、居酒屋）と協力して、市内産のレシピを作成する。
- ・住んで6年くらいになるが、仕事や趣味で忙しく、農業（施策）とは接点がほぼないと気づいた。重要な事だと理解はしているつもりだが、自分事には落とし込めない。
- ・農園では一部の人に売らただけで、農地横にきちんと並べて売らないから不公平に販売している（好きな人に売り、嫌いな人に売らない）。こういうやり方でも農家なのかと思う。税金免除の恩恵を受けていると思うから、農業やるならもっと明瞭にした方が良いと思う。
- ・西東京市の農業について、全く知らなかったが、とても重要で必要なことだと思う。今回のアンケートで知るきっかけになった。キャベツ、トマト、梨、気にしたいと思う。
- ・このアンケートでわかったことだが、農業施策について具体的な取組みがよくわかっていなかった。市報や掲示板等は見ているつもりだが、もっと多くの人に関心をまず持っていただくよう、広報活動の充実を望みたい。

- ・農業振興に力を入れていただけることを期待したい。
- ・せっかく地元で東大農場があるのだから、もっと連携できないか。"西東京市生まれの野菜" 東大が品種改良した野菜を地元で育てるなど。
- ・多摩自転車道両脇の農地を借上げ、店舗を出店。自転車道を昔の街道をイメージする地域にする。ランニングや自転車の方向けで駐輪スペース、ロッカー、簡易シャワーなどを設置する。温泉による足湯スペースの設置。
- ・西東京市の農業に関しては全く知らなかった。
- ・珍しい作物が良い。
- ・大人になって「はい、これやりましょう」でなく、学校教育や地域社会を通して、子供のうちから自然、農業に親しむのが大事であると考え。将来、大人になった時に、何らかの経験が生かされ、推進に携わるリーダー的な存在を作り出せるようになると良い。
- ・市内で自給自足できれば、市民の繋がりも強くなり誇りを持つと思う。
- ・スーパーマーケット等への市内産農産物の流通支援（市内フェアトレード的なもの）。店頭販売価格は安くても、生産者の収益が他へ販売する場合（庭先販売は除き）よりも大きくなるような仕組みがあれば、消費者も生産者も嬉しい。
- ・インターネット他、情報発信・宣伝強化、学校の授業にも数時間の農業学習を実施する。
- ・市内の有名飲食店とのコラボ。
- ・小学生の時に、保谷市=キャベツと社会の授業で習った。力を入れて生産している農作物をもっと広めたほうが良いのではないか。
- ・西東京市で暮らして2年未満で、農業が盛んだったことすら知らなかった。
- ・農業には今のところ興味がない。

⑨ 西東京市、国等の農業施策について

- ・30年ほど前は東大農場に自由に出入りできたように思うが、当時はスケッチをしに行ったり、牛を見に行ったり、わりと身近な感じだったが、今はそうではない気がする。例えば、いこいの森公園にも出入り口を作り、市民が行き来して自然に親しんだり、農業を体験したりということは出来ないか。予約制だけではもったいない場所だと思う。もっと産学官連携してもらいたい。大学側も広大な敷地を占有しているのだから、もっと市民に開放するべき。
- ・西東京の特産キャベツや夏みかん等を使ったまちおこし策が不足。アイデアの募集等必要。
- ・市と市民での「ほうれんそう」。報告、連絡、相談を密に。
- ・西東京市には東大農園があるにも関わらず、学生協力とのイベントが何も伝わってこない。これらの行事がある事もわからないので、色々な企画や宣伝を考えてほしい。
- ・農業の担い手不足（後継者不足）で閉鎖される販売所が増えているので、人材育成、安定した収入の保障（確保）等の施策をお願いしたい。
- ・宅地化が進み、農地が減り淋しい。もっと農家のために税制を減らしてほしい。
- ・災害時（大地震）で輸送網がストップした時に、一時的な食糧として活用できることを期待している。
- ・それぞれの施策毎の認知度は低いが、重要度は各項目それぞれ非常に高いと思っている。
- ・市内の農業が減少しないよう、守る事は重要で、若い世代と連携して施策すると良いと思う。
- ・後継者不足が深刻な農業だが、市で補助してでも農家、農園を絶やささない様にして頂きたい。大変な職業だが、応援するしかできない。
- ・代が替わるので仕方がないが、農地に瞬く間に新しい家が建ち、寂しく思う。国が税金を取ることばかり考えている結果だろう。または農業が大変なものもあると思う。
- ・農業（地）への施策や注力は、結局相続で消えてしまうので、むなしい。
- ・災害発生に備えて一定の空間が必要である。農家の屋敷林は公共財として補助していく。固定資産税は課税しない。100年の榊などは個人の所有物ではなく、公共財であるから公民館や図書館の運営と同じように市有物（現所有者の協力のもとに）として運営していく。100年の榊を伐ったら100

年しないと復元できない。そこに災害に備えて上下水道や避難場所（宿泊可能な施設、日常的に利用可能なコミュニティ施設）をつくり、活用する。

- ・ほとんどの農家は不動産管理で収入を得ている。固定資産税回避のための農地で農業に力点が入っていない。この事実は市では認知（認識）しているはず。もっとやるべきことがある。
- ・20年前に越してきた時は近所に沢山あった農地がどんどん宅地になっている。それが若い人口が増えることに繋がっているのだと思うが、農家さんを守らないと消滅してしまいそうで少々心配である。援農マッチング事業はとてもいいと思う。
- ・農地施策について日常あまり考えてこなかったのが、回答にやや迷ってしまうところがあった。
- ・西東京「市」というまちがあることの認知度が低そう（「西東京」という言葉が「東京の西側全体」というイメージのため）。23区に住む親戚も「西東京市」という市があることを知らなかったのが、西東京という立地、アクセスがよく、一方で農地が広がることを主要駅などで、農作物の疑似収穫体験などでアピールする。また、できれば東大農場と組んで、田植えや牛の乳しぼり、座学などでできればいいのではと思う。
- ・農業より商業施設を充実させてほしい。
- ・市内農業用地が点在し、災害（大地震等）の為には必須と思われる。しかし、住宅との間に30mもない場所での生産のため、間に緑地帯を設ける、またはフェンスを設ける等、農業者以外の生活にも目を向けた政策を考えて取り入れて頂けると良いと思う。
- ・東大農場を軸にしてイメージアップにつなげられるとよいと考える。
- ・市として農業でどこを目指しているのか。食料難のこの世の中でどうするのがよいのか。考え方を知りたい。
- ・「自給自足の街・西東京市」として、農産物の市外出荷量>市内入荷量を目指す。
- ・西東京市の農業政策は、ここに行けば良いという、一つの拠点があるといい。
- ・農地よりも西東京は林業が盛んな印象が強いので、それをもっとアピールしても良いのではないか。
- ・最近、西東京市内の農園や緑地が減ってきているように感じる。小さい頃から土に触れる体験、自分の手で作物を収穫し料理をする体験は、その後自身の進路選択にも大きく影響を与えた。そのような体験の場が減りつつあることが残念である。これ以上、農園や緑地が減らないような支援、対策が実施されることを期待する。
- ・農業政策施策についてこんなに力を入れているとは、知らなかった。頑張ってください。
- ・今後も継続していけるような援助を続けてほしい。
- ・自治体が営農支援を実施することには賛成しない。
- ・当局の市内の農業に対する立ち位置がわからない。模索中なのか、私達に決めて欲しいのか、JAとの関係は？ベッタウン化して、困惑しているのか？
- ・若者も巻き込めるアイデアがあれば、なお良いと思う。
- ・農業法人の設立を自由化すべきだと思う。
- ・農業施策について全く知らなかった。良い機会をいただいた。
- ・農地がどんどん減っている気がする。相続税などで農地を売らずに済むような政策が必要。
- ・農業施策に力を入れても人口増加、税収拡大には寄与しないのではないか。
- ・知り合いの子供が強制的にメニューを考えさせられたと聞いた。無理矢理なことは良くないと感じた。
- ・未利用のうちの貸借制度。

(3) 子どもアンケート調査

ア アンケート概要

項目	内容
目的	<ul style="list-style-type: none"> 子ども世代の農業の関わり方やニーズを把握し、将来の農業のまちづくりを担う世代の育成や啓発のための施策を検討 アンケートを通じて市の農業に対する理解を深め、家庭内でも農業に関する会話を生み出すきっかけづくり
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> 市内公立小学校6校5年生、市内公立中学校4校2年生 (1校あたり2~4クラス)
配布回収方法	<ul style="list-style-type: none"> 学校配布(令和4年12月2日~12月16日)
配布・回収数	<ul style="list-style-type: none"> 1,097件
設問概要	問1：西東京市の農地の多さについてイメージ 問2：西東京市の農業で思い浮かぶもの 問3：農業のことを知り学ぶ場面 問4：西東京市内の農業や農地の貢献度合い 問5：西東京市の農業について知っていること 問6：農業体験など農とのふれあいの経験 問7：農業とのふれあいを目的にしたイベントの認知 問8：農業・農作業への興味 問9：めぐみちゃんメニューへの参加経験、意向 問10：自由意見

※アンケート結果の比率は、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、百分率の合計が100.0%にならないことがあります。

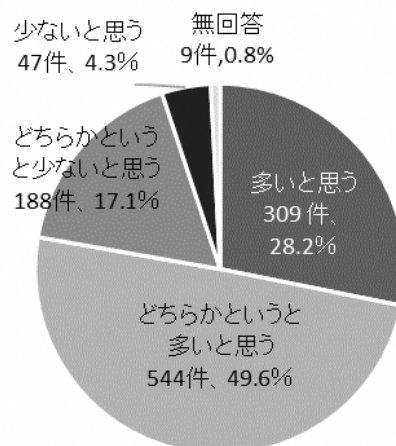
イ アンケート結果

問1 西東京市に畑など農地は多いと思いますか。(単一回答)

○西東京市に畑などの農地は、「どちらかという和多いと思う」との回答が49.6%であり、次いで、「多いと思う」(28.2%)となっている。

項目	件数	割合
(1)多いと思う	309	28.2%
(2)どちらかという和多いと思う	544	49.6%
(3)どちらかという或少ないと思う	188	17.1%
(4)少ないと思う	47	4.3%
(5)無回答	9	0.8%

n=1,097



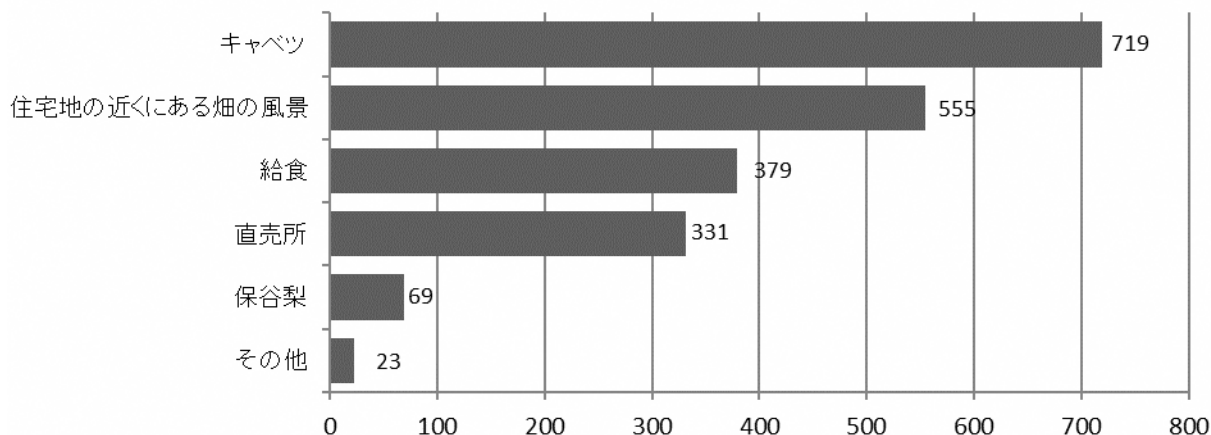
問2 西東京市の農業といえば、思い浮かぶものは何ですか。(複数回答)

○西東京市の農業といえば、「キャベツ」を思い浮かべるとの回答が65.5%であった。次いで、「住宅地の近くにある畑の風景」が50.6%、「給食」が34.5%の順であった。

項目	件数	割合
(1)住宅地の近くにある畑の風景	555	50.6%
(2)キャベツ	719	65.5%
(3)保谷梨	69	6.3%
(4)給食	379	34.5%
(5)直売所	331	30.2%
(6)その他	23	2.1%

[(6)その他]の具体的な内容：
ブルーベリー／学校の近くの畑／小松菜
／茶畑／めぐみちゃんメニュー／農園／
いも／レタス／はくさい／体験ができる
／ビニールハウス 等

n=1,097

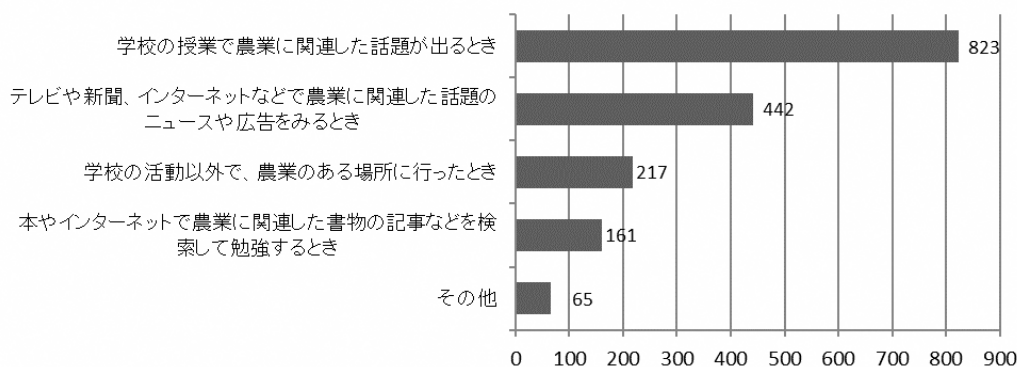


問3 日ごろ、農業のことを知ったり、学んだりするのはどのようなときですか。(複数回答)

○農業のことを知ったり、学んだりするのは、「学校の授業で農業に関連した話題が出るとき」が75.0%であった。次いで、「テレビや新聞、インターネットなどで農業に関連した話題のニュースや広告をみるとき」が40.3%、「学校の活動以外で、農業のある場所に行ったとき」が19.8%であった。

項目	件数	割合
(1)学校の授業で農業に関連した話題が出るとき	823	75.0%
(2)テレビや新聞、インターネットなどで農業に関連した話題のニュースや広告をみるとき	442	40.3%
(3)学校の活動以外で、農業のある場所に行ったとき	217	19.8%
(4)本やインターネットで農業に関連した書物や記事などを検索して勉強するとき	161	14.7%
(5)その他	65	5.9%

n=1,097



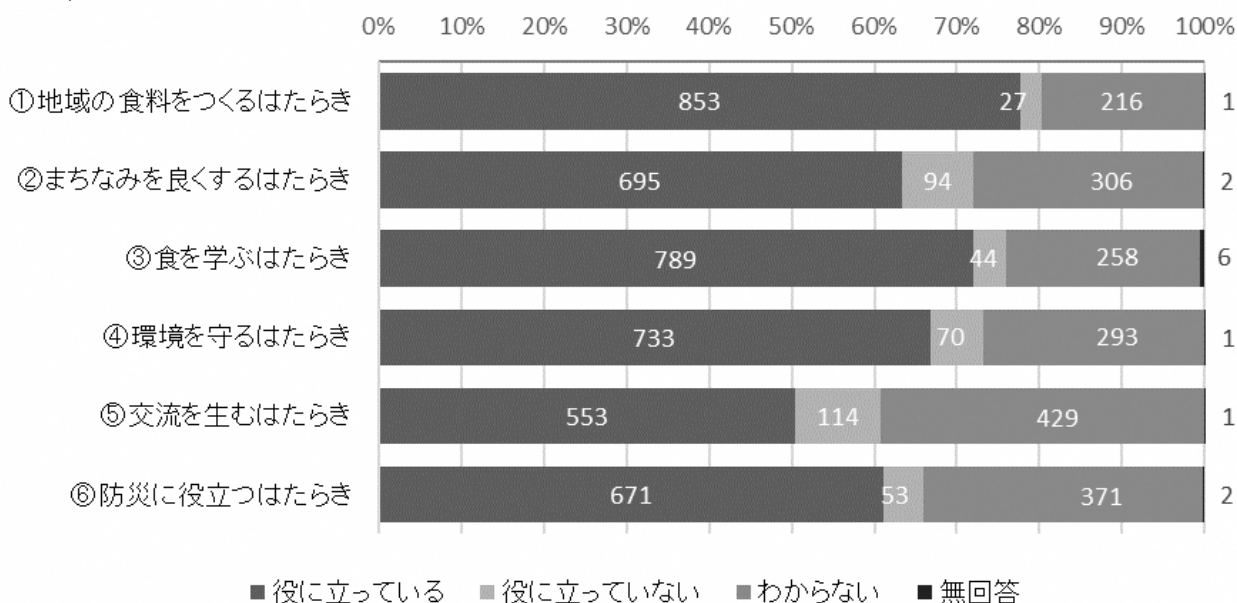
[(5)その他]の具体的な内容：
家族との会話／農家または関連するお店勤務の祖父母・親から聞く、作業を手伝う／近所の農家から／学校給食時の放送／習い事での宿題／学校での職業講話で話を聞く 等

問4 あなたは、西東京市内の農業や農地について、どのように感じていますか？（単一回答）

○西東京市内の農業や農地について、「地域の食料をつくるはたらき」が役に立っていると感じている割合が77.8%であった。主な機能について、役に立っていると回答が多い。

項目	(1)役に立っている		(2)役に立っていない		(3)わからない		(4)無回答	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
①地域の食料をつくるはたらき	853	77.8%	27	2.5%	216	19.7%	1	0.1%
②まちなみを良くするはたらき	695	63.4%	94	8.6%	306	27.9%	2	0.2%
③食を学ぶはたらき	789	71.9%	44	4.0%	258	23.5%	6	0.5%
④環境を守るはたらき	733	66.8%	70	6.4%	293	26.7%	1	0.1%
⑤交流を生むはたらき	553	50.4%	114	10.4%	429	39.1%	1	0.1%
⑥防災に役立つはたらき	671	61.2%	53	4.8%	371	33.8%	2	0.2%

n=1,097

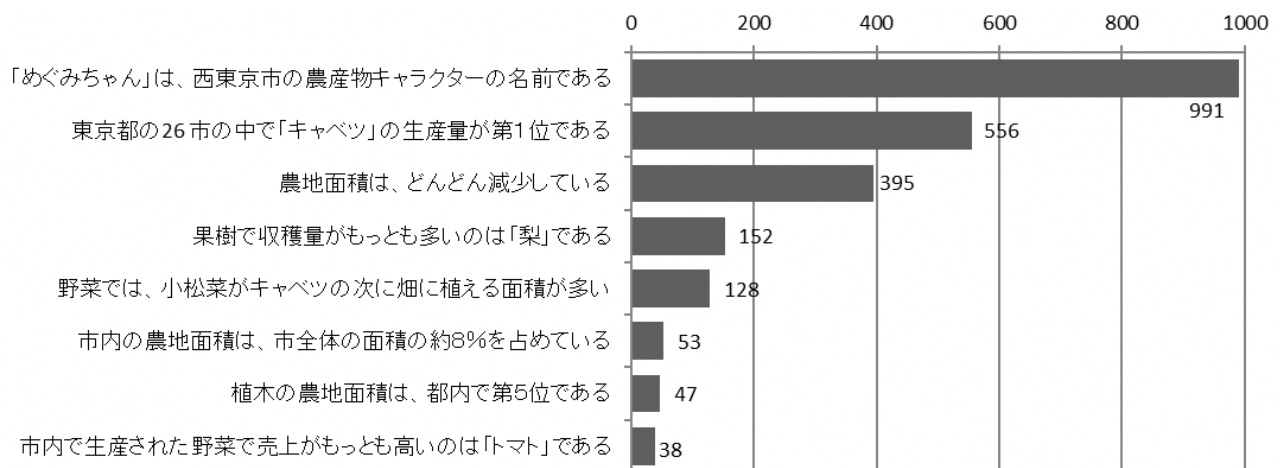


問5 西東京市の農業について知っていることを教えてください。（複数回答）

○西東京市の農業について知っていることについて、「めぐみちゃん」は、西東京市の農産物キャラクターの名前である」が90.3%で最も多く、次いで、「東京都の26市の中で「キャベツ」の生産量が第1位である」が50.7%、「農地面積は、どんどん減少している」が36.0%であった。

項目	件数	割合
(1)東京都の26市の中で「キャベツ」の生産量が第1位である	556	50.7%
(2)市内で生産された野菜で売上がもっとも高いのは「トマト」である	38	3.5%
(3)果樹で収穫量をもっとも多いのは「梨」である	152	13.9%
(4)野菜では、小松菜がキャベツの次に畑に植える面積が多い	128	11.7%
(5)植木の農地面積は、都内で第5位である	47	4.3%
(6)市内の農地面積は、市全体の面積の約8%を占めている	53	4.8%
(7)農地面積は、どんどん減少している	395	36.0%
(8)「めぐみちゃん」は、西東京市の農産物キャラクターの名前である	991	90.3%

n=1,097



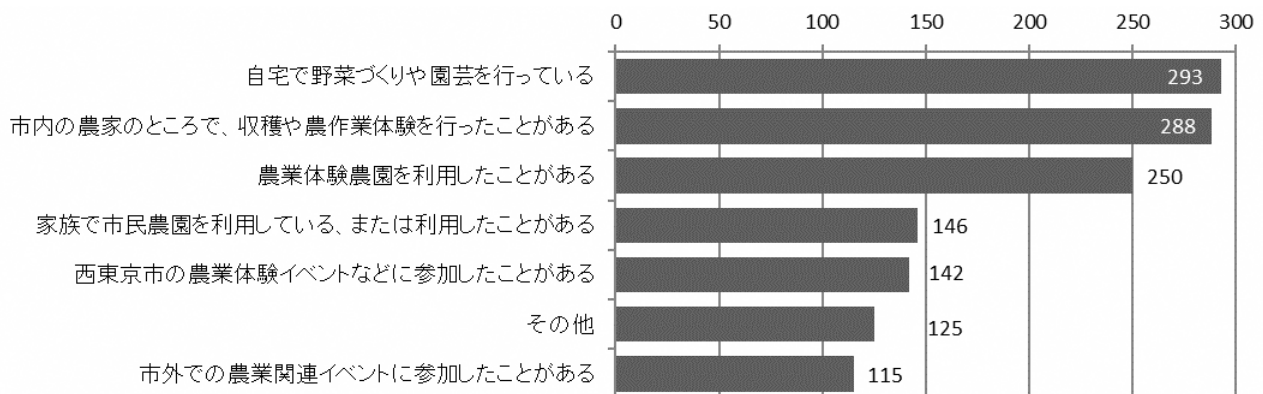
問6 農業体験など農とのふれあいについて、どのような経験がありますか。(複数回答)

○農とのふれあいについて、「自宅で野菜づくりや園芸を行っている」が26.7%で最も多く、次いで、「市内の農家のところで、収穫や農作業体験を行ったことがある」が26.3%、「農業体験農園を利用したことがある」が22.8%であった。

項目	件数	割合
(1)家族で市民農園を利用している、または利用したことがある	146	13.3%
(2)農業体験農園を利用したことがある	250	22.8%
(3)西東京市の農業体験イベントなどに参加したことがある	142	12.9%
(4)市外での農業関連イベントに参加したことがある	115	10.5%
(5)自宅で野菜づくりや園芸を行っている	293	26.7%
(6)市内の農家のところで、収穫や農作業体験を行ったことがある	288	26.3%
(7)その他	125	11.4%

n=1,097

[(7)その他]の具体的な内容：
 近所の畑仕事を見学／近所から野菜をもらう／幼稚園や小学校での農作業体験や農園見学／学校の授業（お米の学校）／学童の畑に行く／親戚・祖父母がしている農業の手伝い／習い事／いちご狩りなど観光／友達の家で農園で収穫／経験がない 等



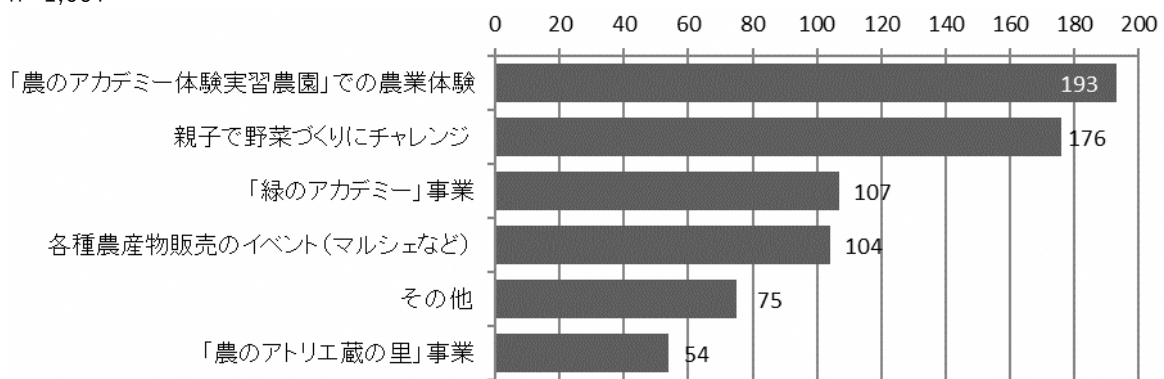
問7 西東京市では、農業とのふれあいを目的にした以下のようなイベントを行っています。
知っているイベントがあれば教えてください。(複数回答)

○西東京市の知っているイベントについて、「農のアカデミー体験実習農園」での農業体験が17.6%で最も多く、次いで、「親子で野菜づくりにチャレンジ」が16.0%、「緑のアカデミー」事業が9.8%であった。

項目	件数	割合
(1)親子で野菜づくりにチャレンジ	176	16.0%
(2)「農のアカデミー体験実習農園」での農業体験	193	17.6%
(3)「緑のアカデミー」事業	107	9.8%
(4)「農のアトリエ蔵の里」事業	54	4.9%
(5)各種農産物販売のイベント(マルシェなど)	104	9.5%
(6)その他	75	6.8%

[(6)その他]の具体的な内容：
小学校の農業体験/
めぐみちゃんメニュー
/知らない 等

n=1,097



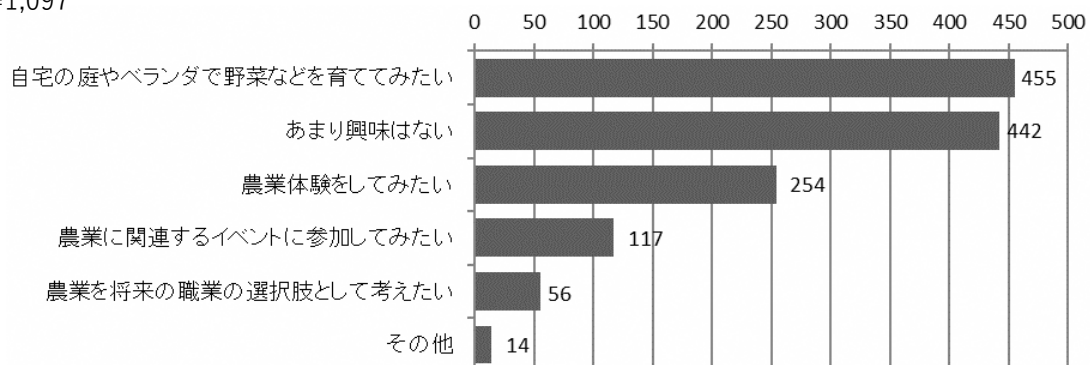
問8 農業・農作業に興味がありますか？(複数回答)

○農業・農作業への興味について、「自宅の庭やベランダで野菜などを育ててみたい」が41.5%で最も多く、次いで、「あまり興味がない」が40.3%、「農業体験をしてみたい」が23.2%であった。

項目	件数	割合
(1)農業体験をしてみたい	254	23.2%
(2)自宅の庭やベランダで野菜などを育ててみたい	455	41.5%
(3)農業に関連するイベントに参加してみたい	117	10.7%
(4)農業を将来の職業の選択肢として考えたい	56	5.1%
(5)あまり興味はない	442	40.3%
(6)その他	14	1.3%

[(6)その他]の具体的な内容：
食料を自給して暮らしたい/
副業で農業をしたい
/趣味としてやりたい 等

n=1,097



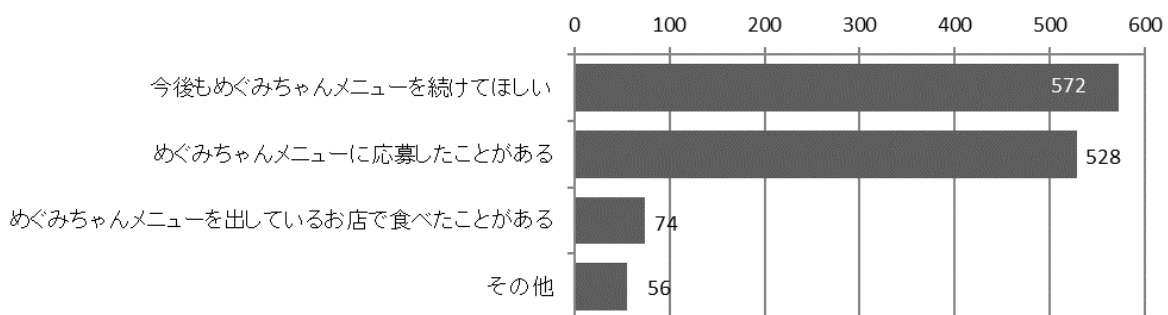
問9 めぐみちゃんメニューへの参加について、教えてください。(複数回答)

○めぐみちゃんメニューへの参加について、「今後もめぐみちゃんメニューを続けてほしい」が52.1%で最も多く、次いで、「めぐみちゃんメニューに応募したことがある」が48.1%、「めぐみちゃんメニューを出しているお店で食べたことがある」が6.7%であった。

項目	件数	割合
(1)めぐみちゃんメニューに応募したことがある	528	48.1%
(2)めぐみちゃんメニューを出しているお店で食べたことがある	74	6.7%
(3)今後もめぐみちゃんメニューを続けてほしい	572	52.1%
(4)その他	56	5.1%

n=1,097

[(4)その他] の具体的な内容：
給食のメニューとして食べた／わからない 等



めぐみちゃんメニューへの意見

- ・給食でたくさん出してほしい。
- ・給食で食べて美味しかった。
- ・高校生が考えたメニューも食べたい。
- ・めぐみちゃんメニューの審査基準を数値化して教えてほしい。
- ・もっとめぐみちゃんメニューの頻度を上げてほしい。
- ・出す店を増やしてほしい。

問10 西東京市の農業・農地に対して、将来の希望や考えがありましたら、ご自由にお答えください。

① 農地に関する意見

- ・もっと農地を増やしてもよいと思う。
- ・もっと農地が増えてほしい。
- ・西東京市の農地・農業が増えてほしい。
- ・畑など自然を増やした方がよいと思う。
- ・農地は残していったり、増やして自然を守ってほしい。
- ・農地を増やし、農業を活発にさせた方がよいと思う。
- ・東京でこんなに農地があるのは素晴らしいと思うので、これからもがんばってほしい。
- ・農地の減少を止めてほしい。
- ・農地面積が増えてほしい。
- ・だれも住んでいなさそうな所を壊して農地にすれば、だんだん西東京に農業が根づいていくと思う。
- ・買われてない家を壊して、畑を増やしてほしい。
- ・何もない土地があるので、緑で豊かにすればいいと思う(農地にする)。
- ・隣の東久留米市に比べると畑が少ないような気がする。もっと身近にみどりがあるといいと思う。

- ・田んぼや水路を増やしてほしい。
- ・もし農地がなくなった時は、その農地を野球のグラウンドにしてほしい。
- ・もっと身近に増えてほしい。
- ・農業ができる所を増やしてほしい。
- ・畑や林を増やしたい。
- ・みんなが自由に育てられる場所を作ってほしい。
- ・空き地などを積極的に、農地にする。
- ・あまりにも農地の面積が多くなりすぎている。ここまで増やす必要はない。
- ・もっと畑の面積を増やして野菜の収穫をもっとしてほしい。
- ・大人になったら自分の農地をつくりたい。
- ・もっと畑を増やしたら、まちが豊かになると思う。
- ・畑が学校の近くにあり、畑を踏んでいる人もいるので、柵等をつくってほしい。

② 担い手に関する意見

- ・西東京市かどうかはわからないが、農家になりたい。
- ・農家さんを増やすために、西東京市の野菜が売れやすいようにした方が良いと思う。
- ・農業は、老若男女の人たちが働いてほしい。
- ・ちょっと農業をやってみたい。
- ・日本の6割は輸入品のため、今の農家は辞めないでほしい。
- ・住民の中で畑をもっている人が、えらいというような感じがあり、よくない。
- ・農業の後継者はどうやって集めているのか？
- ・野菜についてもっと知り、農業を職業の選択肢として考えたい。
- ・畑で働く人で、若い人が増えてほしいと思った。
- ・将来のことも考えて、若い人が多く働くところが良い！
- ・若い人を増やすための工夫をしたらいいと思う（工夫：ポスターなど）。
- ・今より若い人に受け継いでもらってほしい。
- ・1つの本業をやりながら、農業など副業を2つほどやりたい！
- ・たくさん野菜が作れるように手伝いたい。

③ 市民等への農業の理解・情報の発信について

- ・野菜だけでなく、果物など多くのものを育てて、西東京市の魅力が伝わってほしい。
- ・もっと大々的にアピールしてほしい。
- ・SNSなどを使って西東京市をPRしてほしい。
- ・あまり農業に興味がないので、少し興味を持てるような取り組みをもっと実施し、それが市民に伝わるようにしてほしい。
- ・農業に対しての偏見や壁のようなものがあるので、なくせるようにしたい。
- ・あまりよく知らないなので、西東京市の農業について詳しく知る機会がほしい。
- ・市内での理解が浅いと思うので、市内か市外で西東京市の野菜についてもっと知ってもらいたい。市外に講習に行ったり、イベントを行うとよいと思う。
- ・情報を色々な所から発信できたら良いと思った。
- ・もっと小学校、中学校の授業で西東京の作物について、とりあげてほしい。
- ・どこでやってるか分からないので、ポスターなどをたくさん貼ってほしい。

- ・キャベツを使ったレシピを SNS に投稿などしたらいいと思った。そうすればもっと、キャベツを買う人が増えると思う。

④ 農業イベント等について

- ・もっと買える場所を増やしてほしい。
- ・育てたものを収穫し、調理して食べるイベント
- ・イベントを増やして、多くの年代の人たちに参加してほしい。
- ・家族が直売所でよく野菜を買っている。スーパーのものに比べ、新鮮でおいしい。
- ・直売所を増やしてほしい。
- ・農業は自然のめぐみなので、続けてほしい（イベントなども）。
- ・農業のイベントを増やしてほしい。
- ・農業のイベントに参加しやすくしてほしい（チラシなどを分かりやすく）。
- ・お祭り・お神輿を増やして、地域を盛り上げてほしい。
- ・農業などのイベントで、サラダ大食いイベントをやしてほしい。
- ・農業は西東京市の自慢の1つだと思うから、これからもたくさん野菜作りイベントをしてほしい。

⑤ 農業体験の場づくり、市民と生産者との交流について

- ・中学でも農業体験をしたらどうか。以前、学校で白菜農家に行き、苗の植え付けをしたことがある。
- ・中学生でも体験教室のように取り組んでほしい。
- ・小学生、中学生のうちに、農業体験などを学校行事で行えば、進路へも影響もあるし、農業と触れ合えると思う。
- ・いも掘りが楽しかった。
- ・幼稚園ではじゃがいも掘りなどの体験をしていたので、小学校でもそういった体験などをしてほしい。
- ・もっと農業について知ってもらったり、理解を深めてもらうため、農業体験で、家でも参加できるように農業シュミレーションゲームなどを作ってみるといいと思う。
- ・長い時間をかけて、1つ1つをていねいに育てていく作業を、人生であまり経験したことがないから体験してみたいと思った。
- ・小中学校で学ばせ、体験させる。
- ・小・中学生が学校で体験できるような機会があると嬉しい。
- ・学校で農業に関係するイベントに参加した方がいいと思う。
- ・農業体験をしていきたい。
- ・収穫イベントで、収穫の後に、わたあめ作りやポップコーン作りやお茶など、市民と親しくなれることがたくさんある。
- ・農園など増やしてほしい。
- ・農業についてもっと触れ合う機会をつくってほしい
- ・田無の町並みを失ったのだから、せめて畑を貴重な観光資源として、残してほしい。東京から一番近い農業体験など。
- ・企画に参加する勇気がないため、学校でみんなやるようにしてほしい。

⑥ 環境に配慮した農業、安全な農産物、地産地消について

- ・もっと畑を増やして、自然豊かな西東京市にしてほしい！虫を増やしてほしい！カエル、トカゲ、ヘビなどを増やしてほしいし、生きものすべてが暮らしやすい市にしてほしい！
- ・親戚のおばさんがガーデニングをしていて楽しそうだったので、いつかおばさんのようになりたい。野菜などは食べないと食品ロスになるので、チューリップやヒマワリを育てて、二酸化炭素を吸収させ、SDGsにも取り組みたい。ドラゴンフルーツは食べたことないので育てたい。
- ・スーパーで西東京市産の野菜などを見かけるようにしたら、地産地消に取り組みやすくなる。
- ・地産地消を進めてほしい。
- ・SDGsを先取った建設をしてほしい。
- ・できる限り、無農薬でつくる農業をしてほしい。

⑦ 営農、作物について

- ・もっといろいろ栽培してほしい。
- ・いつもおいしい野菜を作ってください、ありがとうございます。
- ・おいしい、新鮮な野菜をもっといっぱい作ってほしい。
- ・生で食べられる野菜が増えてほしい。
- ・西東京市にフルーツ畑を作ってほしい。
- ・もっとフルーツも育ててほしい。
- ・スイカなどを育ててほしい。
- ・野菜だけではなく、果物なども作ってほしい。
- ・果物の種類を増やしてほしい。
- ・これからも、おいしい野菜・果物を作り続けてほしい。
- ・これからも保谷梨やキャベツなど、おいしい農作物を作ってほしい。
- ・おいしいミニトマトや果物をいっぱい食べたい。
- ・たくさん栄養のある食べ物を届けてほしい。
- ・今後もまちの食べ物を食べていきたいと思う。
- ・梨をたくさん食べたい。
- ・西東京市の野菜は日本一！！！！
- ・市の農業生産力をもっと上げて、穫れたてのものを食べたい。
- ・キャベツや小松菜以外にも、色々な野菜の種類を増やす。
- ・もっと花を植えてほしい。
- ・アレルギーの原因になる木は、あまり植えないでほしい。
- ・西東京市のキャベツが全国に広まってほしい。
- ・たくさん野菜を収穫できるようにしたい。
- ・もっと西東京市で、いろいろな野菜を育ててほしい。
- ・もっと育てる野菜の種類を増やしてほしい。
- ・西東京市のキャベツをみんなに知ってほしい。
- ・キャベツの生産を頑張ってもらいたい。
- ・果樹園（リンゴ）を増やしてほしい。
- ・みかんを一年中食べられるような仕組にしてほしい。
- ・今育てていない野菜をたくさん増やしてほしい。
- ・いちごなど冬にすぐ売れるから、果物を育ててほしい。
- ・新しい食べ物を作ってほしい。
- ・とうもろこしの収穫時期、畑近辺が臭くて嫌。

- ・あまり都内などで手に入らない野菜、花などを積極的につくり、インターネットで販売する。
- ・西東京市の果物や野菜は新鮮で、おいしいから、これからも農業を続けてほしい。

⑧ 西東京市、国等の農業施策について

- ・自然を守ってほしい。
- ・これからも今の環境を保ったまま、農業をしていってほしい。
- ・農業よりもイオンと映画館を建ててほしい。
- ・これからも緑であふれる西東京市でいてほしい。
- ・森林や農地を増やして、緑の豊かな町にしてほしい。
- ・めぐみちゃんメニューを小・中学生だけではなく、いろんな人にやったら良いと思う。
- ・めぐみちゃんメニューは続けてほしい。
- ・めぐみちゃんメニューを増やしてほしい。
- ・めぐみちゃんメニューがもっと広まってほしい。
- ・西東京市の「良さ」を「農業」に重点をおくのは、さけた方が良いと思う。
- ・今の日本は畑などが減っていき、都市化が迫っている状況だが、畑で働いてくれている方々のおかげで生活が成り立っている。そのため、畑をなくすことはせず、農業を続けてほしい。
- ・市内に大きなドーム場をつくって、農業とスポーツができる施設をつくってほしい。
- ・西東京市は緑がたくさんあって、いいと思う。
- ・キャベツの生産第一位になってほしい。
- ・もっと緑を増やし、豊かにして、国産のものをいっぱい増やしたい。
- ・市をあげて農業を行うべきだと思った。
- ・自然を大切にしてください。
- ・農業や緑などを、これからも増やしていってほしい。
- ・西東京市は、農業のイメージが高いので、このまま農業を続けてほしい。
- ・西東京市の魅力などもっとアピールできることをした方が良いのではないかな。まずアピールしていかないと、あまり興味をもてないと思う。
- ・役所でヒマな人は畑を耕して売って財政を安定させてほしい。

⑨ その他

- ・給食に西東京市の野菜を使うのは続いてほしい。
- ・給食に入っている西東京市産の野菜はおいしい。
- ・西東京市で育てた野菜をもっと給食で食べたい！
- ・美味しい給食を食べたい。
- ・給食で新鮮な野菜を届けてもらっているのが、おいしく食べられて嬉しい。
- ・家で野菜を育てたい。
- ・ベランダなどで野菜をつくる時の方法を教えてほしい。
- ・社会で西東京市のキャベツが東京で一位と知り、少し西東京市の農業に興味が出てきた。
- ・他の県の友達に「西東京市ってこんなことがある（できる）」と自慢できる市にしたい。
- ・もっとちゃんとした農業に関する授業をしたらいいと思う。
- ・西東京市のキャベツで郷土料理を作りたい。

(4) 農業者ヒアリング調査

ア ヒアリング概要

目的	・ 農業者の営農の状況、今後の営農意向、課題等に関する調査
調査対象	・ 各農業者団体等
実施方法	・ 対面によるヒアリング
実施日時	・ 令和4年10月17日(月)、令和5年2月6日(月)、8日(水)、10日(金)
実施場所	・ J A東京みらい田無支店指導経済課2階会議室、農業者宅、東伏見ふれあいプラザ
ヒアリング項目	<p>【共通事項】</p> <p>問1：営農に係る課題と展望 問2：販売に係る課題と展望 問3：農地保全に係る課題と展望 問4：後継者確保に係る課題と展望 問5：市民の農業理解・消費促進についての課題と展望 問6：農家との交流の現状・課題 問7：地産地消促進の課題、施策要望等 問8：他分野の民間事業者等との連携への可能性・関心</p> <p>【田無農友会】</p> <p>問1：即売会の実施状況について 問2：加工業、飲食店等との連携の可能性について</p> <p>【田無緑化組合】</p> <p>問1：顧客の状況、近年の出荷・取引先の変化 問2：顧客ニーズと苗木の生産変化について</p> <p>【J A東京みらい西東京市営農クラブ】</p> <p>問1：市場出荷の現状、課題 問2：即売会の実施状況 問3：加工業、飲食店との連携の可能性について</p> <p>【西東京梨生産組合】</p> <p>問1 果樹の多品目化についての現状、展望 ・ 栽培する品目の現状と変化、変化の理由 ・ 販路の現状と変化、変化の理由 ・ 作業人員についての課題</p> <p>問2 加工業、飲食店との連携の可能性について ・ 加工業と連携した商品の開発についての考え ・ 飲食店と連携したメニュー開発についての考え ・ 連携する上での課題（農産物の品目、価格、収穫量等）</p> <p>【J A東京みらい西東京地区青壮年部】</p> <p>問1 農業後継者の連携に向けた取組現状、今後の展望 問2 新たな経営の展開についての考え 問3 親世代との役割分担等（2代で営農されている方）</p>

【J A東京みらい西東京地区女性部】

問1 女性部で取り組む独自事業についての現状、課題と今後の展望

- ・実施する事業内容
- ・抱える課題（資金、人材、情報の面について）
- ・今後の展開についての考え

問2 農産物加工品製造の可能性

- ・加工業と連携した商品の開発についての考え
- ・連携する上での課題（農産物の品目、価格、収穫量等）

問3 女性農業者の拡大に向けた課題・問題点

- ・現状の課題
- ・女性が農業を行う上で配慮が必要な事項
- ・女性農業者の確保にあたって、支援してほしい事項

【花卉生産者】

問1 顧客の状況、近年の出荷・取引先の変化

- ・現在の顧客
- ・近年の顧客の変化（市場取引から市場外流通への変化）
- ・出荷量の現状と変化

問2 顧客ニーズと花卉の生産変化について

- ・顧客ニーズの高い品目、品目ごとのニーズなど
- ・栽培品目の現状と変化

【認定農業者連絡会】

問1 認定農業者制度についての状況、近年の出荷・取引先の変化

- ・認定農業者制度を活用しようと考えたきっかけ、背景、理由について
- ・認定農業者になるにあたっての課題等について
- ・認定農業者になつての変化等（経営面、生産面、収入面、担い手等）

問2 今後の事業展開について

- ・認定農業者としての今後の事業展開について
- ・認定農業者制度の推進上の課題
- ・認定農業者制度の推進にあたっての要望等

【田無グリーン倶楽部・丸正出荷グループ】

問1 スーパー等出荷の現状・課題について

問2 加工業、飲食店等との連携の可能性について

【農業体験農園運営者】

問1 農業体験農園運営の状況

- ・農園の規模
- ・利用者数、利用者層
- ・周知PRの方法
- ・利用者との交流の仕掛け
- ・利用者の評価
- ・行政等の支援についての考え

	<p>問2 今後の事業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の拡大意向 ・利用者や市民への希望 <p>【J A東京みらい西東京地区保谷直売会・J A東京みらい西東京地区田無直売会・東伏見ふれあいプラザ】</p> <p>問1 直売所の現状・課題について</p> <p>問2 加工業、飲食店等との連携の可能性について</p> <p>【学校給食へ出荷を行う農業者】</p> <p>問1 取引について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農産物の流れ、集金の流れ ・学校との契約内容（農産物の品質基準、規格等） ・出荷実績 ・学校側の評価 <p>問2 今後の事業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の継続意向 ・新たな統一的な仕組み作りについての考え
--	--

ヒアリング対象者

No.	団体名等	ヒアリング対象者（敬称略）
1	J A東京みらい西東京市営農クラブ	会長
2	田無農友会	会長
3	J A東京みらい西東京地区青壮年部	田無ブロックブロック長 保谷ブロックブロック長
4	田無緑化組合	組合長
5	J A東京みらい西東京地区保谷直売会	会長
6	J A東京みらい西東京地区田無直売会	会長
7	西東京梨生産組合	組合長
8	花卉生産者	2名
9	農業体験農園運営者	2名
10	認定農業者連絡会	会長
11	学校給食へ出荷	2名
12	J A東京みらい西東京地区女性部	保谷地区 部長 田無地区 副部長
13	田無グリーン倶楽部	代表
14	丸正出荷グループ	代表
15	東伏見ふれあいプラザ	代表、会員4名

イ ヒアリング結果

以下、分野別にヒアリング実施結果を整理する。

①食と暮らしを支える多様な農業

団体名等	団体または自身の営農及び活動等の現状	西東京市の農業についての意見、今後の展望等	農業振興計画策定にあたって検討してほしい事項
JA 東京みらい西東京市営農クラブ	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者が近くにいるため、庭先販売で売れる。市場に出していないため、市場規格を知らない人が多い。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・みどりと農がある西東京市の魅力発信。
田無農友会	<ul style="list-style-type: none"> ・「めぐみ会」としての販売。 ・保谷と合併する予定であるが、どうなるか心配である。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消の推進。 ・流通・運搬の支援。
J A 東京みらい西東京地区青壮年部	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で庭先販売が好調。 ・少量のため、インターネット販売までは考えていないが、個人 SNS 等での販売はしている。 ・スーパーでの販売は地場産が好評である。地場産の方が顔がわかるため、安心して買ってもらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・B 級品（規格外品）の販路を見つけない。フードロス対策を目的にそのような作物を集めて販売や加工品をつくるなどできないか。商品開発、運搬流通、加工をしてくれる団体があればよい。 ・宅配するまでの技術がない（荷造りの方法等）。 ・学校給食への納入は、学校の求める数量や品質確保が厳しい。 ・JA と行政の接点を強くし、供給先を増やす算段をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・西東京市のブランド名がある作物づくり。
田無緑化組合	—	<ul style="list-style-type: none"> ・配達サービスができないか。 ・マンションの植木や公園などの植栽の管理について、管理基準がほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・流通の支援検討。
J A 東京みらい西東京地区保谷直売会	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で庭先販売が好調。 ・直売所のほか、毎週金曜日午前中に東伏見ふれあいプラザ（会場使用料無料）で販売をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売ができる場所が増えるとうい。 ・直売所をより市民が利用してくれるような事業展開をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直売所など販売機会の創出。 ・直売所の利用の促進。
J A 東京みらい西東京地区田無直売会	<ul style="list-style-type: none"> ・保谷と田無が合併し、お客さんが保谷に持っていかれないか懸念している。 ・新鮮さなど地産地消のメリットは消費者から認められていると感じるが、安さを求められている。 ・直売所は街中（駅近く）が 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜販売ができる市民のための施設（遊休地や役所スペースなど）がほしい。 ・食品ロスの観点からも、売れ残りを市で集め、販売や給食利用などできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売ができる市民のための場・施設の増設（役場スペースや遊休地などの活用）。 ・農産物の付加価値向上策についての検討。

団体名等	団体または自身の営農及び活動等の現状	西東京市の農業についての意見、今後の展望等	農業振興計画策定にあたって検討してほしい事項
	売りであったが、移転する場所が遠いため、心配である。		
花卉生産者	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村合併の際に、保谷花卉研究クラブを解散して以来、部会は3名以上でないと結成できないため、会がない。JA合併の際に、営農クラブの下部組織として、設けたい意向もある。 ・周辺地域や地方の規模の大きな農家と競争するには、西東京市内の市場規模では、生き残るのが難しい。 ・資材や燃料費の高騰で、単価を上げざるを得ないが、利益は変わらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保谷庁舎の跡地に直売所設置できないか。 ・約7割が市場流通・価格競争であり、レギュラーを獲得することが大変であるため、東京都、西東京市としてのブランドを確立してほしい。 ・光熱費・燃料費などの補助が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・西東京市ブランドの確立。 ・資材・燃料高騰への助成。
西東京梨生産組合	<ul style="list-style-type: none"> ・加工までまわせる量は生産できない。 	—	—
認定農業者連絡会	—	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者は国産への意識を高く持ってほしい（食料危機への危惧、自給率アップ）。 ・西東京市には農業が必要というPR、市民へ農業への理解を深める方策が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消の推進。 ・国産・西東京市産のブランド確立。 ・西東京市農業の魅力発信。
学校給食へ出荷	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、給食がストップし、廃棄した。保証がない。 	—	—
JA東京みらい西東京地区女性部	<ul style="list-style-type: none"> ・JA統合の際、女性部も田無地区と保谷地区を統合する。 ・無添加のジャムなど人気がある。ドライも需要があると思う。 ・めぐみちゃんメニュー事業がきっかけで、レストランとの取引ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・庭先で販売できないC級品は堆肥にしているが、利用できる方法がないか。個々では保健所許可が厳しいため、加工所、ドライにする乾燥機があると良い。（個々ではなく、農産物を集めて、共同で作業できる場所があると良い。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・6次産業への支援。
田無グリーン倶楽部	<ul style="list-style-type: none"> ・会員は15名（実活動者14名）で、毎日出荷しているのは10名程度。 ・西友、いなげや、トップ、レストラン、市場仲卸などへ出荷（買取り）しているが、注文に対して足らない状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・めぐみちゃんをスーパーでも受け入れてもらえるよう、市からPRしてほしい。めぐみちゃんは西東京市産として安心安全とわかるキャラクターであってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・西東京市産のブランド確立。

団体名等	団体または自身の営農及び活動等の現状	西東京市の農業についての意見、今後の展望等	農業振興計画策定にあたって検討してほしい事項
	であり、これ以上出荷店舗を増やすのは無理である。		
丸正出荷グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・売れ残りを引き取らなくていいため、買取りであることはよい。 ・値段交渉は可能だが、現在はスーパーの言い値。地元野菜として、市場野菜より若干高い値段設定。 ・加工品は業者に依頼するためコストがかかり、利益がほとんどない。無名のブランドを直売所で買う人は少ないのではないか。売れ残ると廃棄になるため、リスクが高い。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・西東京市産のブランド確立。
東伏見ふれあいプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週金曜日午前中に利用。個々の農家が準備販売まで担っており、売れ残りは引き取るため、開店中は全員が店舗にいる状況。 ・顔の見える店舗として、リピーターも多い。 ・東伏見駅の立体工事のため、東伏見ふれあいプラザがなくなる予定で、次の場所がどうなるか心配である（運搬のための駐車場も必要）。 ・現在のPRは市報。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直売所のPR発信できるものがあるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直売所の利用の促進。

②多様な担い手が生きがいややりがいを感じる農業経営

団体名等	団体または自身の営農及び活動等の現状	西東京市の農業についての意見、今後の展望等	農業振興計画策定にあたって検討してほしい事項
JA 東京みらい西東京市営農クラブ	・野菜等出荷している組合員は10軒程度。	—	・今後の農業方策・手法の助言支援。
JA 東京みらい西東京地区青壮年部	・青壮年部も田無と保谷で合併予定。 ・田無は40歳以上がほとんどで年齢層高い。保谷は30歳代がほとんどを占める。	—	・援農ボランティアの協力強化。 ・農業をしやすい環境の整備・農家への補助金の拡充（施設・機器の更新等）。
田無緑化組合	・住民も高齢者が増え、配達が必要になってくるのではないかと。	—	—
JA 東京みらい西東京地区保谷直売会	—	・市の助成金は使い方が限られるため、使いにくい。	—
JA 東京みらい西東京地区田無直売会	—	・作物の単価が安すぎるため、農業で生計が立てられない。 ・行政で実施していることがあまりみえない。 ・高齢の農業者が多いため、農業記録（生産履歴）の作成などパソコン指導が必要である。	・農業振興の方向性の明確化。 ・農業持続のための経営支援を実施。
花卉生産者	・花卉は初期の設備投資（ハウス等）がかかるため、補助金があっても、原資が必要である。 ・農地を借用しても、施設を建ててほしくない意向の貸し手が多いため、花卉の新規就農に至るのは困難である。 ・農業はワンオペで実施しているため、講習会や勉強会などへ行く余裕はない。	・専従農家に支援が必要である。 ・ファイナンシャルプランナーのような、予算取得のためのアドバイザー・専門的な指導員や相談窓口があれば良い。 ・IT分野に強い人との連携でより若い人へ関心をもってもらえるようPR、ブランディングできたらよい。	・専従農家への支援。 ・経営面の指導や相談窓口の設置。
西東京梨生産組合	・梨の需要はあるため、どう生産量を増やそうか考えている。 ・果樹は初期投資が大きく、収入が得られるまで3年ほどかかる。 ・果樹は消毒がかかせないため、無農薬は難しい。近隣へは気を使っている。 ・労働力に対する対価が少ない。	・付加価値をつけるための施設・設備の導入支援がほしい。	・西東京市産のブランド確立。 ・新規就農、新規農産物作付けへの支援。

団体名等	団体または自身の営農及び活動等の現状	西東京市の農業についての意見、今後の展望等	農業振興計画策定にあたって検討してほしい事項
認定農業者連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者は自分の農業経営を見直すきっかけになる。 	—	—
学校給食へ出荷	<ul style="list-style-type: none"> ・注文を想定して、作付けをしていくが、栄養士の考え等で注文が決まるため、注文がないと大きな損失になる。 ・注文のタイミングや発注の仕方も学校により異なり、個々で対応している。 ・発注単位も重さではなく、粒数のものもあり、出荷対応に苦労がある。 ・西東京市内の学校が西東京市産を使う割合は10%以下である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養士と農家でそれぞれ受発注方法等異なり、生産状況の情報共有も個々のため、システム化できればよい。ただ、誰かが間に入るより、直接やり取りをした方が対応しやすい。 ・学校給食側をまとめる窓口があったらよい。品質保証等の責任問題があるため、農家側がまとまることは難しい。 ・中間支援（納品、加工、運送など）の組織があったらいいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食受発注の簡略化、システム構築。 ・6次産業への支援。
J A 東京みらい西東京地区女性部	<ul style="list-style-type: none"> ・会員はほとんど65歳以上で、役員は70歳までのため役員後継者が不足している。 ・全国の女性農業者組織や東京都の女性協、北多摩女性協など役員になると、活動は多い。 ・農家のお嫁さんなど若い人にも参加してもらおうとミズの講習会（45歳までの女性のための企画）等も実施している。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・女性参画への支援。
田無グリーン倶楽部	<ul style="list-style-type: none"> ・需要に対応するための人数の確保が課題である。 ・インボイス制度により、廃業を考える生産者もいる。 ・援農ボランティアは作業場を離れられる時間があるため、ありがたい。 ・入会審査では、若い農業者を1年間見習い期間として、技術的な指導をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・端境期の2、3、8、9月の売り上げをいかに伸ばせるかが課題であるが、個々の農家でやる気が異なる。農業で生計を立てていけるようになったらよい。 ・助成の申請から審査までの期間が長い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業経営への助言、支援。
丸正出荷グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・草むしりも作業の多くを占めるが、援農ボランティアは農業に関する仕事とされているため、草むしりをしてもらえない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・助成の申請は理解が難しいため、申請しないという状況になっている。事務的な補助が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業経営への助言、支援。
東伏見ふれあいプラザ	—	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者同士が今後について話し合える場が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者の交流機会の創出。

③農地の保全と活用

団体名等	団体または自身の営農及び活動等の現状	西東京市の農業についての意見、今後の展望等	農業振興計画策定にあたって検討してほしい事項
JA 東京みらい西東京市営農クラブ	—	<ul style="list-style-type: none"> ・農地の減り方が大きくなってきたと感じる。大きな対策を打たない限り、減る一方である。 ・農地の納税猶予は、高齢になっても働かなくてはいけない制度である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農地保全策の検討。
田無農友会	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的な高温、異常気象に悩まされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産緑地の賃借は過去に貸したものが取られたという事例があったため、不安を抱いている農家が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産緑地の賃借について農家への情報提供支援。
JA 東京みらい西東京地区青壮年部	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地の有効活用。
田無緑化組合	<ul style="list-style-type: none"> ・納税猶予を受けても、何かあった際にすぐ解除できないのがネックである。 	—	—
JA 東京みらい西東京地区田無直売会	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的な高温、異常気象に悩まされており、今までと同じ耕作では難しくなってくるのではないかと不安である。 	—	—
花卉生産者	<ul style="list-style-type: none"> ・台風など自然災害での施設被害は全損であっても、全部補われない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハウスのビニール張替えだけでも補助があるといい。 ・植物工場のような施設を市が借り、運営は農家が行うような経営ができないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設備補修への支援。 ・空き施設の活用。
農業体験農園運営者	<ul style="list-style-type: none"> ・体験農園は経営の安定性が高い。 ・資材・肥料費、光熱費が高騰しているが、需要者のメリットがないため、生産農家よりも値上げしにくい。 ・人手があれば、農地を増やしていきたい意向はある。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験農園の推進。
西東京梨生産組合	<ul style="list-style-type: none"> ・梨農家7軒中、3軒が後継者がいない。 ・毎年、援農ボランティアは活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営アドバイスをしてもらえる人材がほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業経営への助言、支援。

団体名等	団体または自身の営農及び活動等の現状	西東京市の農業についての意見、今後の展望等	農業振興計画策定にあたって検討してほしい事項
認定農業者連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・援農ボランティアは、無償であることは逆に気を使うため、雇った方が気楽である。 ・生産緑地制度がなくては、農地を売らざるを得ない状況になるため、必要な制度である。 ・長年、有機農業で実施している。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・援農ボランティア活用への支援。 ・生産緑地の保全への対応。
学校給食へ出荷	<ul style="list-style-type: none"> ・畑は増やしていきたい。 ・土地が広くない都市農業で有機農業ができるのか。有機生産物の需要がどれだけあるのかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・荒地から畑にする土づくりには年数がかかるため、そのような農地貸借時の補助があればよい（機械導入等）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農、新規農産物作付けへの支援（貸借時）。
田無グリーン倶楽部	—	<ul style="list-style-type: none"> ・畑周辺の除草（自分の土地ではない部分）は市で行ってほしい。 	—
丸正出荷グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺に住宅が増えたため、日照時間が少なくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路に面している農地には空き缶など不法投棄があるため、対策をしてほしい。 	—

④農業を通じた交流

団体名等	団体または自身の営農及び活動等の現状	西東京市の農業についての意見、今後の展望等	農業振興計画策定にあたって検討してほしい事項
JA 東京みらい西東京市営農クラブ	—	・農地を維持していくにも、後継者には住民を巻き込んだ手法(いちご狩りなどの観光農園や農園付き不動産など)を考えたい。	・他分野の産業等との連携。 ・市民や農家同士の交流の機会。
田無農友会	・年末の野菜即売会実施程度で、農友会としてあまり活動をしていない。コロナ禍で視察研修ができていない。	・数の多い介護施設へ、野菜を納めるような連携ができないか。	・医療福祉事業者など他分野の産業等との連携の推進。
JA 東京みらい西東京地区青壮年部	・小学生を対象とした収穫体験「ちびっこ農園」の実施。 ・納涼祭でJA 職員との交流。 ・市民まつりへの参加による地域貢献活動(宝船、焼き芋等)。 ・作物を配るなどで近隣住民への配慮をしている。	・市民農園等が広まれば、農業への理解が高まる。耕作放棄地などをうまく活用してもらいたい。	・市内加工場の設置。 ・子どもたち(次の世代)・学校との連携。 ・地域コミュニティでの農業理解策の検討。
田無緑化組合	—	・農業散布などは風向き考えて散布しているが、住民への理解は得られにくいのではないかと動物愛護団体から反対されることもある。	—
JA 東京みらい西東京地区保谷直売会	・市の体験学習では、中学生を3日間受け入れて植え付けなど実施したが、1回きりである。体験農業は経営の主体にはしにくい。	・準組合員でも入会できる仕組みにしていきたい。	・即売会、直販イベントの充実。 ・公の施設を活用した即売会の開催。
JA 東京みらい西東京地区田無直売会	・子ども食育(農業体験等)は、個人でお願いされて実施している。	・形は悪くても、味は同じということを知ってほしい。消費者側の意識改革も必要である。	・西東京市農業の魅力発信。
花卉生産者	・品評会は質のアピールをする場として重要である。	・農地の近くに集客施設があると、農業PRになるのではないかと。	・西東京市農業の魅力発信。
農業体験農園運営者	・体験農園利用者はほぼ満員である(継続利用が多い)。 ・昔は高齢者が多かったが、今は若い方、子育て世代の利用もあり、年齢層が変化している。 ・コロナ禍で利用者同士の交流(懇親会)や料理クラブなど活動ができていない。	—	・農業体験農園の推進。

団体名等	団体または自身の営農及び活動等の現状	西東京市の農業についての意見、今後の展望等	農業振興計画策定にあたって検討してほしい事項
認定農業者連絡会	<ul style="list-style-type: none"> 餅つきなど子ども農園クラブを実施することで、周辺住民の理解を得られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 直売所が移転するため、近くの東大農場との連携ができるとうい。 	<ul style="list-style-type: none"> 産学工連携の推進。
学校給食へ出荷	<ul style="list-style-type: none"> 給食納品以外にも、子どもたちが農業について知ってもらう動画を作成して、給食時に放映をした。 学校からの依頼で、栄養士との対談動画や栄養士会で利用する動画を自ら作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> オンライン授業教材として、予算をつけられないか。 	—
J A 東京みらい西東京地区女性部	<ul style="list-style-type: none"> 女性部のサークルを目当てに入会する（準会員）人もいる。 個人的に Twitter 発信をしている。 (保谷地区) 市民祭り、仲間づくり講座、講習会など実施。 (田無地区) 納涼祭、敬老会、市民祭りなど実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 女性部として SNS 発信ができればよい。 アパレル業者等との連携で、子ども用のかわいい農作業服があれば、面白い（おそろい）。 	<ul style="list-style-type: none"> アパレル事業者など他分野の産業等との連携の推進。
田無グリーン倶楽部	<ul style="list-style-type: none"> ある程度出荷先が決まっているため、イベントに出す分まで集めることができない。 	—	—

(5) 若者ワークショップ

ア ワークショップ概要

令和4年度第1回若者ワークショップ「都市農業×未来」

開催日時	令和4年12月17日(土) 14:00~16:00
開催場所	体験農園圃場
出席者	(学 生) 高校生3名、大学生5名、大学院生1名 (事務局) 西東京市生活文化スポーツ部産業振興課 原島主幹、樋口係長、永井主査 ランドブレイン株式会社 宇井
議 題	1. 挨拶 2. 自己紹介 3. 西東京市の農業振興への取組について 4. 農業者の方からのお話 ①体験農園農園主から ②新規就農者から ③農の体験ができる機会の価値について質疑応答 5. 圃場見学 6. 質疑 7. 今後の予定について

令和4年度第2回若者ワークショップ「都市農業×未来」

開催日時	令和5年2月4日(土) 10:00~12:00
開催場所	西東京市役所 田無第二庁舎5階会議室
出席者	(学 生) 高校生3名、大学生4名 (事務局) 西東京市生活文化スポーツ部産業振興課 池澤市長、下田部長、原島主幹、樋口係長、永井主査 ランドブレイン株式会社 齋藤、宇井
議 題	1. 挨拶 2. 自己紹介 3. 前回の振り返り 4. テーマに沿って意見交換・アイデア出し ①風景・空間としての農地の価値 ②新鮮な農産物の価値 ③農の体験ができる機会の価値 5. グループごとに発表

イ ワークショップ結果

■令和4年度第1回若者ワークショップ「都市農業×未来」

①西東京市の農業について感じたこと

- ・野菜と果物しか知らなかったの、花や植木も西東京市の農業を支えていると知り、驚いた。
- ・地域ブランドや住民、行政が協力しており、将来も考えた取組ができていると感じた。
- ・行政側のハード面での支援の手薄さを感じた。
農家の持つ近隣への貢献、農業を続けたいという気持ちに応えられる施策があると良い。
- ・西東京市は、東京都の中でも農地がまだ多くある貴重な地域であると感じた。今後、東京・日本の農地保全に向けて前線で取り組んでいくのだろうと考えた。
- ・4つの軸で農業を展開していることが魅力を感じた。近隣の住民の方とのつながりが大きなメリットだと感じた。
- ・農地が減少しているという課題に対して、都市農地の利点を活かした様々な取組がなされていると感じた。
- ・幼稚園生や小学生の子どもたちに農業を教える機会があつてとても楽しそうだった。自分も小さい頃に農業体験をしたので、その記憶がよみがえってきた。先日、下保谷の屋敷林のイベントに参加したときにあった野菜がとてもおいしそうだった。
- ・農業のために様々な取り組みをしていると聞いて、初めて聞いたものばかりで、興味のある人しか知らない情報も多くあると感じたので、色々な人にどんなことをしているか知られるとよいと思った。
- ・農業に関する取り組みを手厚く行っていると感じた。
- ・体験者についてのエピソードを聞いて、興味のある人が多いと知った。

②農業者の話聞いて感じたこと

- ・体験農園というものを初めて知ったけれど、おもしろい仕組みだと思った。
- ・現在大きな問題があるようには感じなかったが、これから人手不足等による問題が深刻化する可能性があると感じた。
- ・農地の持つ多面的な機能を活かした農業を行っており、続けてほしいと思った。
- ・新規就農の魅力を発信することで、農に携わる人が増えると良いと思った。
- ・農地保全の手段の1つとして体験農園があると学んだ。野菜を作って販売するだけではなく、人々の交流の場を畑から作り上げることを農業者の使命の一つでもあると感じた。
- ・農業への思いが強く、熱量をととても感じた。
- ・お金欲しさに宅地化するケースは少ないことを聞き、非常に驚いた。お二方とも、都市農地の維持・活用に対して真っすぐに向き合い行動している姿が印象的だった。
- ・天候に敏感になったお話は面白かった。新規で始める時の経営は大変そうだった。お二人ともとても楽しそうに話されていたので、一番は農業を楽しむことが大切なのかなと思った。
- ・農業を通して様々な年齢層の人が交流する場となっていて、農業者の方の考え方が素晴らしいと思った。
- ・農業を行う環境は簡単ではないと思った。やりたい人、関わりたい人がもっとやりやすい仕組みがあればより活性化すると思った。

③西東京市のような都市農業の今後の課題について

- ・この会に参加していなかったら、都市農業のことについて知らなかったので、同じように知らない若者が多いことが課題だと思う。
- ・農地を借りている場合、貸借農地の返却を考えた時に、思うような開拓ができないこと。ハウスの設営などこのままでは進んでいかないように感じた。
- ・農地を守る＝農業振興ではないという点を踏まえ、生産「緑地」とあるように、農地だけでなく、緑地として多面的な機能を打ち出したい。
- ・後継者問題が農業ではやはり注目されているように感じた。新規就農される方の支援やアフターケアなどの環境作りが市としての取組みに組み込むことも重要なのかと感じた。
- ・代々引き継げるよう、若者に魅力を伝えること。
- ・都市農業の魅力は認知されているにも関わらず、農地の減少スピードが追い付かない事だと思った。また、周囲が住宅であることから生じる問題は対策が難しいものだと思った。
- ・体験農園に中高校生の方が来ないと聞いたので、中高校生の農業体験があったらおもしろそうだと思う。大学生も農業イベントがあったら、参加してみたい学生はいると思うので、そのような機会があったらいいなと思った。
- ・やっている取組みがもっとたくさんの人に知られるといいと思った。
- ・中高校生を中心に若者がもっと関心を持つような取組みがあると将来的に安定すると思う。

■令和4年度第2回若者ワークショップ「都市農業×未来」

①学生と農業との連携

- ・学生は夏休みや平日に授業のない時間などもあるため、その時間を活用したアルバイトができる。
- ・有償はお金でなくて、野菜など現物支給でもよい。
- ・就活に活かせる。アルバイトの経験ができる。などメリットがある。
- ・学校の美術部などに呼び掛けて、農産品などのラベルを作ったり、農家のロゴを作り、運搬する段ボールなどに描くなどできないか。
- ・今の就活は勉強以外のことにも取り組まないと、うまくいかないため、「学生の頃に力を入れたこと」として、SDGs や食品ロスを紐づけて、農業問題の解決方法を見出すようなプログラムがあればよい。

②農業に関する情報発信

- ・情報拡散のため、SNSを駆使するのがよい。例えば、くまモンのように、めぐみちゃんが畑をバックに小さい子が真似してくれるような踊りを踊っている動画でもよいのではないか。
- ・スーパーなど農作物を販売する場所に、特定のイラストを使って、目につくようにする。
- ・レストランなどで、産地をお知らせするペーパーをおくことで、地域の売りなどもわかってもらえる。また、QRコードをつけて、西東京市のHPなどにとぶようにする。
- ・駅前でマルシェを開けば、寄る方も多と思う。
- ・市内の直売所の場所を知らないため、どこにあるかSNSなどで発信があればよい。
- ・いこいなが農業している動画をYouTubeで発信する。
- ・PR方法として、種の配布があったら、興味を持つ人が増えるのではないか。

- ・「推し活」の需要があるので、推しメンバーのカラーと同じ野菜の色をPRするなどがあったら面白い。
- ・食と農のつながりを知れたらよい。
- ・収穫祭があったらいい（作物を使った競技をするなど）。
- ・TikTok や Instagram のリールなど 15 秒ほどの動画があったらいい。
- ・芸能人が出てくれたら嬉しい。
- ・ブランドとして有名でなくても、生産者のこだわりを知りたい。
- ・スーパーの野菜と穫れたて野菜の違いを知りたい。

③流通

- ・学生アルバイトの報酬についても、傷がついて売れないものなどをもらえたら、食品ロスにもつながってよい。
- ・一般企業に直売所のようなボックスを作り、自由に購入できるようなものがあればよい。
- ・めぐみちゃんのマークが入った商品があれば、覚えてもらえるのではないか。
- ・会社の食堂で利用してもらえないか。食品ロスなど企業の関心の高さを利用できたらいい。

④農業体験

- ・穫れたてのとうもろこしは食べたい人が多いと思う。
- ・小学校のバザーで穫れたて野菜が売っていたことや、保育園や小学校の時に体験したさつまいも掘りや作物を育てたことなどは記憶に残っているので、子どもの頃の体験は大切。
- ・自分たちで植えた稲を自分たちで収穫できると楽しい。
- ・農作物の加工体験は面白いのではないか（味噌づくり、醤油づくり等）
- ・高校でも農業の部活などあったら面白そう。
- ・体験は楽しみながら知ることができるのがよい。
- ・収穫体験もいいが、収穫から販売まで体験できるものがあるとよい。

⑤農業・農地の価値

- ・お花畑があるところには行ってみたい。
- ・空が広く感じる方がいい。景色がよく、落ち着く。
- ・四季を感じるができる。
- ・防災面の価値がある。
- ・有機農業の方がいい（虫の声があることや、環境にやさしいこと）。

3. アンケート票

(1) 農業者アンケート票

第3次西東京市農業振興計画策定のための 農業者意向調査へのご協力をお願い

農業者の皆様には、日ごろより、農業行政に格別のご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

西東京市では、「第2次農業振興計画」を平成25年度に策定し、現在、この計画に基づき、農のある豊かな生活環境の充実を目指したまちづくりを推進しております。

「第2次農業振興計画」が来年度で計画期間を終了することに伴い、現在、新たな計画策定作業を進めているところであります。そこで、計画策定にあたり、市内農業・農地の現状、また、農業者の皆様が農業・農地について、どのようなお考えをお持ちであるかを伺いたく、アンケート調査を実施することといたしました。このアンケート調査の結果は、今後の計画策定の参考として十分に活用させていただき、「今後10年間の西東京市の農業」を考える指標にしていくものです。

今回の調査は、市内の全農業者様を対象にお願いするものです。無記名で、お答えはすべて統計的に処理いたしますので、ご協力いただく皆様に対し、ご迷惑をおかけすることはありません。また、調査の回答内容につきましては、「農業振興計画」策定以外の目的に利用することは一切ございません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、このアンケート調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

令和4年12月

西東京市生活文化スポーツ部産業振興課

記入上のお願い

- ・このアンケートは、主に農業に従事されている方がご回答願います。
- ・設問に従い、あてはまる回答の番号に○をつけてください。
- ・お答えのうち、()の中には、その内容を具体的にご記入ください。
- ・ご記入を終えましたら、生活文化スポーツ部産業振興課へ提出をお願いいたします。

令和5年1月16日(月)までに、ご提出ください。

- ・このアンケートについてのお問い合わせは、下記の担当までお願いします。

【問い合わせ先】

西東京市生活文化スポーツ部産業振興課
〒188-8666 西東京市南町五丁目6番13号
電話:042-420-2820(直通)
担当:樋口・永井

《調査委託先》ランドブレイン株式会社
千代田区平河町1-2-10
メール:nishitokyo-nogyo@landbrains.co.jp
担当:齋藤・宇井

1 主に農業に従事されている方とご家族のことについてお伺いします。

問1 あなた（主に農業に従事されている方）の年齢を教えてください。（1つに○）

- (1) 20歳代 (2) 30歳代 (3) 40歳代 (4) 50歳代
 (5) 60歳代 (6) 70歳代 (7) 80歳以上

問2 あなたの性別を教えてください。（1つに○）

- (1) 男性 (2) 女性 (3) 答えたくない

問3 あなたの家族（同居されている方）の構成について教えてください。（1つに○）

- (1) ひとり暮らし（単身世帯） (2) 夫婦のみの世帯
 (3) 親と子ども（2世代家族） (4) 祖父母と親と子ども（3世代家族）
 (5) その他の家族構成

問4 あなたのお住いを教えてください。（1つに○）

- (1) 田無町 (2) 南町 (3) 西原町 (4) 緑町 (5) 谷戸町
 (6) 北原町 (7) 向台町 (8) 芝久保町 (9) 新町 (10) 柳沢
 (11) 東伏見 (12) 保谷町 (13) 富士町 (14) 中町 (15) 東町
 (16) 泉町 (17) 住吉町 (18) ひばりが丘 (19) ひばりが丘北 (20) 栄町
 (21) 北町 (22) 下保谷

問5 あなた（主に農業に従事されている方）の農業後継者の状況について教えてください。（1つに○）

- (1) 後継者がすでに農業に従事している (2) 後継してもらえる見込みがある
 (3) 農業を継がせるつもりはない (4) 後継者はいない
 (5) わからない (6) その他（具体的に）

問6 あなたと家族（同居されている方）のおおむねの年間の従事日数を記入してください。

続柄 ※本人との関係を記入してください (例：妻、母、息子など)	農業従事日数 (1～3を記入)
① 本人	
② ()	
③ ()	
④ ()	
⑤ ()	
⑥ ()	
⑦ 6人以上いる場合は、他()人	

左記の年間の従事日数
 については、
 下記の1～3の番号を
 記入してください。

- 1：年間60日未満
 2：年間60～149日
 3：年間150日以上

2 農業経営の現状についてお伺いします。

問7 あなたの営農種類について教えてください。(あてはまるものすべてに○、主なものに◎)

- | | | |
|--------------|----------|-------------------------|
| (1) 露地野菜 | (2) 施設野菜 | (3) 果樹 |
| (4) 花卉 | (5) 植木 | (6) 体験農園等経営(農業体験農園、農園等) |
| (7) その他(具体的に | |) |

問8 あなたの家の年間(直近の)の農業所得と農業所得以外の所得を、教えてください。
(※所得は、収入から必要経費(家族労働費を除く)を除いたもの。)

【農業所得について】(1つに○)

- | | | |
|---------------------|-----------------|-------------------|
| (1) なし(自家用のみ) | (2) 50万円未満 | (3) 50~100万円未満 |
| (4) 100~300万円未満 | (5) 300~500万円未満 | (6) 500~1,000万円未満 |
| (7) 1,000~2,000万円未満 | (8) 2,000万円以上 | |

【農業所得以外の所得】(1つに○)

- | | | |
|---------------------|-----------------|-------------------|
| (1) なし | (2) 50万円未満 | (3) 50~100万円未満 |
| (4) 100~300万円未満 | (5) 300~500万円未満 | (6) 500~1,000万円未満 |
| (7) 1,000~2,000万円未満 | (8) 2,000万円以上 | |

問9 あなたの家の年間の農業所得(収入から必要経費(家族労働費を除く)を除いたもの)について、過去5年間での変化を教えてください。(1つに○)

- | | | | |
|----------|----------|-----------|---------|
| (1) 増加した | (2) 減少した | (3) 変わらない | (4) その他 |
|----------|----------|-----------|---------|

問10 農業・農地には市民にとって食の安全安心の確保や防災など、暮らしを守る機能が期待されています。あなたが農業を営む上で、これからの農業や農地が持つ役割についてどのようなことが重要か、お考えをお聞かせください。(3つまで○)

- | | |
|---|---|
| (1) 新鮮で安全な農産物の供給 | |
| (2) まちなかに農地がある景観・風景の形成 | |
| (3) 環境に配慮した農業(有機農業、減農薬・減化学肥料栽培、エコファーマー等)の推進 | |
| (4) 良好な環境(農地周辺の気温低下など)の形成 | |
| (5) 昆虫などの生物が生息する生態系の維持・保全 | |
| (6) 災害発生時の避難先としてのオープンスペースの確保 | |
| (7) 市民農園・農業体験農園により農業に触れる機会の創出 | |
| (8) 子ども達が学校教育や情操教育の中で、農業に触れる機会の創出 | |
| (9) 地域の特産物開発(ブランド商品の開発) | |
| (10) 農産物を活用した料理やイベント等の文化の伝承 | |
| (11) まちの「ブランド力」の向上 | |
| (12) その他(具体的に |) |

問 11 農業収入を安定させるために、今後取り組んでいきたいことを教えてください。

(あてはまるものすべてに○)

- (1) 出荷先の多様化(市場だけでなく直売所への出荷や直販、契約栽培の実施)
- (2) 農産物の高付加価値化・ブランド化
- (3) 新しい品目の生産導入
- (4) 露地から施設栽培への転換
- (5) 新たな資材・作業機械(AIによる生産管理、環境制御等)の導入による生産力向上
- (6) 生産技術の向上に向けた技術習得
- (7) 肥料や農薬の適正量の使用によるコスト管理・安全管理
- (8) 東京都エコ農産物認証等により安心安全な農産物の生産
- (9) GAP^(注) 認証の取得
- (10) 生産する農産物を活用した加工品開発
- (11) 農家レストランの開業
- (12) 周辺農家から農地を借りて生産規模を拡大
- (13) 法人化や生産者組織化による生産力・販売力強化
- (14) 市民農園、観光農園、農業体験農園の経営
- (15) 特に何も検討していない
- (16) その他(具体的に)

(注)GAP(農業生産工程管理): 食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための取組

問 12 新たな農業の展開に向けて、民間事業者等との連携や実証で関心のあるものについて教えてください(3つまで○)

- (1) 観光事業者連携による農業体験・ツアー・農泊などの実施
- (2) 医療・福祉関連事業との連携による農福連携、健康増進施策展開
- (3) アパレル事業との連携による農業ブランディング・商品開発
- (4) 交通事業者連携での流通の仕組み導入
- (5) 不動産・施設運営事業者等連携による農の空間創出
- (6) 学校・教育関連事業者連携による子どもたちの教育への参画
- (7) ゼロカーボン^(注)・カーボンオフセット^(注)など地球に優しい農業による付加価値の向上
- (8) 食品残渣や廃棄される農産物を活用した堆肥づくりなど環境・エシカル事業による社会課題の解決
- (9) 特に関心はない
- (10) その他(具体的に)

(注) ゼロカーボン: 気候変動という地球規模の課題の解決に向けて、二酸化炭素等の温室効果ガスの排出をゼロにすること

(注) カーボンオフセット: 日常生活や経済活動において避けることができない温室効果ガスの排出をまずできるだけ排出量が減るよう削減努力を行い、どうしても排出される温室効果ガスは排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせるという考え方

3 過去5年間の農業施策についてお伺いします。

問 13 西東京市の農業振興に向けて、以下のような施策を実施してきました。これらの事業について、実施内容・状況に満足できるか、重要だと思ふかについて、以下お答えください。

記入例 施策	評価	施策毎の満足度					施策毎の重要度				
		満足している	多少満足している	多少不満である	不満である	わからない	重要である	やや重要である	あまり重要でない	重要でない	わからない
例) 事業1 直売所の利用の促進		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

満足度と重要度 それぞれ1つずつ〇印をつけてください。

【食と暮らしを支える多様な農業】

事業内容・実績	施策毎の満足度					施策毎の重要度				
事業1 直売所の利用の促進 ・市ホームページ、ガイド冊子「おでかけ図鑑」にて直売所を紹介	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
事業2 めぐみちゃんメニューの推進 ・小中学生が考えたメニューの販売 ・市民交流イベントの実施	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
・農産物等販売会（マルシェ）の開催	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
・情報発信（ホームページ・Twitter・YouTube）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
事業3 学校給食との連携・農産物等販売会（マルシェ）の実施 ・学校栄養士と農業者の連絡会を開催、共通メニューを市内小中学校・保育園で提供、小中学生が考えたメニューを提供	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
事業4 めぐみちゃんブランドの普及啓発 ・めぐみちゃんののぼり旗、着ぐるみ、ベスト等を作成	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
事業5 地域や商店街との連携 ・即売会の実施 ・ファームカーを活用した農産物の直売・農業者のPR	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

【多様な担い手が生きがいややりがいを感じる農業経営】

事業内容・実績	施策毎の満足度					施策毎の重要度				
事業6 地元と連携した後継者育成、若い担い手（新規就農者含む）の育成の検討 ・「農業後継者顕彰」事業実施 ・東京都 F&U セミナー活用、指導農業者制度と連携	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
事業7 女性農業者の育成の検討 ・農業委員会に女性農業者が参加	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
事業8 農業者と援農ボランティアのマッチング機会の提供・援農ボランティアのスキルアップ ・「東京の青空塾」修了者と農業者のマッチング ・「広域援農ボランティア」の周知・広報	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

事業内容・実績	施策毎の満足度					施策毎の重要度				
事業9 認定農業者への支援の拡充の検討	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
・「認定農業者経営改善支援補助金」を実施、経営改善計画作成への支援										
・現行の補助金の内容検討 ・直売所への支援策を検討										
事業10 営農支援事業の適正運営	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
・JA 東京みらいにおいて、「営農支援事業」実施										

【農地の保全と活用】

事業内容・実績	施策毎の満足度					施策毎の重要度				
事業11 生産緑地地区制度への意見の具申	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
・再指定や下限面積要件の見直しについて市に提言 ・都市計画課との連携（特定生産緑地）										
事業12 農地の適正な肥培管理	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
・農業委員会と市が協力し、農地パトロールを実施 ・実情に応じた指導を協議、検討										
事業13 市内農業関係施設の活用推進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
・景観散策会や、寄せ植え体験を実施 ・農業学習や防災訓練を実施										
事業14 災害協力農地の拡大	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
・JA と市が協定を締結中 ・農業者への情報提供などの支援を実施										
事業15 農業普及啓発プロジェクトの活用	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
・直売の支援にファームカーを活用										
事業16 農地の貸借における仲介の仕組みづくりの支援	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
JA 等と連携し、貸し手と借り手の仲介や相談を実施										

【農業を通じた交流】

事業内容・実績	施策毎の満足度					施策毎の重要度				
事業17 めぐみちゃんマーケットの開催	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
・農業者主体の農産物等販売会（マルシェ）開催に向けた検討、協力										
事業18 イベント等の実施	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
・「親子で野菜づくりにチャレンジ」イベントを実施										
・緑のアカデミー事業として植木生産の広報・交流実施 ・イベントでの農の情報発信の充実										
事業19 市民農園の新しい展開	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
・使用料の見直し										
・肥培管理マニュアルの作成 ・マナー遵守の活動の実施、情報誌 Apron「エプロン」の配布										
事業20 農業体験農園の推進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
・ホームページ等を活用した情報発信										
・市報や市民まつりでの広報の実施、支援 ・開設時に支援（補助金）の実施										

4 農業者への支援策についてお伺いします。

問 14 市内産農産物キャラクター（めぐみちゃん）の活用について教えてください。
（あてはまるものすべてに○）

- (1) 市内産農産物キャラクター（めぐみちゃん）を知らない
- (2) 市内産農産物キャラクター（めぐみちゃん）は知っているが、自らの販売等において、特に活用する意向はない
- (3) 市内産農産物キャラクター（めぐみちゃん）を活用した資材（ダンボール箱・防曇袋等）を購入（市の補助事業を利用）している
- (4) 直売所（庭先販売所）に、市内産農産物キャラクター（めぐみちゃん）の「のぼり旗」を設置している
- (5) その他（活用に関してのご意見等）



西東京市農産物
キャラクター
「めぐみちゃん」

問 15 農業者への支援の対象についてあなたのお考えをお聞かせください。
（特にお考えに近いもの1つに○）

- (1) 経営規模（作付面積、販売金額）の大きな農業者には特に支援を充実すべき
- (2) 経営規模（作付面積、販売金額）の小さな農業者が農業を持続できるような支援を行うべき
- (3) 経営規模（作付面積、販売金額）の大小にかかわらず、意欲のある農業者（認定農業者等）への支援を行うべき
- (4) その他（支援対象の具体的な考えなど。例：資材高騰に係る支援金の継続を希望）

問 16 今後、農業者に係る支援について、どのような内容が重要か、お考えをお聞かせください。
（特に重要と考えるもの2つまでに○）

- (1) 資金的支援（助成金、融資等）
【その内容： _____】
- (2) 情動的支援（農産物 PR、農業イベント等情報発信、生産技術情報提供等）
【その内容： _____】
- (3) 人的支援（技術支援、経営支援、農作業支援など）
【その内容： _____】
- (4) その他
【具体的に： _____】

5 農産物の販売(庭先販売所、マルシェ出店等)についてお伺いします。

問 17 今後の直売所(庭先販売所等)やマルシェ(朝市・青空市など)への出店等についてのお考えをお聞かせください。(あてはまるものすべてに○)

- (1) 自身の経営する直売所での販売を継続・拡大したい
- (2) 近隣の農業者と共同で直売所経営を考えたい
- (3) JAの農産物直売所を利用したい
- (4) 市内など近隣で開催されているマルシェ(朝市・夕市、青空市など)には出店したい
- (5) 都心部で開催されているマルシェ(朝市・夕市、青空市など)にも出店したい
- (6) 直売所の経営やマルシェに出店をしているが、課題や問題点がある
 (具体的に:)
- (7) その他
 (具体的に:)

6 学校給食についてお伺いします。

問 18 学校給食での地元農産物利用についてのお考えを教えてください。(1つに○)

- (1) 現状のとおり、各農家と学校との個別契約で進めるのが良い
- (2) JA等がとりまとめ、組織化等の仕組みづくりに取り組むのが良い
- (3) その他(必要とお考えの事項等)
 ()

7 量販店や小売店への販売、契約販売等についてお伺いします。

問 19 量販店や小売店への販売、契約販売等について状況を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- (1) 現在スーパーマーケット等小売店舗との取引がある
- (2) 現在、飲食店との取引がある
- (3) その他店舗等への直接出荷、販売(場所借り)をしている
- (4) 消費者への宅配を実施している
- (5) 店舗等との取引、宅配は実施していない
- (6) 通信販売を民間事業者のサイトで実施している
- (7) 通信販売を自身のサイトで実施している
- (8) その他(具体的に:)

8 農業の担い手についてお伺いします。

問 20 認定農業者制度についてお伺いします。(1つに○)

- (1) 認定農業者の制度内容を理解し、既に認定を受けている
(2) 制度内容は理解し、認定を受けたいが「認定基準」を満たすことが難しい
(3) 過去に認定を受けていたが、再認定を受けなかった
【その理由： _____】
(4) 認定を受けたいと思わない
【その理由： _____】

問 21 農作業の人員確保について教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- (1) アルバイトを雇用している (2) 家族を動員している
(3) 援農ボランティアを受け入れている (4) 人員確保の必要はない
(5) 人員の確保が必要だができていない (6) 特に何もしていない
(7) その他(具体的に： _____)

問 22 援農ボランティアとして、農作業の手伝いをしてくれる方を受け入れることについて、どのような人材であれば受け入れたいですか?お考えをお聞かせください。
(あてはまるものすべてに○)

- (1) 中長期的(数ヶ月程度)の手伝いが可能である方なら受け入れたい
(2) 繁忙期(1週間程度)など、必要な際だけでも手伝いが可能である方なら受け入れたい
(3) 農業への意向や一定以上の技術を確認できる方なら受け入れたい
(4) 受け入れは希望しない
(5) その他(具体的に： _____)

9 農地の状況についてお伺いします。

問 23 あなたが所有(市内・市外)及び貸借して営農する農地の合計面積を教えてください。
(1つに○)

- (1) 5a 未満 (2) 5a~30a 未満 (3) 30a~50a 未満
(4) 50a~100a 未満 (5) 100a~150a 未満 (6) 150a~200a 未満
(7) 200a~300a 未満 (8) 300a~500a 未満 (9) 500a 以上

問 24 あなたの農地保全・活用の課題について教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- (1) 相続時の税負担が課題
- (2) 固定資産税などの税負担が課題
- (3) 営農環境の悪化(周辺宅地住民との関係など)
- (4) 農業資材・肥料等の価格高騰
- (5) 規模拡大が難しく、農業収入の拡大が見込めない
- (6) 後継者の確保が課題
- (7) 農作業の人員不足により、農地の積極的な活用ができないことが課題
- (8) 施設整備への投資が難しい
- (9) 農地・施設維持のための経費が課題
- (10) その他(具体的に: _____)

問 25 都市農地に関する制度の改正により、

相続税納税猶予制度適用農地でも貸借が可能になり、貸借中に生産緑地の相続が発生した場合も相続税納税猶予制度の適用を受けることができることとなります。

これを受けて、生産緑地の貸借について、あなたのお考えをお聞かせください。

(あてはまるものすべてに○)

- (1) 自身が所有する生産緑地を貸したい・貸しても良い

貸したい、貸しても良いとお考えの場合には、どのような活用を望みますか。

(あてはまるものすべてに○)

- ① 地域の担い手に貸して営農を続けてもらいたい
- ② 新規就農者に貸して、営農を続けてもらいたい
- ③ JA や行政に貸して市民農園を開設してほしい
- ④ 企業や NPO 等の法人に貸して市民農園を開設してほしい
- ⑤ その他(具体的に: _____)

- (2) 生産緑地を借りたい・借りても良い
- (3) 生産緑地を貸す予定はない、借りる予定はない
- (4) その他(_____)

10 農業を通じた市民との交流についてお伺いします。

問 26 今後、農業を通じた市民等との交流にあたっては、どのような取り組みが効果的か、お考えをお聞かせください。(あてはまるものすべてに○)

- (1) 体験型のイベントの実施
- (2) 農業に関する講座等の実施
- (3) 即売会等の販売イベントの実施
- (4) 市民農園の開設及び運営
- (5) 農業体験農園の開設及び運営
- (6) 観光農園の開設及び運営
- (7) 朝市や直売の実施による市民との交流
- (8) その他(具体的に: _____)

11 環境に配慮した農業についてお伺いします。

問 27 有機農業など環境に配慮した農業について、お考えをお聞かせください。(1つに○)

(1) 現在取り組んでおり、今後も継続したい。

取り組んでいるとお答えの場合には、どのようなことに取り組んでいますか。
(あてはまるものすべてに○)

- ① 化学肥料を使わないなど環境に配慮した肥料を使用している。
- ② 農薬の使用量を減らしている。
- ③ 環境に配慮した機材や資材を利用している。
- ④ 東京都工コ農産物認証制度の認証を受けている
- ⑤ その他 (具体的に:)

(2) 現在取り組んでいるが、今後は通常の栽培に戻す予定である

(3) 現在取り組んでいないが、今後取り組みたい

(4) 現在取り組んでおらず、今後取り組む予定はない

(5) その他 (具体的に:)

問 28 有機農業など環境に配慮した農業に取り組むことの課題について、お考えをお聞かせください。(あてはまるものすべてに○)

(1) 通常と比べ、収益が見込めない

(2) 通常と比べ、労力がかかる

(3) 技術が必要のため、指導が必要

(4) 販売販路がない

(5) その他 (具体的に:)

12 最後に

問 29 営農、農業経営に関する課題や農地保全に関する課題、第2次農業振興計画策定からの10年間の農業施策の評価、今後の第3次農業施策に対する期待など、ご意見がありましたらご自由にご記入ください。

以上です。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

(2) 市民アンケート票

「産業振興マスタープラン」及び「第3次西東京市農業振興計画」策定のための市民意向調査へのご協力をお願い

皆様には日ごろより、市政に格別のご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

西東京市では、「産業振興マスタープラン」及び「第2次農業振興計画」を策定し、この計画に基づき、産業振興の各施策を推進しております。

このたび、「産業振興マスタープラン(後期計画)」及び「第2次農業振興計画」の計画期間が令和5(2023)年度に終了することに伴い、現在、新たな計画策定作業を進めているところであります。そこで、計画策定にあたり、市民の皆様が市の産業振興及び農業・農地について、どのようにお考えであるかを伺いたく、アンケート調査を実施することといたしました。

今回の調査にあたりましては、市内にお住まいの18歳以上の方々から3,000人を住民基本台帳による無作為抽出によって選ばせていただき、そのおひとりとして、ご協力をお願いすることといたしました。このアンケートは無記名で、お答えは全て統計的に処理いたしますので、ご協力いただき皆様に対し、ご迷惑をおかけすることはありません。また、調査の回答内容につきましては、「産業マスタープラン」及び「農業振興計画」策定以外の目的に利用することは一切ございません。


お忙しいところ誠に恐縮ですが、このアンケート調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろしくお願ひいたします。

令和4年12月

西東京市生活文化スポーツ部産業振興課

令和4年12月23日(金)までに、

下記の①または②のどちらかの方法で、ご回答をお寄せください。

①郵送 でご回答の場合	この調査票に直接ご回答をご記入いただき、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにご投函ください。
②インターネット でご回答の場合	下記のQRコードまたはURLアドレスから、ご回答サイトへお進みください。 <URL> https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScGk5RFuAyoIWInF3xhI_kdzILBh8b0mhrGZbE0e6d_ZKly5Q/viewform?usp=sf_link 

記入上のお願ひ

・必ず宛名のご本人がお答えください。

なお、ご本人が記入できない場合は、ご家族などがご本人のお考えを聞きながらご記入ください。

・設問に従い、あてはまる回答の番号に○をつけてください。

・お答えのうち、()の中には、その内容を具体的にご記入ください。

・このアンケートについてのお問い合わせは、下記の担当までお願ひします。

【問い合わせ先】

西東京市生活文化スポーツ部産業振興課
〒188-8666 西東京市南町五丁目6番13号
電話:042-420-2819(商工係直通)
042-420-2820(農業係直通)
担当:樋口・永井・遠藤

《調査委託先》ランドブレイン株式会社
千代田区平河町1-2-10
メール:nishitokyo-nogyo@landbrains.co.jp
担当:齋藤・宇井

1 あなたとご家族のことについてお伺いします。

問1 あなたの年齢は、おいくつですか？（1つに○）

- | | | | |
|----------|----------|----------|-----------|
| (1) 10歳代 | (2) 20歳代 | (3) 30歳代 | (4) 40歳代 |
| (5) 50歳代 | (6) 60歳代 | (7) 70歳代 | (8) 80歳以上 |

問2 あなたの性別をお答えください。（1つに○）

- | | | |
|--------|--------|------------|
| (1) 男性 | (2) 女性 | (3) 答えたくない |
|--------|--------|------------|

問3 あなたの職業は何ですか？（1つに○）

- | | |
|-----------------|-------------------|
| (1) 自営業者・事業主・農業 | (2) 勤め人（会社や公的機関等） |
| (3) パート・アルバイト等 | (4) 専業主婦・主夫 |
| (5) 学生 | (6) 無職 |
| (7) その他（ | ） |

問4 あなたを含めて同居している家族構成はどれですか？（1つに○）

- | | |
|------------------|---------------------|
| (1) ひとり暮らし（単身世帯） | (2) 夫婦のみの世帯 |
| (3) 親と子どもの2世代家族 | (4) 祖父母と親と子どもの3世代家族 |
| (5) その他の家族構成 | |

問5 あなたのお住まいの形態はどれですか？（1つに○）

- | | |
|---------------------|------------------|
| (1) 一戸建ての持家 | (2) 一戸建ての借家 |
| (3) 分譲マンション | (4) 賃貸マンション・アパート |
| (5) 公営住宅（市営・都営・公社等） | (6) 社宅・寮・公務員住宅 |
| (7) その他（ | ） |

問6 あなたのお住まいはどちらですか？（1つに○）

- | | | | | |
|----------|----------|------------|-------------|---------|
| (1) 田無町 | (2) 南町 | (3) 西原町 | (4) 緑町 | (5) 谷戸町 |
| (6) 北原町 | (7) 向台町 | (8) 芝久保町 | (9) 新町 | (10) 柳沢 |
| (11) 東伏見 | (12) 保谷町 | (13) 富士町 | (14) 中町 | (15) 東町 |
| (16) 泉町 | (17) 住吉町 | (18) ひばりが丘 | (19) ひばりが丘北 | (20) 柴町 |
| (21) 北町 | (22) 下保谷 | | | |

問7 西東京市にお住まいになってどれくらいですか？（1つに○）

- | | | |
|------------|------------|-----------|
| (1) 3年未満 | (2) 3～5年 | (3) 6～9年 |
| (4) 10～19年 | (5) 20～29年 | (6) 30年以上 |

ここから 農業振興 についてお伺いします

7 農産物の消費についてお伺いします。

問 28 日頃、農産物を主にどこで（どのように）買いますか？（特に多い購入先を3つまで○）

- (1) 市内の青果店や個人商店
- (2) 市内のスーパーマーケットなど実店舗
- (3) 市内の農産物直売所（JA 含む）、庭先販売所
- (4) 市外の青果店や個人商店、スーパーマーケットなど実店舗、庭先販売所等
- (5) スーパーマーケットなどの農産物宅配サービスの利用（ネット、電話、注文票で注文するもの）
- (6) 特定の生産者への注文（ネット、電話等含む）
- (7) その他（具体的に _____ ）

問 29 農産物を買う際に重視している点は何ですか？（特に重要視するもの3つまで○）

- (1) 国内産であること
- (2) 西東京市内産であること
- (3) 特定の地域産であること（有名な生産地など）
- (4) 品質が良いこと（新鮮であること）
- (5) 価格が安いこと
- (6) 有機農産物^(注) など化学合成農薬と化学肥料を削減してつくられる農産物であること
- (7) 生産履歴（肥料・農薬等の使用記録）が明確であること
- (8) 生産者の顔がみえること（生産者名表示など生産者がわかること）
- (9) 特に気にすることはない
- (10) その他（具体的に _____ ）

(注)「有機農産物」：農畜産物についての「有機」の表示は、JAS 規格による基準を満たすものにのみ、付すことが認められています。

問 30 市内産の農産物を購入される理由は何ですか？（1つに○）

(1) 市内産の農産物を購入している

購入しているとお答えの場合、購入される理由は何ですか？（あてはまるものすべてに○）

- ① 生産者が分かって安心だから
- ② 地域の農業を守りたいから
- ③ 品質・味が良いから
- ④ 新鮮だから
- ⑤ 安いから
- ⑥ その他（具体的に： _____ ）

(2) 市内産農産物を購入していない ⇒問 33 にお進みください。

問 31 市内産の農産物を購入されている方にお伺いします。購入先の多い場所はどこですか？
 選択肢（1）～（6）より選んで、数字を記入してください。（上位3つ）

1位	
2位	
3位	

- <選択肢> (1) 市内の青果店・個人商店
 (2) 市内のスーパーマーケットなど実店舗
 (3) 市内の農産物直売所（JA など）
 (4) 農家の庭先販売所
 (5) 農家や農家グループからの宅配サービス
 (6) その他（具体的に)

問 32 市内の農産物直売所を利用する方にお伺いします。

農産物直売所を利用する理由は何ですか？（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|----------------|-----------------|
| (1) 新鮮だから | (2) 安いから |
| (3) 農家の顔が見えるから | (4) 安全だと思うから |
| (5) 近くにあるから | (6) 品数がたくさんあるから |
| (7) その他（具体的に |) |

問 33 問 30 で「(2) 市内産農産物を購入していない」を選択した方にお伺いします。

購入しない理由は何ですか？（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------------------|----------------------|
| (1) 直売所の存在・場所を知らないから | (2) 直売所などが自宅の近くにないから |
| (3) 近くのスーパーマーケット等には地場産コーナーがないから | |
| (4) 価格が高いから | (5) 欲しい品がないから |
| (6) 購入できる日や時間が限られるから | (7) 生産者をよく知らないから |
| (8) 特に理由はなし | |
| (9) その他（具体的に |) |

8 西東京市の農業・農地の役割についてお伺いします。

問 34 あなたは、西東京市内の農業や農地についてどのように感じていますか？
 （近いと感じるもの3つまで○）

- | |
|-------------------------------|
| (1) 新鮮な農産物を供給している |
| (2) まちの緑を豊かにしている |
| (3) 季節を感じるができる |
| (4) 緑地やオープンスペースとして役立っている |
| (5) 自然や生態系の保全の場として役立っている |
| (6) 子どもの教育や農業体験の場として役立っている |
| (7) 災害時の避難場所として役立っている |
| (8) 季節によっては土埃などが気になることがある |
| (9) 農作業の音や臭いなどが気になることがある |
| (10) 耕作放棄地など荒れている農地が気になることがある |
| (11) あまり関心がない |
| (12) その他（具体的に |

問 35 西東京市の農業について知っていることを教えてください。（あてはまるものすべてに○）

※令和2年度東京都の地域・区市町村別農業データブック（一般社団法人東京都農業会議）データより参照

- (1) 「キャベツ」の生産量が都内で第2位、26市の中で第1位である
- (2) 市内で1番産出額が多い野菜は「トマト」である
- (3) 果樹で産出額がもっとも多いのは「梨」である
- (4) 野菜では、小松菜がキャベツの次に作付面積が多い
- (5) 植木の農地面積は、都内で第5位である
- (6) 市内の農地面積は、市全体の面積の約8%を占めている
- (7) 農地面積は、この10年間毎年約3ヘクタールずつ減少している
- (8) 「めぐみちゃん」は、西東京市の農産物キャラクターの名前である

問 36 農業や農地には、地域の生活と関係する機能が多くあります。

**あなたは、農業や農地が持つ役割について、今後どのようなことに期待されますか？
（特に期待したいと思うもの3つまで○）**

- (1) 市民の日常生活への、新鮮で安全な農産物の供給
- (2) 学校給食等での、新鮮で安全な農産物の供給
- (3) まちなかに農地がある景観風景
- (4) 有機農産物など化学合成農薬と化学肥料を削減してつくられる農産物の推進
- (5) うるおいのある環境（農地の緑での蒸発・蒸散による農地周辺の気温低下など）
- (6) 昆虫などの生物が生息する生態系の維持・保全
- (7) 災害発生時の避難先としてのオープンスペース
- (8) 市民農園・農業体験農園により農業にふれる機会の創出
- (9) 子どもたちが学校教育や情操教育の中で、農業にふれる機会の創出
- (10) 地域の特産物開発（ブランド商品の開発）
- (11) 農産物を活用した料理やイベント等の文化の伝承
- (12) まちの「ブランド力」の向上
- (13) 特に重要性は感じない
- (14) その他（具体的に)

9 農とのふれあいについてお伺いします。

問 37 農業体験など、農とのふれあいについて、どのようなご経験がありますか？

(あてはまるものすべてに○)

- (1) 市民農園^(注)を利用している、又は利用したことがある
- (2) 市内の農業体験農園^(注)を利用している、又は利用したことがある
- (3) 西東京市の農業体験イベントなどに参加したことがある
- (4) 自宅で野菜づくりや園芸を行っている
- (5) 市内の農家のところで、収穫や農作業を行ったことがある
- (6) 農業とのふれあいは特にない
- (7) その他(具体的に)

(注)「市民農園」:市や農業者等が開設した農地に、市民が自らの作付け等により農業体験を行う場所
(農家が管理運営する農地に、市民が自らの作付け等により農業体験を行う場所を含む)

「農業体験農園」:農業者が開設し、市民の方に利用してもらう農園で、利用者の方が農園主のきめ細かい指導とサポートのもとで、農業体験を行う場所

問 38 今後、市民農園や農業体験農園などの農園を利用したいですか？(1つに○)

- (1) 市民農園を利用したい
- (2) 農業者からの指導を受けられる農業体験農園を利用したい
- (3) 市外の農業体験農園などの施設を利用したい
- (4) 農園の利用はしたいとは思わない
- (5) その他(具体的に)

問 39 農作業や、アルバイトやボランティアでの農業の手伝いに興味がありますか？(1つに○)

- (1) 職業として農業を行いたい
- (2) アルバイト(有償)として、農業をやってみたい
- (3) ボランティア(無償)で農業をやってみたい
- (4) 農業技術習得のため、金銭を支払ってでも農業の手伝いをしたい
- (5) 興味はない
- (6) その他(具体的に)

10 過去5年間の農業施策についてお伺いします。

問 40 西東京市の農業振興に向けて、以下のような施策を実施してきました。

これらの事業について、内容を知っているか、重要だと思うかについてお答えください。

記入例	評価	施策毎の認知度					施策毎の重要度				
		よく知っている	少し知っている	あまり知らない	全く知らない	興味・関心がない	重要である	やや重要である	あまり重要でない	重要でない	わからない
施策											
例) 事業1 直売所の利用の促進		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

認知度と重要度 それぞれ1つずつ〇印をつけてください。

【食と暮らしを支える多様な農業】

事業内容・実績	施策毎の認知度					施策毎の重要度				
事業1 直売所の利用の促進										
・市ホームページ、ガイド冊子「おでかけ図鑑」にて直売所を紹介	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
事業2 めぐみちゃんメニューの推進										
・小中学生が考えたメニューの販売 ・わが家のおきレシピ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
・農産物等販売会（マルシェ）の開催	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
・情報発信（ホームページ・Twitter・YouTube）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
事業3 学校給食との連携										
・学校栄養士と農業者の連絡会を開催、共通メニューを市内小中学校・保育園で提供、小中学生が考えたメニューを提供	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
事業4 地域や商店街との連携										
・即売会の実施 ・ファームカーを活用した農産物の直売・農業者のPR	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

【多様な担い手が生きがいややりがいを感じる農業経営】

事業内容・実績	施策毎の認知度					施策毎の重要度				
事業5 農業者と援農ボランティアのマッチング機会の提供・援農ボランティアのスキルアップ										
・「東京の青空塾」修了者と農業者のマッチング ・「広域援農ボランティア」の周知・広報 ・農のアカデミー体験実習農園での農業者による指導	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

【農地の保全と活用】

事業内容・実績	施策毎の認知度					施策毎の重要度				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
事業6 市内農業関係施設の活用推進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
・景観散策会や、寄せ植え体験を実施 ・農業学習（蔵の里事業）や防災訓練を実施										
事業7 災害協力農地の拡大	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
・災害時協力農地の推進										
事業8 農業普及啓発プロジェクトの活用	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
・市内農業関係施設を利用したイベントの実施 ・直売の支援にファームカーを活用										

【農業を通じた交流】

事業内容・実績	施策毎の認知度					施策毎の重要度				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
事業9 イベント等の実施事業	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
・「親子で野菜づくりにチャレンジ」イベントを実施 ・緑のアカデミー事業として植木生産の広報・交流実施 ・イベントでの農の情報発信の充実										
事業10 市民農園の新しい展開										
・使用料の見直し ・「肥培管理マニュアル」の作成 ・マナー遵守の活動の実施 ・情報誌『Apron（エプロン）』の配布	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
事業11 農業体験農園の推進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
・ホームページ等を活用した情報発信 ・市報や市民まつりでの広報の実施、支援 ・開設時に支援（補助金）の実施										

11 最後に

問 41 西東京市の農業施策全般に対して、考えやアイデアがありましたら、ご自由にお答えください。

以上です。ありがとうございました。

(3) 子どもアンケート票

のうぎょうしんこう
西東京市の農業振興のための子どもアンケート調査への
ご協力のお願い

西東京市では、小中学生の皆さんが自分たちの住む西東京市の「農業・農地」について日ごろどのように感じているのかをうかがい、将来どのような西東京市の「農業・農地」になることがいいのか取り組みを検討するためにアンケートを実施することにしました。

今回のアンケート調査をまとめた結果は、市のホームページなどに載せますが、無記名ですので、答えた人はわかりません。

ご協力をよろしくお願いいたします。

令和4年12月

西東京市生活文化スポーツ部産業振興課



西東京市農産物
キャラクター
「めぐみちゃん」

記入上のお願い

- ・設問に従い、あてはまる回答の番号に○をつけてください。
- ・お答えのうち、()の中には、その内容を具体的にご記入ください。

学校名	
学 年	

問1 西東京市に畑など農地は多いと思いますか。(1つに○)

- | | |
|----------------|----------------|
| (1) 多いと思う | (2) どちらかというと思う |
| (3) どちらかというと思う | (4) 少ないと思う |

問2 西東京市の農業といえば、思い浮かぶものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|----------|
| (1) 住宅地の近くにある畑の風景 | (2) キャベツ |
| (3) 保谷梨 | (4) 給食 |
| (5) 直売所 | |
| (6) その他 (具体的に |) |

問3 日ごろ、農業のことを知ったり、学んだりするのはどのようなときですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---|
| (1) 学校の授業で農業に関連した話題が出るとき |
| (2) テレビや新聞、インターネットなどで農業に関連した話題のニュースや広告をみるとき |
| (3) 学校の活動以外で、農業のある場所に行ったとき |
| (5) 本やインターネットで農業に関連した書物や記事などを検索して勉強するとき |
| (6) その他 (具体的に |

問4 あなたは、西東京市内の農業や農地について、どのように感じていますか？

①～⑥について【1：役に立っている 2：役に立っていない 3：わからない】のそれぞれ1つに○をつけてください。

農業や農地の機能	役に立っている	役に立っていない	わからない
①地域の食料をつくるはたらき ・新鮮な農産物を住民に供給している	1	2	3
②まちなみを良くするはたらき ・まちの中にうるおいやゆとりのある景観をつくりだす ・地域らしい景観をつくりだす ・季節を感じるができる	1	2	3
③食を学ぶはたらき ・農地や農産物を利用した教育や食育の場になる	1	2	3
④環境を守るはたらき ・まちの気温を下げて涼しい空気をつくる ・水をきれいにする ・生き物のすみかとなる	1	2	3
⑤交流を生むはたらき ・農業体験などによる交流が生まれる ・緑地やオープンスペースになる	1	2	3
⑥防災に役立つはたらき ・災害時に避難場所になる ・災害時に食べ物や水を提供する	1	2	3

問5 西東京市の農業について知っていることを教えてください。（あてはまるものすべてに○）

※令和2年度東京都の地域・区市町村別農業データブック（一般社団法人東京都農業会議）データより参照

- (1) 東京都の26市の中で「キャベツ」の生産量が第1位である
- (2) 市内で生産された野菜で売上がもっとも高いのは「トマト」である
- (3) 果樹で収穫量がもっとも多いのは「梨」である
- (4) 野菜では、小松菜がキャベツの次に畑に植える面積が多い
- (5) 植木の農地面積は、都内で第5位である
- (6) 市内の農地面積は、市全体の面積の約8%を占めている
- (7) 農地面積は、どんどん減少している
- (8) 「めぐみちゃん」は、西東京市の農産物キャラクターの名前である

問6 農業体験など農とのふれあいについて、どのような経験がありますか？

（あてはまるものすべてに○）

- (1) 家族で市民農園を利用している、または利用したことがある
- (2) 農業体験農園を利用したことがある
- (3) 西東京市の農業体験イベントなどに参加したことがある
- (4) 市外での農業関連イベントに参加したことがある
- (5) 自宅で野菜づくりや園芸を行っている
- (6) 市内の農家のところで、収穫や農作業体験を行ったことがある
- (7) その他（具体的に

問7 西東京市では、農業とのふれあいを目的にした以下のようなイベントを行っています。

知っているイベントがあれば教えてください。（あてはまるものすべてに○）

- (1) 親子で野菜づくりにチャレンジ
⇒市内の畑で市民（親子）が作付け・収穫を体験するイベント
- (2) 「農のアカデミー体験実習農園」での農業体験
⇒種まき、収穫体験
- (3) 「緑のアカデミー」事業
⇒市内産の苗木のアレンジメントなど、市民が緑にふれ合うイベント
- (4) 「農のアトリエ蔵の里」事業
⇒農業や農業者の生活、昔の農業について学ぶ
- (5) 各種農産物販売のイベント（マルシェなど）
- (6) その他（具体的に

問8 農業・農作業に興味がありますか？（あてはまるものすべてに○）

- (1) 農業体験をしてみたい
- (2) 自宅の庭やベランダで野菜などを育ててみたい
- (3) 農業に関連するイベントに参加してみたい
- (4) 農業を将来の職業の選択肢として考えたい
- (5) あまり興味はない
- (6) その他（具体的に)

問9 めぐみちゃんメニューへの参加について、教えてください。（あてはまるものすべてに○）

- (1) めぐみちゃんメニューに^{おうぼ}応募したことがある
- (2) めぐみちゃんメニューを出しているお店で食べたことがある
- (3) 今後もめぐみちゃんメニューを続けてほしい
- (4) その他（具体的に)

※めぐみちゃんメニュー事業：小中学生が考えたメニューの中から、西東京市の野菜や果物を使ってプロが商品化し、限定販売しました。

問10 西東京市の農地・農業に対して、将来の希望や考えがありましたら、ご自由にお答えください。

以上です。ありがとうございました。

西東京市農業振興計画策定に係る調査・報告書

令和5年3月

発行 西東京市産業振興課
西東京市南町五丁目6番13号（田無第二庁舎）
電話 042-420-2820